

勉誠出版

研究書 新刊・近刊のご案内

2020.01～近刊

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-18-4

TEL03-5215-9021 / FAX03-5215-9025

Website=<http://bensei.jp/>

Email=info@bensei.jp

最新の出版総合目録は
右のQRコードから
アクセスいただけます！



勉誠出版 注文書	ご送付先(氏名・住所・電話番号)
Email info@bensei.jp FAX 03-5215-9025	
※メール、FAX、郵送にてご注文を承ります。 ※弊社ホームページのホーム画面上部のバナー「研究書 新刊・近刊のご案内」、もしくはお知らせ欄「研究書 新刊・近刊のご案内」より、注文書(PDFかエクセル)をダウンロードしてご記入のうえ、メールかFAXにて、お送りください。 ※メールやFAXの送り状の本文に直接ご注文内容をご記載いただくかたちでも結構です。	通信欄 ※お支払い方法(公費・私費)、必要書類はこちらにご記入ください

※ISBNは978-4-585と末尾のチェックデジットを省略しています。

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	税込価格	冊数
◆近刊(ご予約受付中!)						
* 慶應義塾図書館蔵 論語疏卷六 慶應義塾大学附属研究所所道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究	慶應義塾大学論語疏研究会 編	2021/10	31004	18,000	19,800	
* 室町文化の座標軸—道明船時代の列島と文事	芳澤元 編	2021/10	32011	9,800	10,780	
* 従軍日記と報道挿絵が伝える庶民たちの日露戦争	西川武 著	2021/10	32008	3,800	4,180	
* 英国初期印刷本研究への誘い—書誌学から文学・社会・歴史研究へ	向井剛 著	2021/10	32012	6,000	6,600	
* 水門—言葉と歴史 No.30	水門の会 編	2021/10	32461	3,000	3,300	
* 近代日本語教科書語彙索引	伊藤孝行 編	2021/10	38002	8,000	8,800	
* 書物に魅せられた奇人たち(仮)—英国愛書家列伝(仮)	高宮利行 著	2021/10	39005	予価3,800	4,180	
* 人物から知る 妖怪学前史(仮)—明治から昭和まで(仮)	伊藤慎吾・水屋亭永泉 編	2021/10	32010	予価2,800	3,080	
* 合戦図 描かれたく武>	中根千絵・薄田大輔 編	2021/11	32013	16,000	17,600	
* 中世神道入門	伊藤聡・門屋温 監修/新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也 編	2021/11	31006	3,800	4,180	
* 玄奘三蔵—新たな玄奘像をもとめて	佐久間秀範・近本謙介・本井牧子 編	2021/11	31005	12,000	13,200	
* 中国史書入門 現代語訳 北齊書	氣賀澤保規 監修/池田恭哉・岡部毅史・梶山智史・倉本尚徳・田熊敬之 訳	2021/秋	29612	6,000	6,600	
* 坂口安吾大事典(仮)	安藤 宏・十重田裕一・大原祐治 編集代表	2021/秋	20079	15,000	16,500	
◆新刊						
* 日本中世社会と村住人	蔵持重裕 編	2021/9	32009	9,500	10,450	
* 古建築調査ハンドブック	山岸常人・岸泰子・登谷伸宏 著	2021/8	35000	1,400	1,540	
* 日本古代の仏教者と山林修行	小林崇仁 著	2021/8	31003	12,000	13,200	
* 中世武家領土の世界—現地と文献・モノから探る	田中大喜 編	2021/8	32003	3,800	4,180	
* 戦国時代劇メディアの見方・つくり方—戦国イメージと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2021/9	32006	3,200	3,520	
* 近世の村と百姓	渡辺尚志 著	2021/8	32002	9,800	10,780	
* 杉田玄白と江戸の蘭学塾—「天眞樓」塾とその門流	片桐一男 著	2021/7	32004	7,000	7,700	
* 首里城を解く—文化財継承のための礎を築く	高良倉吉 監修/鳥村幸一 編	2021/9	32001	3,800	4,180	
* 話話の東アジア—『今昔物語集』を中心に	高陽 著	2021/9	39004	12,000	13,200	
* 怪異学講義—王権・信仰・いとなみ	東アジア怪異学会 編	2021/9	32007	3,200	3,520	
* もう一度読みたい日本の古典文学	三宅晶子 編	2021/7	39001	2,400	2,640	
* 谷崎潤一郎 美と生命の間	柴田勝二 著	2021/7	39003	3,600	3,960	
◆事典・総記						
* 江戸川乱歩大事典	落合教幸・阪本博志・藤井淑禎・渡辺司 編	2021/3	20080	12,000	13,200	
文化情報事典	村上征勝 監修/金明哲・小木曾智信・中園聡・矢野桂司・赤間亮・阪田真己子・宝珍輝尚・芳沢光雄・渡辺美智子・足立浩平 編	2019/12	20071	18,000	19,800	
◆歴史・文化財・美術史・思想史						
* 書物・印刷・本屋—日中韓をめぐる本の文化史	藤本幸夫 編	2021/6	30002	16,000	17,600	
* 古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/1	22277	3,000	3,300	
* 増補改訂新版 日本中世史入門—論文を書こう	秋山哲雄・田中大喜・野口華世 編	2021/2	22280	3,800	4,180	
古文書の様式と国際比較	小島道裕・田中大喜・荒木和憲 編	2020/2	22272	7,800	8,580	
日本の装表と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/3	20073	7,000	7,700	
* 古文書研究 第91号	日本古文書学会 編	2021/6	32401	3,800	4,180	
* 古文書研究 第90号	日本古文書学会 編	2020/12	22417	3,800	4,180	
* 渤海の古城と国際交流	清水信行・鈴木靖民 編	2021/2	22289	14,000	15,400	
古代の日本と東アジア 人とモノの交流史	鈴木靖民 著	2020/7	22279	10,000	11,000	
新羅中古期の史的探究	武田幸男 著	2020/7	22278	12,000	13,200	
* 大嘗祭—隠された古層	工藤隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 編	2021/1	21057	3,800	4,180	
* 中世寺院の仏法と社会	永村真 編	2021/5	31001	12,000	13,200	
* 中世の博多とアジア	伊藤幸司 著	2021/2	22300	9,500	10,450	
* 戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/2	22301	9,000	9,900	
金沢文庫古文書 喫茶関係編年資料集	永井晋 編	2020/9	22288	10,000	11,000	
* 鷹狩の日本史	福田千鶴・武井弘一 編	2021/2	22297	3,800	4,180	
* 中近世移行期の文化と古活字版	高木浩明 著	2020/12	20077	15,000	16,500	
歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/2	22257	10,000	11,000	
近世大名墓の考古学—東アジア文化圏における思想と祭祀	松原典明 編	2020/6	22276	12,000	13,200	
* 儒教儀礼と近世日本社会—間齋学派の『家礼』実践	松川雅信 著	2020/7	21056	10,000	11,000	
* 甕にたれた由緒—近世大和国諸社と在地神道家	向村九音 著	2021/6	31002	8,000	8,800	
* 勤番武士の江戸滞在記—国枝右馬江戸語中日記	岩淵治治 編	2021/5	32000	10,000	11,000	
生きるための地域史—東海地域の動態から	中村只吾・渡辺尚志 編	2020/10	22290	8,000	8,800	
日本近世社会と町役人	望月良親 著	2020/2	22286	6,000	6,600	
近世豪商・豪農の(家)経営と書物受容—北奥地域の事例研究	鈴木淳世 著	2020/2	22265	10,000	11,000	
近世都市の常態と非常態—人為的自然環境と災害	渡辺浩一/マシュー・デーヴィス 編	2020/2	22267	7,000	7,700	
江戸日本橋商人の記録—(にんべん)伊勢屋高津伊兵衛家の古文書	澤登寛聡・筑後則 編	2020/3	22269	11,000	12,100	
甕に「豊後切支丹史料」—パチカン図書館蔵マレガ氏収集文書より	松井洋子・佐藤孝之・松澤克行 編	2020/2	22261	12,000	13,200	
琉球船漂着者の「聞書」世界—『大島筆記』翻刻と研究	島村幸一 編	2020/3	29197	10,000	11,000	
新彰義隊戦史	大藏八郎 編	2020/9	22285	7,000	7,700	
* 明治の一発屋芸人たち—珍芸四天王と民衆世界	永積重敏 著	2021/1	27058	3,500	3,850	
* アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって	小山勝 著	2020/11	20078	4,200	4,620	
* 土地の記憶から読み解く早稲田—江戸・東京のなかの小宇宙	ローザ・カローリ 著/大内紀彦、フリッポ・ドルネッティ 訳	2021/3	22299	2,700	2,970	
ロマンフ王朝時代の日露交流	東洋文庫・生田美智子 監修/牧野元紀 編	2020/8	22286	3,800	4,180	
スイス使節団が見た幕末の日本—ブレンワルド日記1862-1867	横浜市ふるさと歴史財団・ブレンワルド日記研究会 編	2020/6	22275	9,800	10,780	
日本建築の歴史の評価とその保存	山岸常人 著	2020/2	22268	17,000	18,700	
日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/4	27055	6,500	7,150	
* ハブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦【オンデマンド新版】	菅豊・北條勝貴 編	2021/5	82254	4,800	5,280	
* 新装版 唐物と東アジア—舶載品をめぐる文化交流史	河添房江・皆川雅樹 編	2021/4 二刷 (2016/2 初版)	22140	2,000	2,200	
* 観相の文化史	相田満 著	2021/2	29203	9,000	9,900	
* 改訂新版 中国学入門—中国古典を学ぶための13章【オンデマンド版】	二松学舎大学文学部中国文学科 編	2021/4	80056	1,600	1,760	
宋代中国都市の形態と構造	伊原弘 著	2020/6	22069	4,500	4,950	
描かれたマカオ—ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 編	2020/4	22262	22,000	24,200	
上海におけるプロテスタント—現代中国の都市と宗教空間をめぐる変遷	村上志保 著	2020/5	21055	6,000	6,600	
* ラジオの技術・産業の百年史—大衆メディアの誕生と変遷	岡部匡伸 著	2021/3 二刷 (2020/1 2初版)	22295	5,400	5,940	
* 絶滅危惧種を喚ぶ	秋道智彌・岩崎望 編	2021/1	24014	3,200	3,520	
* バリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生—歴史・信仰・空間から考える	坂野正則 編	2021/3	31000	8,000	8,800	
* モノアメリカ文明ゼミナール	伊藤伸幸 監修/嘉幡茂・村上達也 編	2021/1	22296	5,000	5,500	

書名	編著者	刊行年月	ISBN	本体価格	税込価格	冊数
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 2 ナチズム・ホロコーストと戦後ドイツ	石田勇治・川喜田敦子 編	2020/9	22513	6,000	6,600	
現代ドイツへの視座—歴史学的アプローチ 3 ドイツ市民社会の史的展開	石田勇治・川喜田敦子・平松英人・辻英史 編	2020/9	22514	6,000	6,600	
「本読み」の民俗誌 交叉する文字と語り	川島秀一 著	2020/6	23081	3,500	3,850	
メディアのなかの仏教 近現代の仏教的人間像	森覚 編	2020/5	21054	7,500	8,250	
洗沢敬三とアテック・ミュージアム—知的共鳴が創り上げた人文学の理想郷	加藤幸治 著	2020/1	22263	3,500	3,850	
荒野の六十年—東アジア世界の歴史地政学	與那覇潤 著	2020/1	22264	3,200	3,520	
◆古典文学・文学史						
* 物語文学の諸相と展開	中野幸一 著	2021/3	39000	12,000	13,200	
* 中世和歌論—歌学と表現と歌人	中川博夫 著	2020/11	29199	12,000	13,200	
* 和漢朗詠集とその享受 増訂版	三木雅博 著	2021/1	29202	15,000	16,500	
* 真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	玉城小・小幡伍 編著	2021/2	29204	9,000	9,900	
* 中国古典文学に描かれた劇・井戸・簀—民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2020/11	29200	9,000	9,900	
* 韓国・朝鮮説話学の形成と展開	金廣植 著	2021/2	29201	11,000	12,100	
挑発する軍記	大津雄一 著	2020/10	22292	3,800	4,180	
江戸庶民のまじない集覧—創意工夫による生き方の智慧	長友千代治 著	2020/10	20076	6,000	6,600	
医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/2	20072	12,000	13,200	
水門—言葉と歴史 第二十九号	水門の会 編	2020/1	22443	3,500	3,850	
本朝文粹抄 六	後藤昭雄 著	2020/2	29224	3,200	3,520	
仙洞句題五十首・水無瀬恋恋十五首歌合 全注釈	石川一 編	2020/3	29195	10,000	11,000	
南方熊楠と日本文学	伊藤慎吾 著	2020/3	22270	7,000	7,700	
幕末明治の社会変容と詩歌	青山英正 著	2020/2	29196	10,000	11,000	
明治の教養—変容する(和)〈漢〉〈洋〉	鈴木健一 編	2020/1	29193	7,500	8,250	
杜甫研究年報 第三号	日本杜甫学会 編	2020/5	29443	2,000	2,200	
* 杜甫研究年報 第四号	日本杜甫学会 編	2021/4	29444	2,000	2,200	
お伽草子超入門	伊藤慎吾 編	2020/7	29188	2,800	3,080	
白居易研究年報 最終号・第20号 特集 歌舞音曲—附 日本国内白居易研究文献解題目録	白居易研究会 編	2020/9	07098	9,000	9,900	
吉田松陰と学人たち	徳田武 著	2020/9	22291	10,000	11,000	
漱石文見本帳	北川扶生子 著	2020/12	9189	2,800	3,080	
ビジュアル資料でたどる 文豪たちの東京	日本近代文学館 編	2020/4	29163	2,800	3,080	
* 【鉄幹晶子全集40】鉄幹晶子全集 別巻8—拾遺篇 書誌・年譜	逸見久美ほか 編	2021/5	01093	9,000	9,900	
同性愛文学の系譜—日本近代文学におけるLGBT以前／以後	伊藤氏貴 著	2020/2	29191	2,800	3,080	
平川祐弘決定版著作集 ダンテ『神曲』講義	平川祐弘 著	2020/2	29422	10,000	11,000	
平川祐弘決定版著作集 西洋人の神道観—日本人のアイデンティティを求めて	平川祐弘 著	2020/3	29416	8,000	8,800	
平川祐弘決定版著作集 東の自生観と西の創造観	平川祐弘 著	2020/3	29428	4,000	4,400	
平川祐弘決定版著作集 開国の作法	平川祐弘 著	2020/4	29429	4,000	4,400	
平川祐弘決定版著作集 アーサー・ウェイリー『源氏物語』の翻訳者	平川祐弘 著	2020/7	29424	14,000	15,400	
アメリカ現代詩入門—エズラ・パウンドからボブ・ディランまで	原成吉 著	2020/2	29192	3,500	3,850	
100人の作家で知る ラテンアメリカ文学ガイドブック	寺尾隆吉 著	2020/3	29194	2,800	3,080	
◆日本語学・言語学						
* ベトナム語空間ダイクシスとその展開—指示詞から文末詞・感動詞へ	安達真弓 著	2021/5	38001	10,000	11,000	
* 日本語学論の挑戦—表記・文字・文法を考えるための17章	加藤重広・岡塔裕剛 編	2021/3	38000	7,000	7,700	
* コーパスと近代日本語書き言葉の一人称代名詞の研究	近藤明日子 著	2021/2	28052	8,500	9,350	
日本書紀声点本の研究	鈴木豊 著	2020/3	28048	14,000	15,400	
龍谷大学図書館蔵 黒谷上人語燈録 元亨版 翻刻および総索引	佐々木勇 主編	2020/4	28050	18,000	19,800	
近世後期テニラハ論の展開と活用研究	遠藤佳那子 著	2020/1	28047	8,000	8,800	
論究日本近代語 第1集	日本近代語研究会 編	2020/3	28521	15,000	16,500	
サハ語文法—統語的派生と言語類型論的特異性	江畑冬生 著	2020/4	28049	9,800	10,780	
統 岐点の軌跡 老いてなお岐点あり—老いてなお岐点あり	北原保雄 著	2020/4	28503	4,500	4,950	
◆図書館学・アーカイブ						
* 大宅宅—文庫解題新書—雑誌図書館の全貌とその研究活用	阪本博志 編	2021/5	30001	3,500	3,850	
* 日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/3	20074	3,500	3,850	
ささあう図書館—「社会装置」としての新たなモデルと役割【オンデマンド版】	青柳英治 編著／岡本真 監修	2021/3	90039	1,800	1,980	
* 【デジタルアーカイブ・ベジックス3】自然系・理工系研究データの活用	井上透 監修／中村貴 責任編集	2020/4	20283	2,500	2,750	
* 【デジタルアーカイブ・ベジックス4】アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	20284	2,500	2,750	
* 【デジタルアーカイブ・ベジックス5】新しい産業創造へ	時美象一 監修／久永一郎 責任編集	2021/5	20285	2,500	2,750	
* 【ライブラリーぶっくす】司書のお仕事2 本との出会いを届けます	大橋崇行 著／小曾川真貴 監修	2020/10	20075	1,800	1,980	
* 【ライブラリーぶっくす】変化する社会とともに進む学校図書館	野口武悟 著	2021/4	20081	2,200	2,420	
◆統計学						
この本を書いたのは誰だ？—統計で探る“文章の指紋”	村上正勝 著	2020/4	29198	1,800	1,980	
R・Pythonによる 統計データ科学	杉山高一・藤越康祝 監修	2020/2	24011	2,700	2,970	
◆アジア遊学						
242 中国学術の東アジア伝播と古代日本	榎本淳一・吉永匡史・河内春人 編	2020/1	22708	2,800	3,080	
243 中央アジアの歴史と現在—草原の叢書	松原正毅 編	2020/3	22709	2,400	2,640	
244 前近代東アジアにおける〈術数文化〉	水口幹記 編	2020/3	22710	3,200	3,520	
245 アジアの死と鎮魂・追善	原田正俊 編	2020/3	22711	2,800	3,080	
246 和漢のコードと自然表象—十六、七世紀の日本を中心に	島尾新・宇野瑞木・亀田和子 編	2020/4	22712	2,800	3,080	
247 移動するメディアとプロバガンダ —日中戦争期から戦後にかけての大衆芸術	西村正男・星野幸代 編	2020/4	22713	2,800	3,080	
248 明治が歴史になったとき 史学史としての大久保利謙	佐藤雄基 編	2020/6	22714	2,800	3,080	
249 漢学とは何か 漢唐および清中後期の学術世界	川原秀城 編	2020/7	22715	2,800	3,080	
250 酔いの文化史 儀礼から病まで	伊藤信博 編	2020/8	22716	2,800	3,080	
251 仏教の東漸と西漸	荒見泰史 編	2020/9	22717	2,800	3,080	
252 中世日本の茶と文化 生産・流通・消費をとおして	永井晋 編	2020/9	22718	2,800	3,080	
253 ポストコロナ時代の東アジア 新しい世界の国家・宗教・日常	玄武岩・藤野陽平 編	2020/9	22719	2,800	3,080	
* 254 東アジアの歌と文学	真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 編	2021/2	32500	2,800	3,080	
* 255 東アジアにおける知の往還	国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 共編	2021/3	32501	2,800	3,080	
* 256 元朝の歴史—モンゴル帝国期の東ユーラシア	櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉 編	2021/6	32502	3,200	3,520	
* 257 交錯する宗教と民族—交流と衝突の比較史	鹿毛敏夫 編	2021/7	32503	2,800	3,080	
* 258 史料が語る東インド航路—移動がうみだす接触領域	水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志 編	2021/7	32504	2,800	3,080	
* 259 書物のなかの近世国家—東アジア「統一統志」の時代	小二田章・高井康典行・吉野正史 編	2021/8	32505	3,000	3,300	
* 260 アヘンからよむアジア史	内田知行・権寧俊 編	2021/9	32506	2,800	3,080	
* 261 古典は遺産か？—日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造	Edoardo GERLINI・河野貴美子 編	2021/10	32507	2,800	3,080	
* 262 資料論がひらく軍記・合戦図の世界—理文融合型資料論と史学・文学の交差	井上泰至 編	2021/10	32508	3,200	3,520	
◆書物学						
第18巻 蔵書はめぐる 海外図書館の日本古典籍コレクション	編集部 編	2020/7	20718	1,800	1,980	

* 詳細はチラシ・パンフレットをご覧ください。 **チラシ準備中です。

幕末以降所在不明であつた
最古級の『論語』注釈写本が再発見された――
慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

慶應義塾図書館蔵

論語疏 卷六

ろんごそまきろく

慶應義塾大学

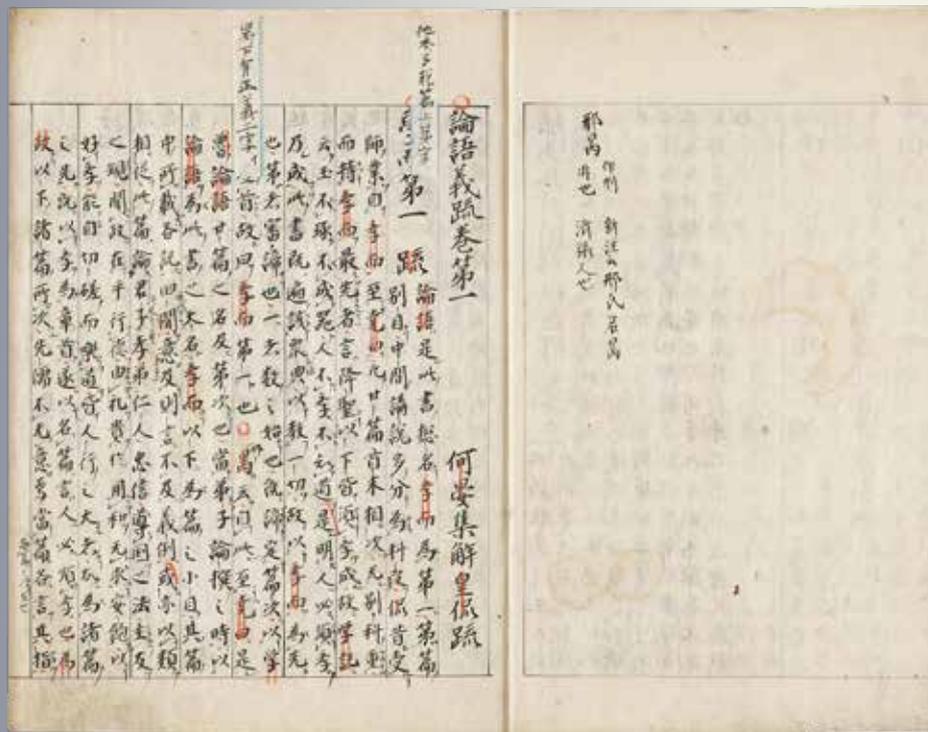
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

ろんごそ

影印と解題研究

慶應義塾大学論語疏研究会(編)



国宝級の
最古写本の全編を
原寸原色にて
提供する決定版!

本体一八、〇〇〇円(十税)

A4判・上製函入・四七二頁

二〇二一年一〇月刊行

ISBN978-4-585-31004-4 C3010

勉誠出版

〔注文書〕

慶應義塾図書館蔵

論語義疏卷六

慶應義塾大学
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

慶應義塾大学
論語疏研究会〔編〕

影印と解題研究

本体18,000円(+税)
A4判・上製函入
472頁(カラー336頁)
2021年10月刊行
ISBN978-4-585-31004-4 C3010

ご送付先ご住所(通信欄)

ご注文部数

貴店番線印

勉誠出版

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-18-4
TEL.03-5215-9021 FAX.03-5215-9025
Website=http://bensei.jp
Email=info@bensei.jp

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店、あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。

慶應義塾図書館蔵

論語義疏卷六

〔論語〕子罕篇と郷党篇(通行本巻五)の、ほぼ全文を伝える中国写本。字体、字様などの書写相や、装訂、紙質など書籍形態の比較検討から、原著成立から一〇〇年を経ない時期の写本と目され、最古級の伝本と位置付けられる。また、平安時代の日本の印記がありそれ以前に伝来した点にも価値がある。古代以来、朝廷周辺で秘蔵された文献である様相も有する、日本漢学の淵源となった書籍として歴史的意义も備わる。

慶應義塾大学
附属研究所斯道文庫蔵

論語義疏

文明十九年書写。『論語』の室町期写本群の中でも、最も整った姿を備える伝本。室町期特有の略字体を有し、全編を通じて統一した訓点を施した特徴をもつ。また、慶應義塾図書館蔵『論語疏』巻六との対校によって、その本文の価値が確かめられることから、『論語』二十篇を完存する『義疏』室町写本群研究に大きく寄与する。

国宝級の最古写本の全編を 原寸原色にて提供する決定版!

東アジア漢字文化圏の古典として広く諸国・諸地域の文化・思想に大きく影響を与えた『論語』。二〇一七年、幕末以降所蔵不明であった最古級の『論語』の注釈書である『論語疏』が日本国内において再発見され、二〇二〇年には展示公開、広く報道がなされた。

慶應義塾大学図書館蔵『論語疏』巻六である。

同書は南北朝から隋時代(六〜七世紀初頭)における中国写本であり、『論語』およびその注釈として、さらには同時代の写本として類を見ない逸品である。本書では、同『論語疏』の全編をフルカラー原寸大で影印、初公開する。

さらには、室町期の写本群のなかでも、最も整った完本である、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵『論語義疏』(文明十九年書写大槻本)の全編もフルカラーで影印。斯界の第一線をリードする研究者による詳細な解題・翻刻・校勘記を備えた決定版。

【目次】

前言：佐藤道生

●影印

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』

●解題研究

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 解題：住吉朋彦

附 橋本経亮編『遠年紙譜』所収「皇侃義疏料紙」について：一戸渉

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕寫本『論語疏』巻六 翻印並に校記：種村和史

附 慶應義塾大学図書館蔵 『論語疏』巻六校記舉例 義疏の部：種村和史

慶應義塾大学図書館蔵 〔南北朝末隋〕写本『論語疏』巻六 清家文庫本校記：齋藤慎一郎

附 慶應義塾大学図書館蔵 『論語疏』巻六の文献価値

——日本漢学研究資料としての特色：齋藤慎一郎

慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 文明十九年写本『論語義疏』 解題：住吉朋彦

附 慶應義塾大学附属研究所 斯道文庫蔵 旧鈔『論語義疏』伝本解題：住吉朋彦

芳澤元…………… [編]

室町文化の座標軸

遣明船時代の列島と文事

金閣・銀閣の煌めきに隠れた「日本文化」の分水嶺を探る。

大きく飛躍した21世紀の室町時代研究が向かう次なるステージは、現代日本の起源といわれた「室町文化史」の検証、再構築にある。義満・義持・義教の執政期である応永・永享年間を中心に隆盛した、能・連歌・床の間・水墨画……。その創造を支えたものとは何だったのか。都鄙の境を越え、海域を渡った人びとが残した足跡、ことば、思考を、歴史学・文学研究の第一線に立つ著者たちが豊かに描き出す必読の書。

目次

まえがき ● 芳澤元

総論

室町文化論構想ノート——都鄙関係・境界地域からの見直し ● 芳澤元

第一部 文化を育てる社会構造

「室町時代」の地域性 ● 山田徹
室町期の大名被官と都鄙の文化的活動 ● 川口成人
室町期東国の政治・社会秩序 ● 江田都夫
足利將軍家の規範先例——「義満型」と「義持型」なる二類型と応永という時代 ● 石原比伊呂

第二部 室町文化の知識の源泉

年号「応永」考 ● 臼井和樹
句題和歌と唐宋詩——出典から見た問題 ● 小川剛生
日本中世禅林における中国文学受容について——応永年間を中心に ● 太田亨
世阿弥の能楽論における朱子学の影響——「大学」「中庸」の引用及び世阿弥の心身論・抽象論の形成 ● 重田みち

第三部 諸芸の展開とその時代

足利義持の和歌・連歌とその周辺 ● 山本啓介
応永後期の能と演者 ● 中嶋謙昌
後土御門天皇と連句文芸——文芸を導く天皇 ● 小山順子
連歌師宗祇、日明勘合貿易関与説の疑点 ● 廣木一人
宗祇旧知の入明僧「吉祥院」とは誰か ● 橋本雄
あとがき ● 芳澤元

【編者紹介】

芳澤元（よしざわはじめ）
明星大学人文学部准教授。
専門は日本中世史、仏教文化史。
著書に『日本中世社会と禅林文芸』（吉川弘文館、二〇一七年）、『足利將軍と中世仏教』（相国寺教化活動委員会、二〇一九年）、論文に『中世後期の社会と在俗宗教』（『歴史学研究』97号、二〇一八年）、『梅尾茶・醍醐茶の評判』（十四世紀高山寺の喫茶文化）（永井晋編『中世日本の茶と文化——生産・流通・消費をとらえて』アジア遊学252、勉誠出版、二〇二〇年）などがある。

定価 10,780円(税込)
本体 9,800円
A5判上製カバー装・448頁
ISBN978-4-585-32011-1 C3021
2021年10月刊行

書名	部数
室町文化の座標軸 遣明船時代の列島と文事 芳澤元 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価 10,780円(税込) / 本体9,800円
A5判上製カバー装・448頁
2021年10月刊行
ISBN978-4-585-32011-1 C3021

西川武臣〔著〕

一九五五年愛知県生まれ。明治大学大学院文学研究科史学専攻博士前期課程修了。博士（史学）。専門は日本近世・近代史。現在、横浜開港資料館館長。主な著書に『リー来航』中公新書（二〇一六年）『幕末・明治の国際市場と日本』雄山閣出版（一九九七年）『神奈川県の歴史（第二版）』共著、山川出版社（二〇一三年）『横浜開港と交通の近代化』日本経済評論社（二〇〇四年）ほか多数。

従軍日記と

報道挿絵が

伝える庶民たちの

日露戦争



明治三十七（一九〇四）年、日露戦争勃発。

戦争は全国どこにもある、ありふれた農村で育った二十代の青年にも縁遠いものではなかった。

日露戦争の旅順攻囲戦に従軍した上等兵の出立、

戦地での戦闘と苦難、凱旋帰郷までを詳細に記述した、

一兵士が記録したものとしては他に類を見ない豊富な内容を持つ従軍日記の全編を活字化し紹介。

また、詳細な挿絵により世界の最新ニュースを伝えたフランスの報道雑誌

『イリュストラシオン』より日露戦争関連の挿絵31点を抜粋・集成。

さらには、日露戦争当時に発刊され、絵画を交え人々に戦況を伝えた

『征露図会』から関連記事を抜粋し活字化。

当時の庶民たちが戦争に際し、何を感じ、何を考えたかを知るための貴重資料。

庶民にとって

近代化とは、戦争とは

何であったのか

定価 四、一八〇円（税込）

（本体三、八〇〇円）

A5判並製カバー装・二四〇頁

二〇二一年十月刊行

ISBN978-4-585-32008-1 C1021



1904年3月12日号
駅頭での出兵の光景

収録

第1部 日露戦争日記

第2部 フランスの挿絵新聞「イリュストラシオン」が伝えた日露戦争

第3部 「征露図会」・「凱旋図会」の記事から

[コラム1] アメリカ赤十字社員の日露戦争傷病兵の看護

[コラム2] イギリス王家の使節派遣

[コラム3] ヨーロッパ諸国での戦争報道

書名

従軍日記と報道挿絵が伝える
庶民たちの日露戦争

西川武臣〔著〕

ご送付先ご住所（通信欄）

部数

定価 4,180円・本体3,800円

A5判並製カバー装・240頁

2021年10月刊行

ISBN978-4-585-32008-1 C1021

部

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

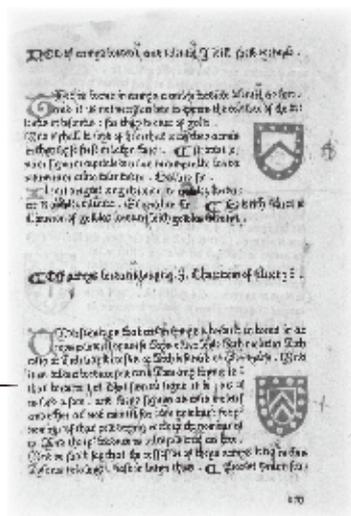
英国初期印刷本 研究への誘い

書誌学から文学・社会・歴史研究へ

向井 剛 [著]

テキストは生きている——

英国初期印刷本(1475～1640年)の出版時、
現代とは異なる本文意識、著者意識のもと、
読者代表としての印刷家(植字工)による本文介入が行われ、
テキストは活字により固定化されていった。
『アーサーの死』・『セントオルバンスの書』・
『トロイルスとクリセイデ』など10の実例をとおし、
タイトルページの変遷、版の違い、本文異同と派生などを
丹念に検討し、書誌学の立場から分析・解明する。
作者－印刷家－読者の間で揺れる
イギリス印刷黎明期の作品テキストの分析から、
文学・文化・歴史研究の新たな領域をひらく快著。



【目次】

- はじめに 振り向きば未来——中世の本文意識
- 第1章 写本アンソロジーから刊本合冊本へ
——著者意識と「作品集」の誕生
- 第2章 タイトルページの変容
——出版がサイオン修道院の壁を超える
『良心の訓令集』(The Directory of Conscience, 1527年・1534?年) 考察
- 第3章 標題『アーサーの死』(Le Morte Darthur)の謎
——W. コープランド版(1557年)を探る
- 第4章 領有されるテキスト
——The Book of St. Albans(1486年)とThe Gentlemans Academie(1595年)
- 第5章 編者の読みとテキスト固定
——空白のフォリオ番号から読むW. シン版(1532年)トロイルス物語
- 第6章 印刷家と作者の協働
——『完徳への巡礼』(Pylgrimage of Perfeccyon, 1526年・1531年) 考察
- 第7章 初期印刷本期のテキスト編集
——チョーサーのR. ピンソン版(1526?年)『鳥たちの議會』
- 第8章 キャクストン版『アーサーの死』(1485年)と印刷用原稿のゆくえ
- 第9章 ド・ウォード版マロリー(1498年)の本文挿入と奥書
——読みのずらしと作品受容
- 第10章 W. スタンスビー版マロリー『アーサーの死』(1634年)
——本文から序文を読みなおす

注
図版出典一覧と再掲の謝辞
文献案内
初出一覧
あとがき
索引/人名・作品名索引/事項索引

【著者プロフィール】

向井 剛 (むかい つよし)

1952年生まれ。大阪教育大学大学院修士課程修了。長崎大学、鳴門教育大学を経て、福岡女子大学で教育研究活動。福岡女子大学名誉教授(2017年)。日本中世英語英文学会会長(2013-2015年)。現在、同大学学長。中世英語英文学(特にアーサー王物語)を研究対象とし、ホンダ・CR-Z、スバル・インプレッサ・スポーツを愛車とする。

定価 **6,600** 円/本体価格 6,000 円
A5判上製カバー装・248頁+カラー口絵2頁
ISBN978-4-585-32012-8 C3022
2021年10月刊行

書 名	部 数
英国初期印刷本研究への誘い 書誌学から文学・社会・歴史研究へ 向井 剛 [著]	定価 6,600 円/本体価格6,000円 A5判・上製カバー装・248頁+カラー口絵2頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32012-8 C3022
ご送付先ご住所 (通信欄)	

小特集 伝・賛と肖像の文学史

本体 3,000円(+税)

A5判・並製・288頁

ISBN978-4-585-32461-4 C1320

2021年10月刊行

水門の会「編」

歴史文化研究の交流拠点、開港。

歴史学・文学・言語学・民俗学など諸学の粋を集め、ジャンルを越えた新たな学問世界への扉を開く。

水門
言葉と歴史

もくじ

小特集 伝・賛と肖像の文学史

巻頭言「伝・賛と肖像」研究の可能性

——日本・イタリア・フランス国際共同シンポジウムを終えて◎藏中しのぶ
禅と茶の湯——『禪茶録』にいたるまで◎フレデリック・ジラルド

『唐才子伝』の排列構造◎三田明弘

『南総里見八犬伝』第九輯下帙之上口絵群第六図の「賛」と「肖像」

——曳手・単節姉妹の名詮自性を軸として◎安保博史

八犬仙の賛と肖像

——『南総里見八犬伝』八犬仙山中遊戯図と「七仏通戒偈」・『維摩経』◎藏中しのぶ

魚屋北溪画、桃契園真友狂歌・摺物「ゆや」攷

——摺物にみる謡曲「熊野」と狂歌◎高木ゆみ子

世良田東照宮蔵「三十六歌仙扁額」の後補本文

——「壬生忠岑」「大中臣頼基朝臣」の補修をめぐる◎オレグ・プリミアニ

馬の絵画と文学

——ステイペルト博物館蔵『馬毛同異図』をめぐる◎アントニオ・マニエリ

『訓蒙図彙』と『三才図会』の図像——『訓蒙図彙』初版本図像改変の手法◎楊世瑾

東大寺二月堂「青の階段」の吉祥文様と観音世界◎田中教子

宗祇と芭蕉——「時雨の翁」としての芭蕉像の成立をめぐる◎安保博史

講評「伝・肖像・讃」をまとめて考える◎相田満

講評 パリ国際大都市日本館主催日仏共同国際シンポジウム「日本文化における題画

文学——伝・賛と肖像の文学史・「茶の湯・香と座の文芸——江戸の絵入り百科事典

『茶譜』の世界◎トウンマン・武井典子

* * *

鎌倉後期における「欄腰法」——無住道暁の周辺を中心に◎佐々木雷太

北岸佑吉旧蔵能楽写真等リスト——「関西の戦後二十年」を中心に◎関屋俊彦

大阪の宮武外骨◎浦和男

* * *

『箋注倭名類聚抄』注釈・巻第一・天地部第一・景宿類一

「月」弦月◎洲脇武志／「暈」◎桑原一歌

「望月」◎恵阪由紀子／「蝕」◎丹羽雄一

* * *

《研究ノート》『満洲語繙訳水滸傳』(Sui hu bithe)を扱って

——あしあとをたどりつつ◎寺村政男

『詩経』における漢語のオノマトペ——動物篇◎王則堯

AA研IRCにて公開した『清文集書』デジタル化資料について◎早田清冷

『唐話纂要』「常言」訳と「訳文筌蹄」題言十則——「雅と俗」の視点より◎耿蘭

彙報・編集後記◎安保博史・藏中しのぶ

書名	部数
水門 言葉と歴史 No.30	本体3,000円(+税)
水門の会「編」	A5判並製・360頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32461-4 C1320
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】



権力に対峙した人びとは 如何にしたたかに生き抜いたのか

中世日本、村に生きた人々は、
権力の支配に接触、抵触しつつ、
それぞれの選択と行動をもって、
生存の在り方を模索していた。
残された史料を丁寧に読み込むことにより、
地に足をつけ、働き廻る、
生きるためには戦もいとわないう
普通の住民たちの動態的な歴史社会像を描き出す。

【编者紹介】

蔵持重裕(くらもちしげひろ)

立教大学名誉教授。専門は日本中世史。
著書に『日本中世村落社会史の研究』(校倉書房、一九九六年)、『中世村落
の形成と村社会』(吉川弘文館、二〇〇七年)、編著に『中世の紛争と地域社
会』(岩田書店、二〇〇九年)などがある。

【目次】

はじめに：蔵持重裕

序論 日本中世村研究の道径：蔵持重裕

一◎村の実像をもとめて

鎌倉期「百姓中」の出現：櫻井 彦

中世利根川の築堤と堤用途

——「万福寺百姓等申状」の検討：根本 崇

戦国期の仏神田と領主・地下

——越前国池田荘を事例として：窪田涼子

戦国期恵林寺の寺領と生業構成：則竹雄一

若狭湾沿岸における海村の生業競合と地域社会

——常神半島・三方五湖をとりまく村々の地域的分業：長谷川裕子

二◎領主支配と村の動向

撰関家領近江国信楽荘における領域と村落：朝比奈 新

室町期守護権力による軍役・陣夫役の賦課

——播磨国矢野荘を事例として：徳永裕之

室町末期武家領主による所領支配の実態

——長尾忠景を事例に：黒田基樹

三◎境界と村の力

村の自立と紛争・内乱——紀伊国三上荘願成寺と西畑村：小林一岳

中近世移行期の浅利氏と比内の村々

——陸奥・出羽国境の境目争い：遠藤ゆり子

近世初期領国境目地域における庄屋と百姓鉄砲：稲葉継陽

あとがき：小林一岳・櫻井 彦

定価一〇、四五〇円(税込)

(本体九、五〇〇円)

A5判上製カバー装・三五二頁

二〇二一年十月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

書名

部数

日本中世社会と村住人

蔵持重裕【編】

定価10,450円(税込)・本体9,500円

A5判・上製カバー装・352頁

2021年10月刊行

ISBN978-4-585-32009-8 C3021

部

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉

古建築調査 ハンドブック

定価1,540円(税込)

本体1,400円
A5判・並製・38頁・2021年7月刊行
ISBN978-4-585-35000-2 C0052

【出荷にお時間をいただく】
場合があります

私たちの身のまわりには多数の古建築がある。

過去に建てられた建物は、歴史的・文化的に価値があるだけでなく、我々の生活環境を形成する重要な要素として存在している。

古い建物を文化財として保存してゆくにせよ、改修して使い続けるにせよ、その建物の歴史的・文化的な価値を認識しておくことは不可欠である。

それでは、そのための調査はどのように行うのか。

寺社・民家など、古建築の歴史的・文化的価値や特質を調査する際の、調査項目・方法の要点を簡潔に解説。

歴史的な建物の調査において、
常に座右に置いておきたい待望の一冊。

〈目次〉

- 1 古建築調査の目的・手順・内容
- 2 現地調査(1)——調査票・実測図の作成と写真撮影
- 3 現地調査(2)——棟札・史料の調査
- 4 調査報告書の作成

COLUMN

- 1 調査に必要な道具・服装
- 2 建設年代の判定と編年指標
- 3 図面の浄書の工夫
- 4 寸法の測り方
- 5 寺社建築に必要な写真
- 6 現地調査後の史料調査——報告書作成にむけての準備
- 7 報告書の構成

〈執筆者プロフィール〉

山岸常人 —— 京都大学名誉教授・京都府立大学文学部特任教授
岸 泰子 —— 京都府立大学文学部歴史学科准教授
登谷伸宏 —— 京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授



書名	部数
古建築調査ハンドブック 山岸常人・岸 泰子・登谷伸宏〈著〉	定価1,540円(税込) 本体1,400円 A5判・並製カバー装・46頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-35000-2 C0052
ご送付先ご住所(通信欄)	部

日本古代の 仏教者と山林修行

小林崇仁【著】

外来の宗教である仏教は、その伝来より、
広く日本の社会・文化に影響を与えてきた。

なかでも、山林に分け入ったの修行は、

仏教創始以来の伝統として時代を通じて行われてきた。

仏教伝来から間もない古代日本において、

山林修行はどのように行われ、

どのような宗教的意義を有していたのか。

奈良から平安初期において山林修行を実践した

泰澄、報恩、満願、施暁、玄賓、聴福、勝道、徳一、勤操の

九名の事績を考察、

加えて、山林修行における諸種の形態・様相を

諸資料をもとに描き出すことで、

日本古代の山林修行の総体を明らかにする。

【著者紹介】

小林崇仁（こばやし・そうじん）

蓮花寺佛教研究所研究員、真言宗智山派平福寺住職。

共著に『頼瑜撰』真俗雜記問答鈔の研究（ノンブル社、二〇二二年）。主な論文に『諏訪の神宮寺』（福田晃・徳田和夫・二本松康宏編『諏訪信仰の中世』神話伝承・歴史『三弥井書店、二〇一五年』）、『勝道上人の生涯』（『山岳修験』第六〇号、二〇一七年）、『東草集』に見る根来寺の追善儀礼（『佛教文学』第四二号、二〇一七年）などがある。

【目次】

序論

第一部●山林修行の先駆者たち

- 第一章 泰澄——泰澄伝に見る山林修行者像——
- 第二章 報恩——報恩伝の史実性——
- 第三章 満願——神宮寺建立の背景——

第二部●朝廷による山林修行者への信仰と支援

- 第一章 施暁——施暁の奏上と梵釈寺の造営——
- 第二章 玄賓——嵯峨天皇からの殊遇——
- 第三章 聴福——玄賓との類似性——

第三部●山林修行者による社会的実践行

- 第一章 勝道——日光山開山の意義——
- 第二章 徳一——東国に垂迹した菩薩——
- 第三章 勤操——官大寺僧の幅広い実践行——

第四部●山林修行の種々相

- 第一章 斗敷——勝道と徳一と空海の共通点——
- 第二章 乞食と蔬食——山林修行の経済基盤——
- 第三章 道俗相集——山林寺院での諸活動——

結論

あとがき／初出一覧／索引



定価 二二,二〇〇円(税込)

(本体二二,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六五六頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-31003-7 C3015

書名	部数
日本古代の仏教者と山林修行 小林崇仁【著】	部
定価13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・656頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-31003-7 C3015	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

中世武家領主の

世界

現地と 文献・ モノから 探る



なぜ武士は
地域社会の中核となれたのか——？

鎌倉末〜南北朝期にかけて、東国に端を発した武士団は、その本拠地を東西にひろげ、各所において地域社会との密接な関係を築き上げていく。武士集団が地域における社会編成の中核を担い、交通・流通の要衝を押さえながら、政治経済のイニシアティブを取るといったことも稀ではなかった。中世日本の重要なアクターたる武士団は、どのような実態をもって地域社会へ受け入れられていったのか、その支配体制はどのように実現・展開されたのか。文献史料、出土遺物そしてフィールドワークによる分析という、多様な研究手法を駆使し、中世日本の特質を明らかにする画期的な一冊。

目次

序 言 田中大喜

第一部◎武家領主の地域支配の諸相
材木の生産・流通と武家領主 西田友広
西遷御家人内田氏の本拠景観と高津川流域

——現地調査の聞き書きと文献史料から渡邊浩貴
中世後期石見国長野荘をめぐる諸武家領主の動向 中司健一
東国地頭支配の受容と排除——肥後国人吉荘と肥前国彼杵荘 清水亮
中世武士団における一族・被官の西遷
——肥前千葉氏を事例として 湯浅治久
紀伊国における武家領主の地域支配と荘園領主 高木徳郎

第二部◎地域の港湾と武家領主

石見国高津川・益田川河口域の集散地と武家領主 田中大喜
河口の港が果たした役割——瀬戸内海と日本海を比較して 鈴木康之
そこに港は存在したのか？——伝承からたどる中世の益田 松田睦彦
遠江国笠原荘の「浦」にみる中世の港湾と海村 貴田潔

第三部◎モノからみる武家領主

陶磁器からみた中世益田 村木二郎
朝鮮初期における陶磁器の生産と貢納・流通 荒木和憲
遺物からみた武家領主の本拠
——静岡県の主要遺跡の遺物分析から 池谷初恵
中世後期の領主の好み——出土品と財産目録から 水澤幸一
あとがき 田中大喜／執筆者一覧

田中大喜

(たなか ひろき) 一九七二年生まれ。国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学准教授(併任)。専門は日本中世史(中世武士団・在地領主研究)。「古文書の様式と国際比較」(共編著、勉誠出版、二〇二〇年)、「増補改訂新版 日本中世史入門——論文を書こう」(共編著、勉誠出版、二〇二二年)などがある。

定価 四、二八〇円(税込)

(本体三、八〇〇円)

A5判並製カバー装・三六八頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-32003-6 C1021

書名	部数
中世武家領主の世界 現地と文献・モノから探る 田中大喜 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

定価 4,180円・本体3,800円

A5判並製カバー装・368頁
2021年8月刊行
ISBN978-4-585-32003-6 C1021

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025

戦国時代劇メディアの 見方・つくり方

戦国イメージと時代考証

大石学・時代考証学会〔編〕

史実と創作の狭間で

時代劇や歴史小説、漫画、アニメ、ゲームなどの創作において、
虚構と現実の間を埋めるという重要な役割を持つ「時代考証」。
歴史的事実との整合性を図りながら、
エンターテインメントを追及する上で、
「時代考証」はどのように関わっているのか。
また、メディアの中で描かれる歴史上の人物のイメージは、
時代によってどのような変遷を遂げているのか。
歴史意識・イメージの変遷と

そこに影響を与えるポップ・カルチャーの関係にも注目。
研究者、漫画家、俳優、ドラマ制作者、市民などの
さまざまな視点から、「時代考証」を考察する、
歴史ファン必携の一冊。

【編者紹介】

大石学(おおいし まなぶ)

一九五三年生まれ。東京学芸大学名誉教授、日本芸術文化振興協会幹事。専門は日
本近世史。大河ドラマ「新選組」篤姫、「龍馬伝」八重の桜、「花燃ゆ」西郷どんの
時代考証を担当。著書に「時代劇の見方・楽しみ方——時代考証とリアリズム」(吉
川弘文館、二〇一三年)、「今に息づく江戸時代——首都・官僚・教育」(吉川弘文館、
二〇二一年)など多数。

【目次】

はしがき……大石学

序論……野本禎司

特論 戦国時代劇と時代考証……大石学

第1編 時代劇メディアとポップ・カルチャー

1 時代考証数珠繋ぎ……尼子騒兵衛

2 時代劇メディアの中の「ポップ・カルチャー」
——時代考証の所在を手がかりに——花岡敬太郎

3 剣豪イメージと時代コンテンツの変遷
——柳生十兵衛を事例として——玉井建也

シンポジウム「時代劇メディアと「ポップ・カルチャー」の境界を歩く」
趣旨説明……花岡敬太郎

コメント……大橋崇行

パネルディスカッション……花岡敬太郎／玉井建也／尼子騒兵衛／
大橋崇行／司会 茂木謙之介

第2編 時代劇と戦国イメージ

4 戦国時代・武将のイメージ形成過程について……山野井健五

5 時代劇は存続するか?……佐藤峰世

6 戦国武将を演じるにあたって……森田順平／聞き手…金井貴司

シンポジウム「戦国時代イメージを考える——時代劇メディア・学問・市民」
趣旨説明……門松秀樹

パネルディスカッション……山野井健五／佐々木倫朗／森田順平／
佐藤峰世／司会 神谷大介

第3編 三英傑イメージの変遷

7 織田信長イメージの現在……橋本章

8 豊臣秀吉イメージの現在……井上泰至

9 徳川家康イメージの現在……原史彦

第4編 歴史系学問と戦国イメージ

10 戦国大名の実像——殿様と家来……佐々木倫朗

11 「呂宋助左衛門」と海域アジア交易——時代劇が培う歴史像……川戸貴史

12 「設楽原」の発見——時代劇メディアの民俗学……及川祥平

13 特別展「戦国時代展」の思考……西山剛

【コラム】戦国イメージをドラマ化することの意味と面白さを考える

——時代考証学会第六回シンポジウムに参加して……花岡敬太郎

【コラム】「お目付役」を超えるために

——時代考証学会第六回シンポジウムのアンケート回答から……鈴木一史

【コラム】時代考証の役割とメディアリテラシー

——時代考証学会第一回シンポジウムのアンケート回答から……工藤航平

あとがき……時代考証学会

定価二,五二〇円(税込)

(本体三,二〇〇円)

A5判・並製・三七六頁

二〇二一年九月刊行

ISBN978-4-585-32006-7 C0021

書名	部数
戦国時代劇メディアの見方・つくり方 戦国イメージと時代考証 大石学・時代考証学会〔編〕	定価3,520円(税込) [本体3,200円] A5判・並製・376頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

近世の村と百姓

渡辺尚志〔著〕

近世社会の特質を探る

近世社会において、百姓たちは領主や他の諸身分、また、周辺の地域社会とどのように関わり、折衝を行ってきたのか。災害など不慮の事態に如何に対応を講じてきたのか。各所に伝わる一点一点の史料を丁寧に読み込むことで、近世日本社会を生き抜いてきた村と百姓の底力を照射する。多くの新稿・新知見を盛り込んだ、近世村落史研究を長年にわたり領導してきた著者による待望の最新著書。

【目次】

序章

第一部●出羽国村山郡の村と百姓

第一章…郡中議定からみた村と地域社会

第二章…年貢納入をめぐる村と領主
—松前藩領の酒田買替米を事例として

第二部●両総地域(上総・下総両国)における村と百姓

第三章…両総における旗本知行所と相給村落
—川村優氏の業績によせて

第四章…備荒貯蓄にみる百姓・領主関係
—「積石一件」を事例として

第五章…無年季的質地請戻し慣行を再考する

第六章…幸谷村にみる相給村落の特質

第三部●近世の村と百姓

—村山郡と両総地域を中心に

第七章…土地と日本人
—近世の村から、近代以降の土地所有を再考する

第八章…土地問題をめぐる百姓の意識
—中林真幸氏の論文によせて

終章
あとがき／索引



【著者紹介】

渡辺尚志(わたなべたかし)

一橋大学名誉教授。

専門は日本近世村落史。

著書に『幕末維新期の名望家と地域社会』(同成社、二〇一四年)、『百姓たちの水資源戦争』(草思社、二〇一四年)、『日本近世村落論』(岩波書店、二〇二〇年)、編著に『生産・流通・消費の近世史』(勉誠出版、二〇一六年)、『移行期の東海地域史—中世・近世・近代を架橋する』(勉誠出版、二〇一六年)、『生きるための地域史—東海地域の動態から』(共編著、勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

定価一〇、七八〇円(税込)
(本体九、八〇〇円)
A5判上製カバー装・三八八頁
二〇二二年八月刊行
ISBN978-4-585-32002-9 C3021

<p>書名</p> <p>近世の村と百姓</p> <p>渡辺尚志〔著〕</p>	<p>部数</p> <p>定価10,780円(税込)・本体9,800円</p> <p>A5判・上製カバー装・388頁</p> <p>2021年8月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-32002-9 C3021</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

杉田玄白と

江戸の蘭学塾

「天真樓」塾とその門流

かたぎりかずお
片桐一男 [著]

青山学院大学文学部名誉教授

定価七、七〇〇円(税込)
(本体七、〇〇〇円)

A5判上製カバー装・二八八頁
二〇二一年七月刊行
ISBN978-4-585-32004-3 C3021

蘭学はどのように隆盛したのか

江戸時代の蘭学者・杉田玄白が開いた蘭学塾「天真樓」に着目、その知られざる活動の実態や教育方針を初解明、後世への影響を初公開史料から明らかにする。さらに玄白の門弟・大槻玄沢や、前野良沢門下の江馬蘭齋、玄白と交流のあった吉雄耕牛、蘭学界を牽引した馬場佐十郎や海上随鷗門下の人びと、塾の門人帳や蔵書目録・訳著目録などの史料を解説・分析、蘭学が医者から武家へ、医学から兵学へと推移しながら発展していく、継承の軌跡をたどる。

【本書の特色】

◎「天真樓入門條制」「瘍科醫用天真樓蔵療具図攷」「清曠樓蔵外科療具録」などの初公開史料を解説し、杉田玄白が開いた蘭学塾の実態を明らかにする。

◎主要な蘭学塾のオランダ語、医学、兵術の教授法・思想を紹介。

【目次】

はじめに

I ●杉田玄白の「天真樓」

「天真樓」塾名／学究から行動の人へ／「天真樓入門條制」／天真樓の遺蹟十二箇条／「瘍科醫用天真樓蔵療具図攷」／「清曠樓蔵外科療具録」／「杉田氏家蔵方」／参集の門下生／天真樓塾生名簿／教育——講義・テキスト・分量・速度——

II ●大槻玄沢の「芝蘭堂」と「載書」

「芝蘭堂」と大槻玄沢の有名要素／「芝蘭堂」をめぐる諸問題／門人帳「載書」／大槻玄沢の長崎遊学

III ●吉雄耕牛の「成秀館」

吉雄家のオランダ語／成秀館の教授／成秀館の蔵書／吉雄耕牛の訳書／「スウィーテン水」の伝来／二階オランダ坐舗／米沢藩医高橋玄勝の書翰が伝える／刺鍼法を伝えた人びと／吉雄の成秀館をめぐる検証の総括

IV ●江馬蘭齋の「好蘭堂」

塾名 好蘭堂／蘭学の師／蘭齋の「単語帳」／開塾・期間／出世のきっかけ／新元会に出席／「門人姓名録」／「格物堂社中門人姓名録」／格物堂社中門人姓名録／蘭齋門下の双壁／蘭齋の訳著／家訓・家法など

V ●馬場佐十郎の「三新堂」

オランダ語の師／天文台官舎内「三新堂」／馬場佐十郎のオランダ語文法書／「西文規範」と「バーム原書」／「蘭学梯航」について

VI ●その後の蘭学塾と門人帳

稲村三伯(海上随鷗)の「社盟録」／藤林普山の「玉川堂」と「瑤川堂」／小森桃塙の「素診館」／坪井信道の安懷堂と日習堂／伊東玄朴の「象先堂」／蘭方医仁保春菴、河内蘭齋片影／川本幸民の「静修堂」／緒方洪庵の適塾／吉田長淑の「蘭鑿堂」／土生玄碩の「迎翠堂」／シーボルトの鳴滝学舎／佐藤泰然の「順天堂」塾／松本順の「登籍人名小記」／青木周弼の門人／広瀬元恭の「時習堂」／大村益次郎の「鳩居堂」／高島秋帆の門人／江川坦庵の門人／佐久間象山の塾

おわりにかえて

<p>書名</p> <p>杉田玄白と江戸の蘭学塾</p> <p>「天真樓」塾とその門流</p> <p>片桐一男[著]</p>	<p>部数</p> <p>定価 7,700円(税込)・本体7,000円</p> <p>A5判・上製カバー装・288頁</p> <p>2021年7月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-32004-3 C3021</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

首里城を解く

高良倉吉 [監修]
島村幸一 [編]

文化財継承のための礎を築く

首里城を歴史的・文化的に 考えるために

中国や日本、東南アジアなどとの海を越えた交流により独自の文化を築いた琉球王国。首里城は、その政治・外交の中心を担い、琉球王国の文化の豊穡さを体現する一大建造物である。数度の火災、琉球処分や沖縄戦等、歴史の荒波のなかでその大部分を損壊することとなったが、数多の人びとの尽力により、首里城復元事業が推進され、二〇〇〇年には世界遺産として登録されることとなった。

しかし、二〇一九年(令和元年)十月三十一日未明、首里城を火災がおそい、正殿と北殿、南殿が全焼し、その再建・復元は喫緊の課題として、現在検討が進められている。失われた首里城を取り戻すために、いま、必要な知識は何か。

考古学・歴史学・建築学・文学等、諸分野の第一人者を集結、首里城の歴史と文化を解き明かし、再建に向けた礎を提示する画期的な書。

【監修者・編者紹介】

高良倉吉 (たからくらよし)

琉球大学名誉教授・元沖縄県副知事。専門は琉球王国史。首里城復元の委員。著書に『琉球王国史の探求』(榕樹書林、二〇一一年)など。

島村幸一 (しまむらこういち)

立正大学文学部教授。専門は琉球文学・琉球文化史。著書に『琉球文学の歴史叙述』(勉誠出版、二〇一五年)、『琉球船漂着者の「聞き書」世界―「大島筆記」翻刻と研究』(編著、勉誠出版、二〇二〇年)など。

【目次】

序文：島村幸一
首里城を創る―正殿を中心に…高良倉吉

●考古学から

首里城の原点についての一考察
―グスク時代の遺跡で見られる隔離空間を再考する…山本正昭
出土陶磁器から見た首里グスク…瀬戸哲也
「コラム」トカラ、三島の城郭遺跡…伊藤慎二
「コラム」宮古・八重山諸島のグスク時代石積遺構について
…久貝弥嗣

●歴史学から

古琉球期における首里城の様相と変遷…上里隆史
「コラム」絵図から見た首里城…外間政明
近世琉球期の首里城―儀礼空間としての首里城…麻生伸一
「コラム」首里城で働く人々
―庖丁人と琉球の料理について…山田浩世
近代の首里城―県民に開かれた御城…喜納大作

●文学・芸能から

祭場としての首里グスク…島村幸一
芸能の舞台としての首里城…茂木仁史
漢詩に詠まれた首里城…高津孝
「コラム」首里グスクの御内原…島村幸一
散文に描かれた首里グスク…仲程昌徳
短歌のなかの首里城…屋良健一郎

●建築学・工芸から

中華礼制蕃国礼執行装置としての首里城…伊從勉
首里グスクの「異産至宝」…上江洲安亨
首里グスクを中心とした衣文化
―三山時代から近世琉球国後期頃まで…久貝典子

首里城を知るための〈入門〉十冊…輝広志
あとがき…島村幸一

定価 **4,180** 円(税込)
[本体3,800円]
A5判・並製カバー装・336頁
ISBN978-4-585-32001-2 C1020
2021年9月刊行

書名	部数
首里城を解く 文化財継承のための礎を築く 高良倉吉 [監修] / 島村幸一 [編]	定価 4,180 円(税込) [本体3,800円] A5判・並製カバー装・336頁 ISBN978-4-585-32001-2 C1020 2021年9月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

説話の東アジア

『今昔物語集』を中心に

高陽【著】

宗教と文学の両面から二重の性格を兼ね、様々な読まれ方をしてきた『今昔物語集』。多くの文学者や研究者が説話の宝庫として注目することで、『今昔物語集』は「古典」となったと言える。

本書では、天竺説話の舞台でもある須弥山世界観の検証、これまで本格的に検証されていなかった天竺の無熱池論、『大唐西域記』など東アジア漢文諸資料から、図像資料などともあわせて、その表現過程の変遷について検証する。

また、中国古典や漢訳仏典を博搜し、『今昔物語集』を世界文学としての面から新たに位置づけようとした南方熊楠の方法論を、『太平広記』や『夷堅志』、『聊齋志異』への書き込みなどから解明する。

説話の源流とその変容、展開を軸に、説話文学の世界を東アジアから読み解く。

【編者紹介】

高陽（こう・よう）

一九八一年生まれ。清華大学人文学院外文学系准教授。専門は日本と東アジアの説話文学。

主な論文に「天竺『無熱池』の説話と図像―『大唐西域記』から『日本須弥天図』『玄奘三蔵絵』へ」（『日本文学』、日本文学協会、二〇一九年）、「南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に」（『説話文学研究』第五十四号、説話文学会、二〇一九年）、「須弥山と芥子―極大と微小の反転」（『東アジア文化講座』第三巻、文学通信、二〇二〇年）などがある。

【目次】

刊行に寄せて：小峯和明

はじめに

序章 今昔物語集の東アジア世界はどのように形成されたか

第一編 須弥山と天竺の説話世界

はしがき

第一章 須弥山と天上世界―ハーバード大学所蔵

第二章 『日本須弥諸天図』と中国の『法界安立図』をめぐる

第三章 東アジアの須弥山図―敦煌本とハーバード本を中心に

第四章 須弥山と芥子―極大と微小の反転

天竺神話のいくさをめぐって

―帝釈天と阿修羅の戦いを中心に

第五章 天竺無熱池の説話と図像―『大唐西域記』から

『日本須弥諸天図』『玄奘三蔵絵』へ

第六章 仏伝の鉢説話考

第七章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の説草・『西域記伝抄』

第八章 『大唐西域記』と金沢文庫保管の『西域伝堪文』

第九章 悪龍伝説の旅―『大唐西域記』と『弁曉草』について

第二編 説話の受容と変容

はしがき

第一章 『今昔物語集』における「聖」「聖人」の用語意識

第二章 日本中世の孔子説話―『今昔物語集』を中心に

第三章 『今昔物語集』における僧の天界往還夢説話

第四章 鳥としての天狗の源流考

第五章 女犯聖人説話考―『今昔物語集』巻十第三十四話について

第六章 后と聖人―女犯の顛末

第七章 説話文学から大衆文学へ―染殿后譚を例に

第三編 南方熊楠と説話世界

はしがき

第一章 南方熊楠の比較説話をめぐる書き込み―『太平広記』

『夷堅志』と『今昔物語集』とのかわりを中心に

第二章 南方熊楠の書き込みに関する研究―『太平広記』を中心に

第三章 南方熊楠と宋代の『夷堅志』―熊楠の書き込みを中心に

第四章 南方熊楠と『聊齋志異』

終わりに／各論の初出一覧／参考文献／索引

定価 12,100円(税込)
(本体 11,000円)
A5判上製カバー装・四五六頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-39004-6 C3090

書名	部数
説話の東アジア 『今昔物語集』を中心に 高陽【著】	定価 13,200円(税込)・本体12,000円 A5判・上製カバー装・456頁 2021年9月刊行 ISBN978-4-585-39004-6 C3090
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX 03-5215-9025

怪異学講義

王権・信仰・いとなみ

東アジア恠異学会〔編〕

この世の「不思議」を

解き明かす

神霊・崇り・天変地異……

古来、人々が畏怖を抱き、不思議だと思ひ、
息災を祈った非日常的なコト・モノは媒介者により
どのように言語化され、表現され、
今日まで伝わってきたのか——

古記録や歴史書、説話、伝承、絵画といった
あらゆる資料を渉猟し、
王権・政治・祭祀・信仰・寺社・都市・村・
生活・暮らしなど多様なテーマから、
「怪異」とそれに対する人々の営みを読み解いた
画期的入門書。

【編者紹介】

東アジア恠異学会

二〇〇一年創立。代表は大江篤（園田学園女子大学教授）。
学会編著書として、『怪異学の地平』（臨川書店、二〇一九年）、『怪異を媒介するもの』（『アジア遊学』一八七号、勉誠出版、二〇一五年）、『怪異学入門』（岩田書院、二〇二二年）、『怪異学の可能性』（角川書店、二〇〇九年）などがある。

【目次】

序論 怪異学の視点…大江篤

総論 怪異学とは何か

日本の怪異・中国の怪異・その西方の驚異…榎村寛之
国家統治と怪異…久禮旦雄
通俗信仰と怪異
——前近代中国の基層社会における災異受容史…佐々木聡

各論 怪異から考える

第一部 王権と怪異…久禮旦雄

社寺と怪異——春日社の山木枯槁を中心に…山田雄司
奇談と武家伝——雷になった松江藩家老について…南郷晃子
鎌倉幕府と怪異——『吾妻鏡』の怪異を読む…赤澤春彦
幕末の陰陽頭・朝廷と天変…杉岳志
【コラム】古代日本への「天」の思想の伝来…細井浩志

第二部 信仰と怪異…久留島元・佐々木聡

勝利に導く祖霊…佐藤信弥
霊験・神異・感通
——中国仏教における怪異なるものへの態度…佐野誠子
道教と神降ろし…山田明広
天狗信仰と文芸…久留島元
疫病と化物…笹方政紀
【コラム】崇る「水子霊」…陳宣聿

第三部 人のいとなみと怪異…木場貴俊

村と怪異…木下浩
近世京都の小社と怪異…村上紀夫
怪物を食らう…木場貴俊
絵巻の中の神と「モノ」
——目に見えぬものをいかに描くか…山本陽子
【コラム】石を降らせるのはなにか？…化野 燐

あとがき…大江篤

定価 **3,520** 円(税込)
[本体3,200円]

四六判・並製カバー装・416頁
ISBN978-4-585-32007-4 C0021
2021年10月刊行

書名	部数
怪異学講義 王権・信仰・いとなみ 東アジア恠異学会〔編〕	部
定価 3,520 円(税込) [本体3,200円] 四六判・並製カバー装・416頁 ISBN978-4-585-32007-4 C0021 2021年10月刊行	
ご送付先ご住所（通信欄）	

もう一度読みたい

日本の古典文学

三宅晶子【編】

学校で教わっていた「古典」は
実はこんなに面白かった！

『竹取物語』『平家物語』『徒然草』など、
小・中学校・高校教科書に掲載される
日本の古典文学作品を中心にとりあげ、
新しい読み方・楽しみ方、
知っているとより作品が楽しめる豆知識などを
多数の図版とともに解説。
ライトノベルやアニメ・漫画などの題材になり
現代にもつながる古典文学についても考察し、
実際の教育現場での教え方・授業案なども紹介。
古典嫌いになってしまったあなたに贈る、
新しい古典入門。

【编者紹介】

三宅晶子（みやけ・あきこ）

横浜国立大学名誉教授・奈良大学教授。専門は中世日本文学（特に能楽）、
古典教育。主な著書に『世阿弥は天才である——能と出会うための一種の
手引き書』（草思社、一九九五年）、『歌舞能の確立と展開（べりかん社、二〇
〇一年）』、『歌舞能の系譜——世阿弥から榊竹へ』（べりかん社、二〇一九年）
などがある。『檜書店対談で楽しむ能』シリーズ刊行中、「能の現代」（花も
よ）連載中。

おへん

楽しい古典文学と出会うために◎三宅晶子

第一部 日常のどこかで出会った古典文学

【百人一首】感じる『百人一首』◎三宅晶子

【竹取物語】不死の薬に託されたかぐや姫の思い◎山田香織

【説話】繋がっている今と昔——昔話「こぶとりじいさん」と
『宇治拾遺物語』鬼に瘤取らるる事◎三宅晶子

【義経記】『義経記』義経像の変遷◎長島裕太

【神話】神話因幡の白ウサギ◎高梨禎史

【国語教育】国語教育の役割と「古典」や「古文」の教育◎府川源一郎

第二部 学校で学んだ古典文学

【軍記】軍記教材を読みなおす——二度目からの『平家物語』・
「敦盛最期」「木曾最期」の場合◎鈴木彰

【平家物語】「敦盛最期」を読み直す◎菊野雅之

【竹取物語】『竹取物語』が「竹取の翁」といふものありけりと
語り出される訳——絵本「かぐや姫」と『竹取物語』の
冒頭部の比較から◎武田早苗

【源氏物語】紫式部と出会う◎三宅晶子

【徒然草】『徒然草』で学ぶ異文化◎笠原美保子

【中国説話】中国の「蟻通し」難題譚◎岡田充博

【漢詩】「長恨歌」と譚仙女楊貴妃◎高芝麻子

【古筆切】古典文学の本文を考える
——写本・古筆切の世界◎徳植俊之

【国語教育】いざれ役に立つかもしれない古典から、
今に働きかけてくる古典へ◎高木まさき

第三部 現代社会で再生される古典

安倍晴明は、なぜスーパーヒーローになったのか。◎一柳廣孝

ライトノベル・少女小説・児童文庫から親しむ古典文学◎山中智省

古典と現代の言葉の接点を求めて◎藤原悦子

小学生と古典を楽しむ◎渡辺寛子

拡張する「古典」——デジタル時代における
古典の役割と意味の変容◎石田喜美

あとがき◎三宅晶子

定価二、六四〇円(税込)

「本体二、四〇〇円」

A5判並製カバー装・三六〇頁

二〇二二年八月刊行

ISBN978-4-585-39001-5 C0091

書名	部数
もう一度読みたい日本の古典文学 三宅晶子【編】	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

定価2,640円(税込) [本体2,400円]
A5判並製カバー装・360頁
2021年8月刊行
ISBN978-4-585-39001-5 C0091

谷崎潤一郎 美と生命の間

柴田勝二 [著]

谷崎文学をつらぬくのは
〈女性美〉への崇拜なのか？

『痴人の愛』『春琴抄』――

華麗な物語世界を通して谷崎が描きたかったのは
したたかに生きぬく女たちの〈生きる力〉だった。

人間の生を衰弱させる近代という時代のなか、
耽美主義だけではない、新しい谷崎像を提示する。

本書の特色

- ①「女性崇拜」「耽美主義」といった〈レットル〉をはられた谷崎潤一郎の世界のなかに〈いのちへの愛着〉を見出し、〈美〉がどのように〈生命〉の力に裏打ちされているかを読み解く。
- ②漱石や荷風とは異なる文化観や自然観によって、谷崎作品も辛辣な〈近代批判〉を含んでいることを明らかにする。
- ③〈生命〉への憧れにおいては三島と共通する一方、〈男性〉を相対化する視点においてはつきりと差別化される点にも言及する。



著者プロフィール

柴田勝二（しばたつしょうじ）

一九五六年兵庫県生まれ。大阪大学大学院（芸術学）博士後期課程単位修得退学。大阪大学博士（文学）。東京外国語大学名誉教授、現在、梅光学院大学特任教授。思想・歴史への視座を取り込みつつ明治から現代にわたる近現代文学の研究・評論を幅広くおこなっている。

著書に『三島由紀夫 魅せられる精神』『作者をめぐる冒険』漱石のなかの〈帝國〉『中上健次と村上春樹』夏目漱石われの行方『私小説のたくらみ』自己を語る機構と物語の普遍性（勉誠出版、二〇一七年）などがある。

目次

はじめに

第一部 見出される生命

一章 生命としての美——停滞からの脱出
刷新される生◎利青の美学◎フェティッシュとしての足◎美しい者の内実◎自然としての悪◎生を閉塞させる状況

二章 騒擾と闇の間——ちりばめられる遊戯性と「秘密」
〈遊び〉に向かう人びと◎遊びの物質的条件◎相対化される〈資本〉の力◎〈闇〉と〈騒擾〉の隣接性◎遊戯の終結◎曼荼羅と母の否認

三章 〈自然〉の牽引——『痴人の愛』『吉野葛』における魅惑の在り処
別世界への憧憬◎「シムル・ライフ」の矛盾◎ナオミの野性と聖性◎関西移住の意味◎抵抗者たちの物語◎変容する主題◎自然と人為の融合

第二部 相対化される近代

一章 異性愛への疑念——『夢喰ふ虫』『卍』における性愛の形
恋愛と結婚のアイロニー◎夫婦間の絆帯◎型でない行動◎同性愛による批判◎「極端から極端」への運動性◎大阪言葉の世界

二章 〈手ざわり〉のなかの関係——〈盲目〉を描く世界
触覚による認識◎触覚のなかの交わり◎野性としての春琴◎手探りの物語叙述◎盲人の視点◎再現される触覚◎松子との関係

三章 溶け合う〈大阪〉と〈京都〉——『蘆刈』と日本文化への眼差し
関西への移動◎〈京都的〉なものの意味◎『蘆刈』の時空◎お遊と松子の重なり◎山崎の空間性◎『陰翳礼讃』の美学

第三部 〈滅び〉に向きあう

一章 〈病〉と〈戦争〉の時空——『細雪』の寓意的表象
〈書く時間〉と〈書かれる時間〉◎文化的な病◎「驕り」をはらんだ自然◎連続する〈家〉と〈国〉◎相乗する病と災害◎〈戦後的〉世界の様相

二章 失われ、連続するもの——母の表象と戦後社会
母への距離と親しさ◎文化としての母◎妻の喪失◎失われた日本への思い◎連続する二人の母◎浮上する古代

三章 老いに抗う性——『鍵』『癡癡老人日記』と生命への希求
老いの在り処◎エロティズムへの逆行◎〈子供化〉する老人◎融合する〈母〉と〈女〉◎踏みしめる女たち
註／あとがき／初出／谷崎潤一郎年譜

定価三、九六〇円（税込・本体三、六〇〇円）

四六判並製カバー装・三三八頁

二〇二一年七月刊行

ISBN978-4-585-39003-9 C3095

書名	部数
<p>谷崎潤一郎 美と生命の間</p> <p>柴田勝二 [著]</p> <p>定価3,960円(税込)・本体3,600円</p> <p>四六判並製カバー装・368頁</p> <p>ISBN 978-4-585-39003-9・C3095</p> <p>2021年7月刊行</p>	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

江戸川乱歩

ENCYCLOPEDIA OF
RAMPO EDOGAWA

大事典

稀代の推理小説作家、江戸川乱歩。

死後五十年を経て、未だ我々を魅了し続ける乱歩の創作・思考の背景にあるものはいったい何か。乱歩の形成した人的ネットワーク、そして彼の生きた戦前戦後という時代と文化事象、出版文化の展開とともに花開いた様々な雑誌メディアなど、総勢七十人に及ぶ豪華執筆陣のナビゲートにより

乱歩ワールドの広がりを感じていただける本邦初のエンサイクロペディア、ついに公開！

落合教幸＋阪本博志＋
藤井淑禎＋渡辺憲司〈編〉

定価 13,200円(税込)
菊判上製・912頁
2021年3月、
堂々刊行！
ISBN978-4-585-20080-2 C1000

目次

- 〔第一部〕人間乱歩
- 〔第二部〕社会
- 〔第三部〕ミステリー
- 〔第四部〕メディア
- 〔付録〕江戸川乱歩小説作品初出初刊一覧・年表・索引



週刊読書人

4/9発売号に、

刊行記念記事掲載！

有栖川有栖氏、

佐野史郎氏、

ご寄稿！

大好評 発売中！

書名	江戸川乱歩大事典	部数	
著者	落合教幸＋阪本博志＋藤井淑禎＋渡辺憲司(編)	定価	13,200円(税込)
		定価	12,000円(＋税)
		菊判・上製カバー装	912頁
		2021年3月刊行	
		ISBN978-4-585-20080-2	C1000
ご送付先ご住所(通信欄)			

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

藤本幸夫

〔編〕

（ふじもと・ゆきお）富山大学名誉教授、麗澤大学客員教授。専門は朝鮮語学・朝鮮文献学。二〇二一年学士院賞・恩賜賞を受賞。著書に『日本現存朝鮮本研究 集部』（京都大学学術出版会、二〇〇六年）、『日韓漢文訓読研究』（編著、勉誠出版、二〇一四年）、『日本現存朝鮮本研究 史部』（韓国東国大学出版部、二〇一八年）などがある。

書物・印刷・本屋

図版点数
390超

日中韓をめぐると本の文化史

6月刊行予定

〈ご予約受付中!〉

中国、朝鮮半島、日本に伝播した書物文化は、各国各地に於いて民間の商業出版——坊刻本——の深淵かつ絢爛な世界を形づくっていった。書籍の出版から販売・読書にいたる具体的な諸相、即ち潤筆料・版下・刻版・彫師・摺師・版木・料紙・装幀・本屋・貸本屋・書価・出版部数・流通・読者・版株・印刷術・禁書・和刻・出版統制等々を中心に、書物史研究を牽引する珠玉の執筆者35名による知見を集結、390点を超える図版資料を収載した

日中韓の知の世界を彩る
書物文化を知るためのエンサイクロペディア。

- 第一部 書物のかたち・書物のジャンル
- 第二部 印刷・活字・技術
- 第三部 本屋・商業出版・蔵書

〔本書の特色〕

- 書物のジャンル、形態、印刷技術、本屋や商業出版の諸相など、日中韓の書物文化史を詳細に記述したレファレンスツールとして最適の百科事典的書籍。
- 書誌学・出版史・印刷史など、書物研究の第一線を走るオールスターが終結した画期的な一冊。
- 学士院賞、ゲスナー賞、日本出版学会賞、角川源義賞等、様々な受賞歴を有する執筆陣が寄稿。
- 390点を超える貴重な図版資料を収載。

定価一七、六〇〇円(税込)

(本体一六、〇〇〇円)

B5判上製カバー装・八九六頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-30002-1 C3000

執筆者一覽

- 第一部：佐々木孝浩・柏崎順子・木村八重子・棚橋正博・佐藤至子・鈴木圭一・石上阿希・大久保純一・湯浅淑子・鈴木俊幸・万波寿子・鈴木達彦
- 第二部：住吉朋彦・堀川貴司・長澤孝三・豊島正之・林進・高木浩明・森上修・小秋元段・渡辺守邦・橋口侯之介・永井一彰
- 第三部：鈴木俊幸・塩村耕・長友千代治・岡村敏二・大沼晴暉・大木康・大塚秀高・金文京・上原究一・高橋智・藤本幸夫・李胤錫・全相昱

…詳細目次は裏面をご覧ください。

書名	部数
書物・印刷・本屋 日中韓をめぐると本の文化史	定価17,600円・本体16,000円 B5判上製カバー装・896頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-30002-1 C3000
藤本幸夫 [編]	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

〈詳細目次〉

序文……………藤本幸夫

●第一部——書物のかたち・書物のジャンル

- 佐々木孝浩……………〈古写本〉日本の写本——装訂を中心として
柏崎順子……………〈江戸版〉初期出版界の様相
木村八重子……………〈草双紙〉「草双紙」の史的展望
棚橋正博……………〈黄表紙〉黄表紙
佐藤至子……………〈合巻〉合巻における自主規制
——「三・国太郎再来伝」から「現世扶桑太郎」へ
鈴木圭一……………〈中本（人情本）〉中本二編三冊意識
石上阿希……………〈春画・艶本〉「書籍目録」にみる枕絵と好色本
大久保純一……………〈錦絵〉錦絵とは
湯浅淑子……………〈おもちゃ絵〉江戸のおもちゃ絵
鈴木俊幸……………〈草紙類〉上方の草紙類をめぐる
万波寿子……………〈仏書〉日本の仏書
鈴木達彦……………〈医書〉日本漢方の特質と日本医書

●第二部——印刷・活字・技術

- 住吉朋彦……………〈宋版・元版〉宋元版研究の道程
堀川貴司……………〈五山版〉五山版をどう考えるか
長澤孝三……………〈和刻本〉「和刻本」について
豊島正之……………〈キリシタン版〉キリシタン文獻
林進……………〈古活字版〉角倉素庵はなぜ出版事業を興したのか——近世初頭、草創期の古活字版
高木浩明……………〈古活字版〉古活字版から整版へ、整版から古活字版へ
森上修……………〈古活字版〉古活字版印刷と木活字駒の彫出技法
小秋元段……………〈出版史料としての反古〉東北大学附属図書館漱石文庫所蔵古活字版『太平記鈔・音義』表紙の復元的考察
渡辺守邦……………〈出版史料としての反古〉表紙裏反古・再考
橋口侯之介……………〈彫りと摺り〉彫師摺師から見た日本の出版形態
永井一彰……………〈版木〉板木の節

●第三部——本屋・商業出版・蔵書

- 鈴木俊幸……………〈日本近世の本屋〉本屋と出版——江戸時代における書籍文化の特質
塩村耕……………〈日本近世前期の商業出版〉近世前期の出版界と西鶴
長友千代治……………〈貸本屋〉貸本屋の横顔
岡村敬二……………〈蔵書・蒐書（日本）〉蔵書家の索引、蔵版、蔵書の行方
大沼晴暉……………〈蔵書・蒐書（日本）〉田中さんのおもちゃ箱——小平市立図書館蔵本
大沼晴暉……………〈日中韓の商業出版〉日中韓坊刻本の比較研究或いは此等二か国書物の比較研究のために
大木康……………〈中国の商業出版〉中国書肆史考——近世を中心に
大塚秀高……………〈中国の商業出版〉坊刻本と物語——口頭の物語の出版について
金文京……………〈中国の商業出版〉明代建陽の商業出版と通俗小説
上原究一……………〈中国の商業出版〉明末清初の坊刻における江西の位置付けについて
高橋智……………〈蔵書・蒐書（中国）〉中国の蔵書家について
藤本幸夫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮坊刻本攷
李胤錫……………〈朝鮮の商業出版〉朝鮮朝出版における坊刻本の性格と位置
全相豆……………〈朝鮮の商業出版〉坊刻本「春香伝」の発生とその変貌について

あとがき……………藤本幸夫
執筆者覧

日本古文書学会 〈編〉

古文書への招待

過去の人びとのいとなみを読み取る

長屋王家符、北条政子書状、足利義教自筆御内書、豊臣秀吉朱印状、薩長同盟覚書裏書……

過去の人びとが書き残した「古文書」にはいったい何が書かれているのか？

古代から近代にわたる全四十五点の古文書を丹念に読み解くことで、

古文書のもつ意味、それを記述した人びとの個性、

書かれた背景をなす歴史的事件を明らかにする。

また、文章の内容のみならず、文字の書かれ方、料紙、大きさなど、

「モノ」としての古文書にも焦点を当て、その魅力に迫る。

カラー図版をふんだんに配し、

全点に翻刻・現代語訳・詳細な解説を付した

恰好の古文書入門！

収録

①かたち

長屋王家符
他田日奉部直神護解
太政官符
源頼朝寄進状

伊賀国黒田莊悪党人縁者交名

武雄社大宮司都々丸九代藤原通厚軍忠状

足利義満書状案

足利義教自筆御内書

東寺款状

羽柴秀吉制札

徳川家康起請文

豊臣秀吉朱印状

開帳差免帳

交代寄合山名義書置

②ひと

太政官符亨

源実朝袖判下文

右馬允康経書状

某書状案断簡

護良親王令旨

大蔵大輔某奉書

足利尊氏御判御教書

征西將軍宮令旨

今川了俊書下

栖雲斎威阿書状

白川義親書状

丹羽長秀書状

毛利輝元起請文案

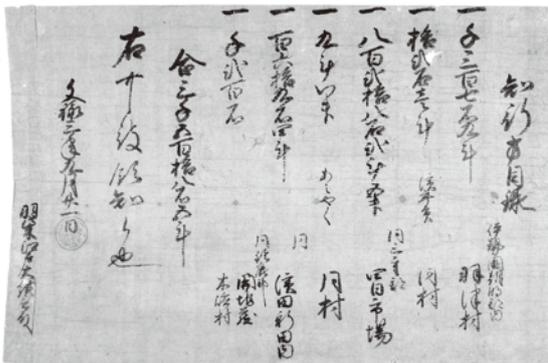
黒田如水(孝高)書状

五箇条の御誓文

部

数

部



豊臣秀吉知行方目録

関地蔵院所蔵

[画像提供・亀山市歴史博物館]

<p>書名</p> <h2>古文書への招待</h2> <p>日本古文書学会 [編]</p>	<p>部数</p> <p>本体3,000円(+税)</p> <p>B5判並製カバー装・176頁</p> <p>2021年1月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-22277-4 C1021</p>
<p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	

増補改訂新版

日本中世史入門 論文を書こう

本体二、八〇〇円(+税)
A5判並製カバー装
六〇八頁・二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-22280-4 C0021

国士館大学文学部教授

秋山哲雄

国立歴史民俗博物館・
総合研究大学院大学准教授

田中大喜

共愛学園前橋国際大学教授

野口華世

〈編〉

2014年刊行の
日本中世史入門
好評につき、
大幅増補・改訂して
絶賛発売中!
240頁増!

歴史を学び、 考えるために

「歴史」はたんに過去の出来事をわれわれに伝えるのではなく、
現代そして未来の人々の動向を規定する「力」を持っている。
そこに学問として歴史を学ぶ意義が存在している。
それでは、われわれはどのように歴史と対話すべきなのか――
歴史学の基本である論文執筆のためのメソッドと観点を
日本中世研究の最新の知見とともにわかりやすく紹介、
歴史を学び、考えることの醍醐味を伝授する。

卒論・修論の執筆、指導にも最適!

まえがき：秋山哲雄・田中大喜・野口華世

I 「歴史学」を学ぶということ

II 論文を書こう――歴史学研究の方法を学ぶ

III 日本中世研究の現在

中世撰関家論●中世的権門としての撰関家：高松百香
院政論●政治史と家族史の融合：佐伯智広
平家政権論●平家政権論の軌跡とこれから：前田英之

中世前期国家財政論●税制・財政史から中世国家・社会の成立を考えるために：守田逸人

荘園史研究●中世天皇家の荘園の意味を考える：野口華世

中世武士論●中世武士のとりえ方はどう変わったか：伊藤瑠美

鎌倉幕府論●中世の特質を明らかにする：秋山哲雄

鎌倉幕府文士論●鎌倉幕府を支える様々な人々：赤澤春彦

鎌倉期守護論●幕府による全国統治の実態に迫る：西田友広

中世前期法制史研究●鎌倉幕府の法と裁判へのまなざし：木下竜馬

鎌倉幕府御家人制論●鎌倉幕府御家人制が中世後期に遺したものは：清水 亮

中世武士団論●中世の武士と社会の特質を考える：田中大喜

朝廷下級官人論●朝廷を支える官僚システム：遠藤珠紀

室町殿論●新たな権力者像の発見：大田壮一郎

室町期守護論●室町期守護論の「これまで」と「これから」：大藪 海

中世後期法制史研究●室町幕府法からみた中世後期の「法」の特質：松園潤朗

中世寺院史●中世寺院と顕密体制を考える：石田浩子

中世村落・環境史●生活の舞台としての村落をどうとらえるか：高木徳郎

中世交通・流通論●水陸のみちを考える：藤本頼人

中世都市論●都市の輪郭について考える：三枝暁子

中世身分論●身分と集団から中世社会を考える：辻 浩和

中世東国史研究●地域史と国家史のあいだで：植田真平

中世日本・東アジア交流史●外国との関わりを考える：伊川健二

中世日本境界領域論●東アジア交流の玄関口としての境界領域：荒木和憲

古文書学を学ぶ人のために●史料論の時代における古文書学の可能性：佐藤雄基

中世絵画史料論●絵画にかくされたもうひとつの日本文化：黒田 智

中世考古資料論●中世考古学の方法：村木二郎

執筆者一覧
あとがき：増補改訂版の刊行に寄せて：秋山哲雄・田中大喜・野口華世
研究概念・用語索引

書名	部数
増補改訂版 日本中世史入門——論文を書こう 秋山哲雄・田中大喜・野口華世〈編〉	本体3,800円(+税) A5判並製カバー装・608頁 2021年2月刊行 978-4-585-22280-4 C0021
ご送付先ご住所（通信欄）	

日本古文書学会編集

古文書研究

第91号

2021年6月

定価	4,180円(税込)・本体3,800円
B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁	
ISBN978-4-585-32401-0 C3321	
2021年6月刊行	

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。
その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

論文

- 醍醐寺における法流相承と文書・聖教の生成——報恩院隆源を通して—— …… 佐藤亜莉華
- 室町幕府における侍所・山城守護の管轄領域区分 …… 松井直人
- 任官料足請取状(「饗料腰差酒肴」請取状)の検討 …… 村上絢一

特別寄稿 日唐の改元と大赦——水上雅晴編・高田宗平編集協力

- 『年号と東アジア——改元の思想と文化——』(八木書店、二〇一九年)に寄せて …… 金子修一

研究ノート 「忽那一族軍忠次第」の成立 …… 山内 讓

史料紹介 伝『大外記中原師生母記(播磨局記)』文禄四年別記 …… 遠藤珠紀

追悼文 鈴江英一先生の想い出 …… 丸島和洋

古文書めぐり 石水博物館の歴史資料 …… 桐田貴史

随筆 古典と公家文化——戦国期の公家日記に見る—— …… 湯川敏治

研究余滴 将軍足利義晴上臈一対局と京都 …… 木下昌規

書評と紹介

- 明治大学広開土王碑拓本刊行委員会編／吉村武彦・加藤友康・徐建新・吉田悦志
『明治大学図書館所蔵 高句麗広開土王碑拓本』 …… 荊木美行
- 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所編
『藤原宮木簡四』(奈良文化財研究所史料第九十一冊) …… 武井紀子
- 佐々木恵介著『日本古代の官司と政務』 …… 徳竹亜紀子
- 倉本一宏著『御堂関白記』の研究』 …… 近藤好和
- 工藤浩編『先代旧事本紀論——史書・神道書の成立と受容』 …… 松本郁代
- 近藤剛著『日本高麗関係史』 …… 高 銀美
- 矢田俊文編『戦国期文書論』 …… 黒嶋 敏
- 一柳廣孝著『怪異の表象空間 メディア・オカルト・サブカルチャー』 …… 田部井隼人
- 中元崇智著『明治期の立憲政治と政党——自由党系の国家構想と党史編纂——』 …… 福井 淳
- 稲岡勝著『明治出版史上の金港堂——社史のない出版社「史」の試み』 …… 佐々木千恵

日本古文書学会二〇二〇年度総会要旨

彙報

口絵解説 仙台藩土青田家文書 二十一通 …… 荒木和憲

英文レジュメ

書 名	部 数
古文書研究 第91号 日本古文書学会 [編]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価4,180円(税込)・本体3,800円

B5判並製・カラー口絵2頁+本文160頁

2021年6月刊行

ISBN978-4-585-32401-0 C3321

渤海の古城と国際交流

清水信行・鈴木靖民^[編]

本体14,000円(+税)

B5判上製カバー装・496頁

2021年2月刊行

ISBN978-4-585-22289-7・C3020

考古学・文献史学より「海東の盛国」の実態を
明らかにする画期的論集

7世紀末から10世紀前半、中国東北部・ロシア沿海地方・朝鮮半島北部にまたがり展開した渤海国。唐や日本など周辺諸国との交易で栄え、当時の東アジア情勢において「海東の盛国」と称されるほどの古代国家であったが、資・史的制約により、長らくその具体的な様相を詳らかに把握することが困難であった。しかし、冷戦終結に伴い、旧渤海地域における考古学調査・研究が飛躍的に進み、渤海国の政治・行政制度、国際交流の諸相、文化受容の有り様などが明らかになってきた。30年に亘る考古学・文献史学の国際共同研究より得た知見から最新の研究成果を提示する画期的論集。

【目次】

序言●清水信行・鈴木靖民

第I部●渤海の統治制度と国際交流

第II部●クラスキノ古城の機能と性格

第III部●沿海地方渤海遺跡の出土遺物

あとがき●清水信行

執筆者一覧／索引(人名索引・地名索引・事項索引)

※詳細目次は裏面をご覧ください。

【執筆者一覧(掲載順)】

清水信行

鈴木靖民

金子修一

浜田久美子

赤羽目匡由

澤本光弘

宋基豪

田村晃一

小嶋芳孝

A.L.イヴリエフ

V.I.ボルディン

酒寄雅志

中澤寛将

E.I.ゲルマン

N.V.レシチェンコ

[編者紹介]

清水信行(しみず・のぶゆき)

1949年生まれ。助東洋文庫研究員(非常勤)、青山学院大学文学部名誉教授。専門は日本考古学。

著書に『論集 沿海州渤海古城 クラスキノ古城の機能と性格』(編著、青山学院大学清水研究室、2013年)、『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』(編著、青山学院大学清水研究室、2017年)、論文に「韓国論山郡開泰寺出土銘文瓦についての一考察」(『日本考古学』五、日本考古学協会、1998年)、「渤海上京龍泉府出土の平瓦・丸瓦」(田村晃一編『東アジアの都城と渤海』東洋文庫論叢第64、助東洋文庫、2005年)などがある。

鈴木靖民(すずき・やすたみ)

1941年生まれ。横浜市歴史博物館館長、淑徳大学客員教授、國學院大学名誉教授。専門は日本古代史・東アジア古代史。

著書に『日本の古代国家形成と東アジア』(吉川弘文館、2011年)、『倭国史の展開と東アジア』(岩波書店、2012年)、『比較史学への旅—ガリア・ローマから古代日本へ』(勉誠出版、2012年)、『梁職貢図と東部ユーラシア世界』(編著、勉誠出版、2014年)、『日本古代の周縁史』(岩波書店、2014年)、『相模の古代史』(高志書院、2014年)、『古代日本の東アジア交流史』(勉誠出版、2016年)、『日本古代交流史入門』(編著、勉誠出版、2017年)、『古代の日本と東アジア 人とモノの交流史』(勉誠出版、2020年)などがある。

書名	部数
渤海の古城と国際交流 清水信行・鈴木靖民 ^[編]	部
本体14,000円(+税) B5判上製カバー装・496頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22289-7・C3020	
ご送付先ご住所(通信欄)	

【目次】

序言◎清水信行・鈴木靖民

第I部◎渤海の統治制度と国際交流

交易の視角からみた渤海国◎鈴木靖民

渤海をめぐる唐代の国際関係◎金子修一

渤海の外交文書——王啓を中心に◎浜田久美子

渤海の中央官制と地方制度◎赤羽目匡由

燕雲地域の漢人と滅亡以降の渤海人——〈陳万墓誌〉〈耶律宗福墓誌〉〈高爲裘墓誌〉など遼代石刻をてがかりに◎澤本光弘

六頂山古墳群の性格と渤海建国集団◎宋基豪(清水信行訳)

〔研究ノート〕渤海墓研究の検討——鄭永振の研究を中心に◎清水信行

渤海王陵・貴族墓論(その2)◎田村晃一

第II部◎クラスキノ古城の機能と性格

渤海時代のロシア沿海地方◎小嶋芳孝

考古学から見たクラスキノ古城の機能と性格◎田村晃一

クラスキノ古城の調査と沿海地方における渤海の考古学的研究◎A.L.イヴリエフ・V.I.ボルディン(清水信行訳)

沿海地方クラスキノ古城——歴史から見た特徴と機能◎A.L.イヴリエフ(垣内あと訳)

Nature and function of Kraskino walled town in Primorye region through the historical viewpoint◎A.L.Ivliev (translation by A.L.Ivliev)

渤海平地域とクラスキノ城跡——ポシエト湾周辺遺跡群の評価◎小嶋芳孝

クラスキノ古城と塩州◎酒寄雅志

〔コラム〕クラスキノ古城発掘調査30年とロ・日共同調査◎V.I.ボルディン(垣内あと訳)

Retrospective glance on 30 years of excavation of Kraskino ancient town and beginning of cooperation with Japanese archaeologists

◎V.Boldin (translation by A.L.Ivliev)

クラスキノ古城発掘調査記◎清水信行

第III部◎沿海地方渤海遺跡の出土遺物

クラスキノ城址出土土器の特質とその意義◎中澤寛将

クラスキノ古城の土器◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

Pottery of Kraskinskoye walled town◎E.I.Gelman (translation by E.I.Gelman)

沿海州渤海遺跡出土瓦についての一考察◎清水信行

クラスキノ古城における特殊な遺構——瓦の側壁を持つ地下式堅穴状遺構

◎V.I.ボルディン・E.I.ゲルマン・N.V.レシチェンコ・A.L.イヴリエフ(清水信行訳)

渤海の金属製カンザシ◎小嶋芳孝

渤海・女真代城郭城門の研究◎E.I.ゲルマン(垣内あと訳)

あとがき◎清水信行

執筆者一覧

索引(人名・機関名索引／地名・史跡名索引／事項名索引(国家名・民族名含む))

工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 (編)

だいじようさい

大嘗祭

隠された古層

「一三〇〇年の伝統」をどう捉えるか

毎年一月にある五穀豊穰や国家安寧を祈る「新嘗祭」の中でも、天皇即位後初めて行う儀式である大嘗祭。

令和の天皇即位に伴う皇室行事「大嘗祭」の中心的儀式「大嘗宮の儀」は、

二〇一九年一月一四〜一五日未明にかけて行われた。

アニミズム的原理をおおもととする大嘗祭を、どのように今の時代の価値観の中に位置づけたらよいか。

民主主義、国民主権という現在の価値観の中で、

国民が自ら納得できる説明、論理は形成できるのか。

大嘗祭の本質の側から、今とこれからの時代の大嘗祭、

ひいては天皇制のあり方を考えるための視座を与える一冊。

「編者プロフィール」

工藤 隆 (くどう たかし) 大東文化大学名誉教授。

主な著書に『大嘗祭の始原』(三書房、一九九〇年)、『雲南省へー民族歌垣と日本古代文学』(勉誠出版、二〇〇六年)、『古事記の起源』(中公新書、同、二〇一七年)ほか多数。

岡部隆志 (おかべ たかし) 共立女子短期大学名誉教授。

専門は日本古代文学、近現代文学、民俗学。主な著書に『古代文学の表象と論理』(武威野書院、二〇〇三年)、『短歌の可能性』(ながらみ書房、二〇一五年)、『アジア歌垣論 附中国雲南省白族の歌掛け資料』(三弥井書店、二〇一八年)などがある。

遠藤耕太郎 (えんどう こうたろう) 共立女子大学文学部教授。

専門は日本古代文学、中国少数民族文化。主な著書に『モノ人母系社会の歌世界調査記録』(大修館書店、二〇〇三年)、『古代の歌ーアジアの歌文化と日本古代文学』(瑞木書房、二〇〇九年)、『万葉集の起源ー東アジアに息づく抒情の系譜』(中公新書、二〇二〇年)などがある。

「目次」

「大嘗祭 隠された古層」刊行の意義 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭と天皇制 ● 工藤 隆

大日本帝国憲法・旧皇室典範と天皇制／日本国憲法・新皇室典範と天皇制／大嘗祭の源流／天皇の超越性／天武持統政権ー日本の統治機構のスタート／大宝律令に見る天皇祭祀の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭祝詞に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

秘儀としての大嘗祭ー曖昧なる天皇の超越性 ● 岡部隆志

天皇の超越性／大嘗祭の二つのとらえ方／天皇が帯びる霊威の解釈／曖昧さこそが大嘗祭の本質／大嘗祭における祭神／皇祖アマテラス祭神説が抱える問題／大嘗祭の特徴をまとめると／大嘗の祭祝詞に見る大嘗祭の構造／天皇の曖昧さと秘儀の役割

シンポジウム討議 大嘗祭 隠された古層

パネリスト ● 工藤隆・岡部隆志 司会 ● 遠藤耕太郎

大嘗祭の古層／天武持統朝と大嘗祭／大嘗祭と情念／大嘗祭と女性性・天皇制／曖昧な大嘗祭と日本／祀る神と祀られる神／ツカサの就任儀礼と大嘗祭／東アジアの新嘗儀礼

大嘗祭を取材して ● 高島博之

はじめに／退位の意向／大嘗祭の位置づけ／秋篠宮さまの反発／大嘗祭とは何か／実際の大嘗祭

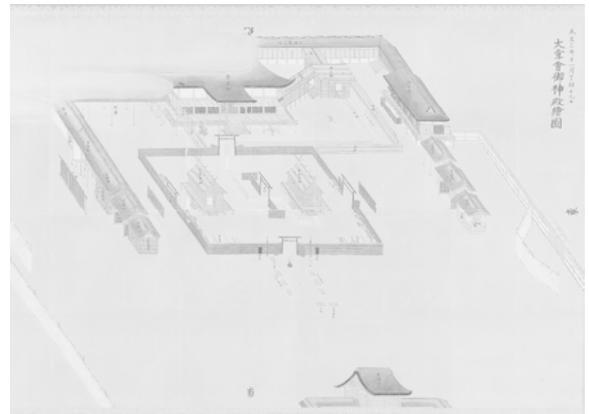
● 座談会 大嘗祭の今とこれから

● 工藤 隆・岡部隆志・山田直巳・高島博之 司会 ● 遠藤耕太郎
大嘗祭の捉え方／折口信夫の大嘗祭論／秋篠宮発言をめぐって／世界文化遺産としての大嘗祭／天皇が継承するもの／天皇の根拠／皇位継承のこれから／天皇制のこれから

● 付録資料 マレー半島セランゴール地方の収穫儀礼

● W・W・スキート (翻訳 遠藤見和)
稲魂の回収儀式の準備／田で母穂束から稲魂を取る儀式／稲魂を再生させる儀式／三日後の脱穀と乾燥／母穂束に関する儀式／新嘗の祝宴／最後の稲穂の収穫

あとがき ● 岡部隆志



大嘗会御神殿絵図 (國學院大學図書館蔵)

本体 3,800 円(+税)
四六判並製カバー装・296頁
ISBN978-4-585-21057-3 C1014
2021年2月刊行

書名	部数
大嘗祭ー隠された古層	部
工藤 隆・岡部隆志・遠藤耕太郎 (編)	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

本体 3,800 円(+税)
四六判並製カバー装・296頁
2021年2月刊行
ISBN978-4-585-21057-3 C1014

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

中世日本において寺院は、宗教的な施設のみならず、

貴顕や武士等、様々な人々が行き交う、

政治・経済・文化形成にも大きな影響を有した場であった。

しかし、諸寺院内部で伝持されてきた史料群は、

その特質からアクセスが容易ではなく、

編者らによる寺院史料の調査・研究の方法論の構築により、

近年、大きな研究の進展を見せるようになった。

畿内近国、関東に所在する諸寺院に伝来する

史料群の博搜により、寺内・寺外の僧俗の

社会的かつ宗教的な関わりをなかで、

「日本仏教」を形づくる多彩な仏法とその発展を実現した

寺院社会の構造と思想的背景を立体的に描き出し、

中世寺院の歴史的特質と展開を明らかにする貴重な成果。

中世日本を読み解くための必読の書

【編者紹介】

永村 眞(ながむら まこと)

一九四八年生まれ。日本女子大学名誉教授、人間文化研究機構理事、東大寺学術顧問。専門は日本中世史・中世仏教史。
著書に『中世東大寺の組織と経営』(塙諸房、一九八九年)、『中世寺院史料論』(吉川弘文館、二〇〇〇年)、『中世醍醐寺の仏法と院家』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

【目次】

はしがき：永村 眞

I 醍醐寺の法流と修学

中世醍醐寺の顕・密「聖教」と法儀：永村 眞

南北朝内乱と清浄光院房玄：石田浩子

南北朝から室町前期における理性院流と

太元帥法別当職の相承

——理性院宗助と大覚寺證菩提院光覚の対立——：佐藤亜莉華

醍醐寺三寶院門跡滿濟の教学活動：姜 錫正

醍醐寺・根来寺と田舎本寺との僧僧交流

——尾張国万徳寺を通して——：藤井雅子

「義演准后日記」とその紙背文書：関口真規子

修法と秘号——五大虚空藏法を通して——：井上清子

醍醐寺所蔵「野月」と松橋流秘点：高橋恵美子

II 寺院の法会と社会

中世南都の法華会：高山有紀

「春日権現験記絵」の編纂者：坪内綾子

中世東寺の修学活動——西院と観智院——：西 弥生

十五世紀における北野社領西京と西京神人：三枝暁子

春日社神供備進と興福寺学侶：高山京子

室町將軍家の比丘尼御所と根本所領：小谷量子

III 中世の仏法と寺院

撰関期・院政期における聖徳太子信仰と女性

——四天王寺に集った女性たち——：神原史子

鎌倉前期寺院社会の禪宗理解：矢野立子

中世「律院」と「結界」：飯田晶子

中世鑊阿寺の寺内組織：中田 愛

雑賀衆の戦いと鈴木孫一：三浦早織

あとがき：藤井雅子

定価 二二,二〇〇円(税込)
(本体二一,〇〇〇円)

A5判上製カバー装・六四〇頁

二〇二一年五月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部 数

定価 13,200円(税込)・本体12,000円

A5判・上製カバー装・640頁

2021年5月刊行

ISBN978-4-585-31001-3 C3015

部

中世寺院の仏法と社会

永村 眞【編】

書 名

ご送付先ご住所(通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

中世の 博多とアジア

伊藤幸司〔著〕

中世日本における 国際交流の最前線

中世日本においてアジアへの窓口であり、アジアにおける日本への窓口でもあった博多。

アジアの海商が来航する博多での貿易活動は、民間取引や国家外交など、

多様で広範な国際交流のなかで展開されていた。

また、博多で展開する宗教勢力は、こうした国際交流と密接不可分の状況で展開し、その影響はネットワークを通じて広く列島の各所にも及んでいた。

中世の博多をもつとも特徴付ける要素である「貿易」と「宗教」という視角から俯瞰的に考察し、中世日本最大の国際貿易港であり、東アジア海域有数の港湾都市であった博多の実像に迫る。

国際交流史、都市史、流通史、宗教史を架橋する新知見を提示する画期的な一書。

【著者紹介】

伊藤幸司（いとうこうじ）

九州大学大学院比較社会文化研究院教授。

専門は日本中世史・東アジア交流史。

著書に『中世日本の外交と禅宗』(吉川弘文館、二〇〇二年)、『日明関係史研究入門』(共編著、勉誠出版、二〇一五年)、『室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる』(責任編集、大内氏歴史文化研究会編、勉誠出版、二〇一九年)などがある。

【目次】

カラー口絵

凡例

序章 中世博多研究の潮流

第一部◎貿易都市博多

第一章 港町複合体としての中世博多湾

第二章 中世博多の海商と海の道——南島路をめぐる

第三章 日朝関係における偽使の時代——博多商人の視点から

第四章 中世後期の博多とアジア

第二部◎宗教都市博多

第五章 宗教都市博多の中世——寺社を中心として

第六章 博多と鎌倉——鎌倉時代の日本禅宗界

第七章 首羅山・油山と東アジア

第八章 中世の崇福寺をめぐる

第九章 博多聖福寺と臨済宗幻住派

第三部◎博多の史料研究

第一〇章 聖福寺古図と承天寺古図——描かれた戦国時代の博多

第一一章 湖心碩鼎『願賢録』について

終章 アジアのなかの港市博多

史料編◎湖心碩鼎『願賢録』

凡例

『願賢録』乾

『願賢録』坤

初出一覧

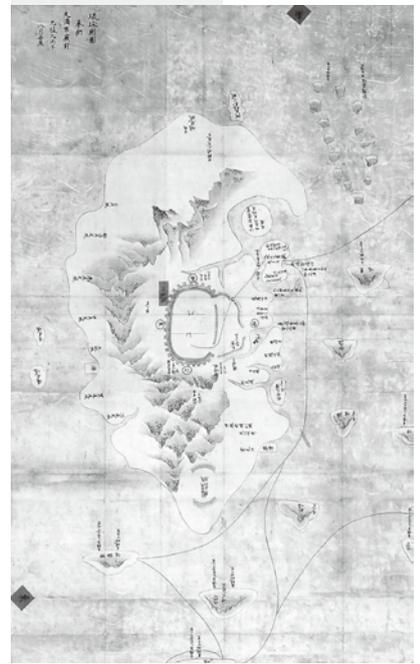
研究費使用一覧

あとがき

掲載図表一覧

参考文献一覧

索引



部数

本体 9,500円(+税)

A5判・上製カバー装

カラー口絵4頁+本文560頁

2021年2月刊行

ISBN978-4-585-22300-9 C3020

部

中世の博多とアジア

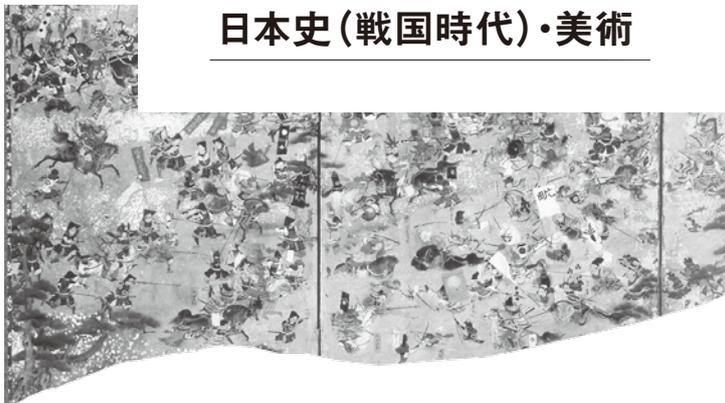
伊藤幸司 [著]

ご送付先ご住所 (通信欄)

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX◎03-5215-9025



戦国合戦図屏風の歴史学

高橋 修 [著]

点数版図
223点

豪華絢爛！細密の極致！
「戦国合戦図屏風」はなぜ作られたのか？

「川中島合戦図屏風」
「長篠・長久手合戦図屏風」
「関ヶ原合戦図屏風」など、
主要作品20数点を、
歴史学の視点から丹念に読み解き、
図像的特徴や成立背景、
写本の普及と合戦像の定着、
後世の評価について明らかにする。
長年、合戦図屏風を追究してきた
著者による研究成果の集大成。

【著者紹介】

高橋 修 (たかはし おさむ)

茨城大学人文社会科学部教授。専門は日本中世史。主要著書に『中世武士団と地域社会』(清文堂出版、二〇〇〇年)、『図説戦国合戦図屏風の世界』(監修、学研、二〇〇二年)、『異説』もうひとつの川中島合戦―川中島合戦図屏風の発見(洋泉社、二〇〇七年)、『熊谷直実 中世武士の生き方』(吉川弘文館、二〇一四年)、『信仰の中世武士団―湯浅一族と明恵』(清文堂出版、二〇一六年)などがある。

【目次】

カラー口絵
序 論…「戦国合戦図屏風」の世界

第一部◎「川中島合戦図屏風」と甲越軍学

第一章…紀州本「川中島合戦図屏風」と紀州徳川家
第二章…軍学者宇佐美定祐について
―紀州本「川中島合戦図屏風」の周辺
第三章…甲越軍学の軌跡
―山本勘助と宇佐美駿河守を生み出したもの

〔補説〕…享保二年(一七一七)四月十五日付
栗林次郎左衛門(政盛)宛大河原重祐要門流印可状

第四章…山本勘助と『甲陽軍鑑』

〔補説一〕…狩野文庫の杉山家資料

〔補説二〕…「武田信玄配陣図屏風」と「武田信玄本陣之図」について
第五章…米沢市上杉博物館蔵「川中島合戦図屏風」
―画面構成と成立背景

第六章…ミュージアム中仙道蔵「川中島合戦図屏風」の
図像的特徴と成立背景―公武協調の時代と「上杉謙信」

第二部◎「長篠・長久手合戦図屏風」

第七章…「長篠・長久手合戦図屏風」の概要と論点

第八章…「長久手合戦図屏風」の成立と展開

第九章…「長篠合戦図屏風」を読む

第十章…尾張・紀伊兩徳川家における小牧・長久手合戦の研究と顕彰
第十一章…豊田市郷土資料館蔵「長篠・長久手合戦図屏風」の
図像的特徴と成立背景

第三部◎「合戦図屏風」の諸相

第十二章…「賤ヶ岳合戦図屏風」と「川角太閤記」

第十三章…「蔚山合戦図屏風」(朝鮮軍陣図屏風)の成立と展開

第十四章…和歌山県立博物館蔵「壬辰倭乱図屏風」について

第十五章…「関ヶ原合戦図屏風」の概要と研究の現状

第十六章…「長谷堂合戦図屏風」

第十七章…「湊川合戦図屏風」の世界

第十八章…「結城合戦絵詞」とは何か

補 論…その他の作品の手引き

総 論…総括と課題

戦国合戦図屏風所在一覧
あとがき／初出一覧／索引

本体 9,000円(+税)

A5判・上製カバー装
カラー口絵32頁+本文496頁
ISBN978-4-585-22301-6 C3021
2021年2月発売

<p>書 名</p> <p>戦国合戦図屏風の歴史学</p> <p>高橋 修 [著]</p>	<p>部 数</p> <p>本体 9,000円(+税)</p> <p>A5判・上製カバー装 カラー口絵32頁+本文496頁 2021年2月発売 ISBN978-4-585-22301-6 C3021</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

鷹狩の日本史

たかがり

福田千鶴・武井弘一 [編]

知られざるヒトとタカの関係史

飼い慣らした鷹を自在に操り、獲物を捕らえる狩猟、鷹狩。

五世紀の古墳時代から

江戸幕府瓦解の十九世紀後半に至るまで、

鷹狩は権力と深く結びつきながら

日本列島において連綿と続けられてきた。

そこには、日本の風土や社会のなかで

地域・時代・階層、あるいは狩猟の目的等にあわせて

独自に発展してきた固有の歴史が存在する。

日本史を貫く重要な要素でありながら、

等閑視されてきた鷹狩の歴史を紐解き、

新たな知の沃野を拓く刺激的な一冊。

編者プロフィール

福田千鶴 ふくだちづる

一九六一年生まれ。九州大学基幹教育院教授。鷹鷹場・環境研究会代表。専門は日本近世史。著書に『幕藩制の秩序と御家騒動』(校倉書房、一九九九年)、『徳川綱吉』(山川出版社、二〇一〇年)、『近世武家社会の奥向構造』(吉川弘文館、二〇一八年)、『城割の作法』(吉川弘文館、二〇二〇年)などがある。

武井弘一 (たけいこういち)

一九七一年生まれ。琉球大学国際地域創造学部准教授。鷹鷹場・環境研究会副代表。専門は日本近世史。著書に『鉄砲を手放さなかった百姓たち』(朝日新聞出版、二〇一〇年)、『江戸日本の転換点』(NHK出版、二〇一五年)、『茶と琉球人』(岩波書店、二〇一八年)などがある。



目次

第1部 古代から近世までの通史的展開

- 第1章 古代日本の鷹狩◎森田喜久男
- 第2章 中世日本の鷹狩◎中澤克昭
- 第3章 近世日本の鷹狩◎武井弘一
- 【ラム1】鷹・馬・犬からみた生類憐みの令◎兼平賢治
- 【ラム2】山林原野の明治維新と御猟場◎江藤彰彦

第2部 鷹と人との関係史

- 第4章 鷹の種類と調教◎福田千鶴
- 【ラム3】琉球の鷹狩儀礼と生態系◎武井弘一
- 第5章 鷹狩をめぐる江戸時代のツルの「保護」と人との関わり◎久井貴世
- 第6章 琵琶湖の水鳥狩と鷹場◎東 昇
- 【ラム4】鳥取藩「湖山鴨堀」と周辺環境◎米見田博基
- 第7章 越後国村上藩主松平直矩の鷹と鷹狩◎渡部浩一
- 第8章 大洲藩の狩——御鷹野場と生業◎東 昇
- 第9章 尾張藩家臣の鷹場
- 【ラム5】「さだ六とシロ」の物語◎福田千鶴

第3部 日本列島における鷹の諸相

- 第10章 「御鷹」の献上・下賜◎越坂裕太
- 【ラム6】「御鷹」拝領と「御鷹」二而捉飼◎鳥類の時献上
- 武鑑を糸口に◎藤貫久美子
- 第11章 松前藩と鷹鳥屋場知行◎榎森 進
- 【ラム7】将軍の鷹と馬◎兼平賢治
- 第12章 盛岡藩の鷹と鷹鷹の捕獲◎中野渡一耕
- 【ラム8】参勤交代にみる鷹の役割◎米見田博基
- 第13章 南九州における鷹巢山について——米良山を中心に◎大賀郁夫

第4部 鷹狩文化を担った人々

- 第14章 鷹詞と有職故実◎大坪 舞
- 第15章 鷹狩の絵画——近世初期における鷹狩への眼差し◎水野裕史
- 第16章 銅鳥勝茂と鷹◎伊藤昭弘
- 第17章 鷹匠として生きる武士たち◎堀田幸義
- 【ラム9】江戸における鷹匠の交流◎岩淵令治
- 第18章 鷹書と出版文化◎藤貫久美子
- 【ラム10】越境する鷹狩文化
- 中央ユーラシアを駆ける鷹狩と鷹匠の世界◎相馬拓也

あとがき◎武井弘一
執筆者紹介◎掲載図版一覧◎鷹狩年表◎索引



書名	部数
鷹狩の日本史 福田千鶴・武井弘一 [編]	部
本体3,800円(+税) A5判・並製カバー装・368頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-22297-2 C1021	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

中近世移行期の文化と古活字版

高木浩明 [著]

人々を魅了した新たなメディア

十六世紀末、従来出版活動を行っていた寺院はもとより、天皇や將軍そして新興の豪商などをも魅了した、日本書物史における新たなメディアが誕生した。

——古活字版である。

これらは、どのような環境において、いかなる人的ネットワークのもとで刊行され、どのように享受されたのか。古典の代表作として広く享受され、多数の現存伝本を持つ下村本『平家物語』、史上稀なる豪華活字版本として製作された「嵯峨本」、そして、古活字版製作をめぐる場と人びとに着目し、長年にわたる古活字版の悉皆調査を行ってきた知見をもとに日本出版史における古活字版の時代を炙り出す。

嵯峨本諸本、『平家物語』下村本諸本の現存伝本目録を収載。

「著者プロフィール」……

高木浩明 (たかぎ ひろあき)

清風高等学校・近畿大学文学部非常勤講師。専門は日本中世文学、書誌学。古活字版の悉皆調査により、第3回「岩瀬弥助記念書物文化賞」を受賞。著書、論文に「古活字版悉皆調査目録稿(一)」「(九)鈴木俊幸編『書籍文化史』第十一～十九集、二〇〇一～八年」、「大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿」(調査研究報告第四十号、国文学研究資料館、二〇二〇年)などがある。

図版点数
約200点!

「目次」……

はじめに

第一部 下村本『平家物語』とその周辺

第一章 下村本『平家物語』と製作環境をめぐる

第二章 下村本『平家物語』書誌解題稿

第三章 『平家物語』十行平仮名古活字本は

下村本の底本たり得るか

第四章 下村本『平家物語』とその周辺

——國學院大學図書館蔵本から考えられること

第五章 『平家物語』古活字覚一本についての覚書

第六章 古活字版『源平盛衰記』の諸版について

第二部 「嵯峨本」の世界

第一章 「嵯峨本」再見——現存伝本調査報告

第二章 嵯峨本『伊勢物語』書誌考証

第二章付録 嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年初刊本)

部分異植字一覧

第三章 古活字版『伊勢物語』書誌解題稿

第四章 嵯峨本『方丈記』書誌考証

第五章 嵯峨本『撰集抄』書誌考証

第三部 古活字版をめぐる場と人々

第一章 『百人一首抄』(幽齋抄)成立前夜

——中院通勝の果たした役割

第二章 『徒然草寿命院抄』成立前夜

——中院通勝真筆本『つれく私抄』の紹介を兼ねて

第三章 古活字版『徒然草寿命院抄』書誌解題稿

第四章 角倉素庵と学問的環境

第五章 古活字版を必要とした人々

第六章 古活字版『大和物語』の刊行年時を考える

第七章 古活字版『後漢書』の刊行年時を考える

第八章 本文は刊行者によって作られる

——要法寺版『沙石集』を糸口にして

第九章 要法寺という場について考える

第十章 二兵衛とその出版活動をめぐる覚書

おわりに／初出一覧／図版一覧／索引

本体15,000円(+税)

A5 判上製カバー装・880頁
ISBN 978-4-585-20077-2・C3000
2020年11月刊行

書名	部数
中近世移行期の文化と古活字版	部
高木浩明 [著]	部
本体15,000円(+税) A5 判上製カバー装・880頁 ISBN 978-4-585-20077-2・C3000 2020年11月刊行	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

儒教儀礼と 近世日本社会

松川雅信 [著]

閻斎学派の『家礼』実践

近世日本にとって儒教儀礼とは
何であったのか――

科挙のような儒教的制度を持たない一方、
仏教の葬儀や祭祀が行われていた近世日本社会。
そうした社会を生きる儒者たちは、
殊に東アジアで絶大な影響力を誇った

『家礼』記載の喪祭礼を、どのように捉え、
そしていかにして実践しようとしたのか。

長期間にわたってこの問題と真摯に向き合い続けた、
山崎闇斎を学祖とする閻斎学派に着目、
思想と社会とが様々に交錯する
現場に立ち入ること、

これまで見落とされてきた
近世日本儒教の新しい一面を照らし出す。

受賞致しました！

- 「第15回 立命館白川静記念東洋文字文化賞奨励賞」
- 「第15回 日本思想史学会奨励賞(書籍部門)」
- 「第7回 中村元東方学術奨励賞」

目次

序章

第一部 浅見綱斎とその周辺

第一章 「此方ナリ」の『家礼』実践
――基軸としての「本」と「文」――

第二章 「物ナリ」の思考――「格物」と喪礼実践

第三章 「心ノ理ナリ」による来格――鬼神論と祭礼実践

第二部 閻斎学派の地域展開と『家礼』実践
――尾張と上総を中心に――

第四章 尾張藩の学問所と『家礼』
――蟹養斎による喪祭礼実践の教導――

第五章 寺請・寺檀体制下の『家礼』実践
――中村習斎と尾張崎門派――

第六章 「反徂徠」と『家礼』実践――稲葉黙斎と上総道学

終章

あとがき
索引

本体 **10,000**円(+税)
 A5判上製カバー装・440頁
 ISBN 978-4-585-21056-6 C3010
 2020年7月刊行

書名	部数
儒教儀礼と近世日本社会 閻斎学派の『家礼』実践 松川雅信 [著]	本体10,000円(+税) A5判上製カバー装・440頁 ISBN978-4-585-21056-6 C3010 2020年7月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	部

「著者プロフィール」

松川雅信(まつかわ まさのぶ)

日本学術振興会特別研究員。専門は日本思想史、日本近世史。主要論文に、「近世儒者の神代巻批判と『神道』上古」(鈴木貞斎に即して)、『山下久夫斎藤英喜編『日本書紀1300年史を問う』思文閣出版、二〇二〇年)、「近世日本の儒教儀礼と儒者――東アジア思想史のための試論的考察」(桂島宣弘ほか編『東アジア 遭遇する知と日本』トランスナショナルな思想史の試み『文理閣』、二〇一九年)、「稲葉黙斎の喪礼実践論――徂徠学批判・仏教認識に注目して」(第一回日本経済思想史学会賞受賞)、『日本思想史学』五号(二〇一八年)などがある。

創られた 由緒 近世大和国諸社と 在地神道家

向村九音 著

さきむら・ちかね——奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程、満期退学。博士(文学)。
現在、日本学術振興会特別研究員。専門は日本中世・近世の文学。主な論文に「大乘院寺社雑事記」
を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能」(『叙説』43、奈良女子大学日本アジア言語
文化学会、二〇一六年)、「今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関」(『説
話文学研究』55、説話文学会、二〇二〇年)などがある。

【目次】

- 第一章 今出河一友概説
第二章 今出河一友による石上神宮由緒記の生成——「家の由緒」との連関
第三章 「大三輪神三社鎮座次第」の成立と言説の共有
附論 「大乘院寺社雑事記」を中心に見る率川社——中世期に形成された像と機能
第四章 「大倭神社注進状並率川神社記附裏書」に見る大和国諸社の由緒再編
第五章 近世期六師神社における由緒生成と古伝の「再発見」
第六章 近世における石上神宮鎮魂祭儀礼次第生成の位相
結び
附表Ⅰ 今出河一友著作・書写本の一覧
附表Ⅱ 大阪府立中之島図書館石崎文庫所蔵大神宗次関連典籍の一覧
翻刻資料 國學院大学図書館所蔵『鎮魂祭略儀式』
参考文献一覧・あとがき・初出一覧・索引

「古え」は、 いかにして 語られたのか

近世中葉、幕府・藩の統制のもと社寺の秩序化が行われるようになる。社寺の復興、復権などを目的として「由緒」が希求されるようになった。それら「由緒」を説く任にあたったのは、神職や僧侶、そして神道家(神学者)であった。石上神宮・大神神社・大和神社といった山辺の古社をはじめとして大和国諸社の由緒記を述作した在地神道家、今出河一友。由緒正しき伝——「失われた古伝」、「俗説とは異なる真の伝」の創出を企図した彼は、いかなる方法を用いて、歴史的・文化的正統性を描き出したのか。また、その言説は、地域社会において、どのように受容され、伝播していったのか。「古え」「淵源」を語る営みの意味を捉えかえす画期的著作。

定価 八、八〇〇円(税込)

【本体八、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・二八八頁

二〇二一年六月刊行

ISBN978-4-585-31002-0 C3014

書名	部数
創られた由緒 近世大和国諸社と 在地神道家 向村九音(著)	定価8,800円(税込) 本体8,000円 A5判・上製カバー装・288頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-31002-0 C3014
ご送付先ご住所(通信欄)	



永嶺重敏
〈著〉

ながみね・しげとし◎一九五五年生まれ。九州大学文学部卒業。元東京大学図書館職員。出版文化・大衆文化史研究者。日本出版学会、本マスコミュニケーション学会、メディア史研究会、日本ボビュ音楽学会会員。著書に「雑誌と読者の近代」(日本エッセイスト・クラブ出版部、一九九七年、日本出版学会賞)、「オペラ節と明治」(文春新書、二〇〇八年)、「リンドロの唄」(の真実―戦後初めての流行歌を追う) (青弓社、二〇一八年)、「歌う大衆と関東大震災―「船頭小唄」はなぜ流行したのか」(青弓社、二〇一九年) など多数。

明治の一発屋

芸人たちが

珍芸四天王と 民衆世界

四天王は なぜ消えた？

「ステテコ」の円遊、「ヘラヘラ」の万橋、「ラッパ」の円太郎、「テケレツ」の談志。

全国的な熱狂を引き起こしたにもかかわらず、歴史の狭間に消えた「珍芸四天王」たちの実像に迫る！

序章●明治前期の落語界と 新奇性の追求

- ◎落語家の人数◎寄席と劇場と観客
- ◎寄席の取り締まりと新奇性の追求

第一部●珍芸の誕生とその民衆的起源

第一章◎ステテコ踊りの「新手」の誕生

- ◎ステテコ踊りとは◎ステテコ踊りの起源に関する定説
- ◎円遊の真打ち昇進とステテコ踊りの「新手」の誕生
- ◎ステテコ踊りの歌の変遷

第二章◎ヘラヘラ・ラッパ・テケレツの誕生―都市路上の再現

- ◎ヘラヘラ踊りは大道芸に起源
- ◎ラッパの円太郎―東京の路上の再現
- ◎談志は「郭巨」の故事を実演

第二部●珍芸ブームの 全国的拡大と民衆世界

第三章◎珍芸ブームの展開過程

- ◎ヘラヘラ・ステテコが珍芸ブームを先導
- ◎七人男ブームの誕生◎四天王ブームへの移行
- ◎落語界から反発の声上がる

第四章◎珍芸ブームが全国へ広がる

- ◎珍芸の市中への拡がり◎珍芸の地方への伝播
- ◎関西の女芸人によるヘラヘラブーム

第三部●四天王の凋落と 新たな芸人の登場

第五章◎四天王の凋落

- ◎大一座の解体◎万橋の「田舎稼ぎ」
- ◎ラッパ芸に生きた円太郎◎円遊は落語界の重鎮へ
- ◎落語研究会と円遊の凋落

第六章◎明治二十年代の新たな芸人と歌の流行

- ◎川上音二郎と「オペラ節」
- ◎春風亭双枝と「ヤツケロ節」◎徳永里朝と「緑かいな」

おわりに・参考文献・挿図一覧

- 資料1 「万橋坊主ノ伝」 椋盆子(関謙之)
- 資料2 四天王の口演速記演目リスト(明治期刊行分)
- 資料3 円遊口演の録音資料

本体3,500円(+税)
四六判上製カバー装・280頁(附・カラー口絵)
2021年1月刊行
ISBN978-4-585-27058-4 C0076

<p>書名</p> <p>明治の一発屋芸人たち</p> <p>珍芸四天王と民衆世界</p> <p>永嶺重敏〈著〉</p>	<p>部数</p> <p>本体3,500円(+税)</p> <p>四六判上製カバー装・280頁(附・カラー口絵)</p> <p>2021年1月刊行</p> <p>ISBN978-4-585-27058-4 C0076</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

アーネスト・サトウと

蔵書の行方

『増補浮世絵類考』
の来歴をめぐって
プロヴィナンス

小山騰 [著]

その「本」はどこから来て、
どこへ行ったのか——

幕末・明治期、英国の外交官・日本研究者として活躍し、日本の古書収集家として傑出した人物であったアーネスト・サトウ。

そのサトウのコレクションの中に浮世絵の研究、特に謎の浮世絵師「写楽」の考証にとつての重要な資料である『増補浮世絵類考』が含まれていた。

作者の斎藤月岑の死後、サトウの所蔵をへて、ケンブリッジ大学図書館にたどり着くまでの期間、この本はどのような変遷をたどったのか。

写本として受け継がれた『浮世絵類考』の全般にかかわる問題にも言及しつつ、その謎を追う。

【著者プロフィール】

小山騰 (こやまのぼる)

一九四八年愛知県生まれ。成城大学文芸学部卒業。慶應大学大学院修士課程(日本史)修了。ロンドン大学UCLでPG Dip(図書館・情報学)を取得。国会図書館勤務などを経て、一九八五年から二〇一五年までケンブリッジ大学図書館日本部長。

主な編著書に、『日本の刺青と英国王室——明治期から第二次世界大戦まで』(藤原書店、二〇〇〇年)、『ケンブリッジ大学図書館と近代日本研究の歩み』(勉誠出版、二〇一七年、第二十回図書館サポーターフォーラム賞受賞)、『戦争と図書館——英国近代日本語コレクションの歴史』(勉誠出版、二〇一八年)などがある。

【目次】

はしがき——本題のまぐらとして、まず剣客と写本の話
序章

第一章 『浮世絵類考』

第二章 『増補浮世絵類考』を入手した事情をさぐる

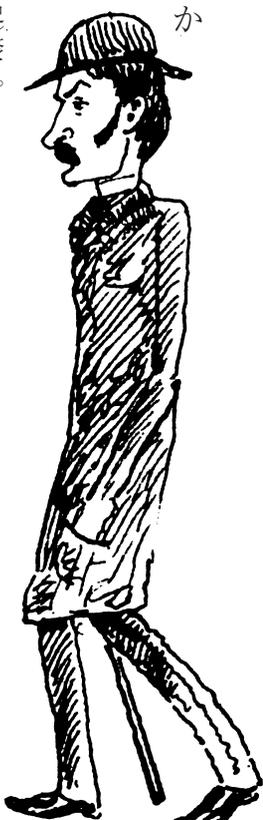
第三章 アーネスト・サトウの蔵書収集

第四章 サトウの蔵書の行方と蔵書目録

第五章 アンダーソンとサトウ

終章

あとがき／参考文献一覧／人名索引



本体 四、二〇〇円(+税)

四六判上製カバー装・四六四頁

二〇二〇年十一月刊行

ISBN978-4-585-20078-9・C1000

書名	部数
アーネスト・サトウと蔵書の行方 『増補浮世絵類考』の来歴をめぐって 小山騰 [著]	本体 4,200円(+税) 四六判上製カバー装・464頁 ISBN 978-4-585-20078-9・C1000 2020年11月刊行
ご送付先ご住所(通信欄)	

ローザ・カーロリ〈著〉……一九六〇年生まれ。ウエネツア「カフオスカリ」大学教授。専門は、日本近現代史、沖縄史、江戸・東京の都市史。
大内紀彦／フィリップ・ドルネッティ〈訳〉

土地の記憶から
読み解く

早稲田

江戸・東京の
なかの
小宇宙
ミクロコスモ



古写真・古地図・古文書
浮世絵・古文書
など、
**図版点数
100点超!**

大都市東京の周縁、 早稲田界隈。

低地と台地と、多くの坂に形どられたこの地を
歩き続けた一人のイタリア人研究者がいた。

神田川・東京専門学校・尾張藩下屋敷・穴八幡宮・
胸突坂・夏目漱石・椿山荘――

過去と現在、様々な学問領域を横断する自在な構想力で、
古代・中世・近世に遡る土地の基層を掘り起こし、
早稲田という「小宇宙(ミクロコスモ)」から、

江戸・東京という「大宇宙(マクロコスモ)」を描く。

膨大な文献・史料・地図の博搜と現地踏査から
土地の文化的・歴史的価値を発見する、

もうひとつの江戸・東京学。



本書の構成

読書案内……陣内秀信

カラー口絵

【第1章】井の頭から江戸の井戸まで
――神田川と水都としての江戸の発展

【第2章】江戸から大江戸へ
――振袖火事と早稲田界隈の下屋敷の誕生

【第3章】椿の山――神田川の北側

【第4章】早稲田

陣内秀信先生
推薦!

『東京の空間人類学』著者、
ブラタモリでもあなじみ。

本体二七〇〇円(+税)

四六判並製カバー装・二七二頁(+カラー12頁)
二〇二一年三月中旬刊行
ISBN978-4-585-22299-6 C0021

書名	部数
土地の記憶から読み解く 早稲田 江戸・東京のなかの小宇宙 ローザ・カーロリ〈著〉大内紀彦／フィリップ・ドルネッティ〈訳〉	部
本体 2,700円(+税)	
四六判並製カバー装・272頁(+カラー口絵12頁) 2021年3月刊行 ISBN978-4-585-22299-6 C0021	
ご送付先ご住所(通信欄)	

【オンデマンド
新版】

菅
豊・北條勝貴〔編〕

パブリック・ヒストリー 入門 開かれた歴史学への挑戦

本体四、八〇〇円(+税)

A5判並製

カラー八頁+本文五〇四頁

二〇二一年三月刊行

ISBN978-4-585-82254-7 C1021

「歴史」は、誰のものか――

人びとが語り、紡いできた歴史、そして、人びとが歴史とともに、歴史を糧に生きていくという行為に目を向け、学問と社会の対話を目指す「パブリック・ヒストリー」は、いま世界的な広がりを見せている学問分野である。歴史学や社会学、文化人類学のみならず、文化財レスキューや映画製作等、さまざまな歴史実践の現場より、歴史を考え、歴史を生きる営みを紹介。人間と歴史との関わりを考え、日常に活かしていくための知識と方法を伝える貴重な一冊。パブリックヒストリーを考えるための日本初の概説書！

【編者紹介】

菅 豊（すが ゆたか） 一九六三年生まれ。東京大学大学院情報学環・学際情報学府、東洋文化研究所教授。専門は民俗学。著書に『川は誰のものか――人と環境の民俗学』（吉川弘文館、二〇〇六年）、「人と動物の日本史3――動物と現代社会」（編著、吉川弘文館、二〇〇九年）、「新しい野の学問」の時代へ――知識生産と社会実践をつなぐために（岩波書店、二〇一三年）などがある。

北條勝貴（ほっしじょう かつたか） 一九七〇年生まれ。上智大学文学部教授。専門は東アジア環境文化史。著書に『環境と心性の文化史』上下（共編著、勉誠出版、二〇〇三年）、『寺院縁起の古層――注釈と研究』（共編著、法蔵館、二〇一五年）、「歴史を学ぶ人々のために――現在をどう生きるか」（共著、岩波書店、二〇一七年）などがある。

【目次】

I 理論 Theories

II 実践 Practices

歴史家とは誰か？
Who is the Historian?

協働

Collaboration

オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー
Oral History and Writing History

ミュージアムとアーカイブズ
Museums and Archives

デジタル・パブリック・ヒストリー
Digital Public History

アートと歴史映写
Art and Historiophony

【執筆者一覧】

- 菅豊 ● 北條勝貴 ● 中澤克昭 ● 俵木悟
- 西村明 ● 市川秀之 ● 及川祥平
- 宮内泰介 ● 加藤幸治 ● 加藤圭木
- 金子祥之 ● 石井弓 ● 金菱清 ● 川田牧人
- 西村慎太郎 ● 小山亮 ● 村上忠喜
- 後藤真 ● 渡邊英徳 ● 塚原伸治
- 飯田高誉 ● 青原さとし ● 今井友樹

書名	部数
パブリック・ヒストリー入門 開かれた歴史学への挑戦 菅豊・北條勝貴〔編〕	部
本体4,800円(+税)	
A5判並製・カラー8頁+本文504頁	
2021年3月刊行	
ISBN978-4-585-82254-7 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田神保町3-10-2 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX ● 03-5215-9025

パブリック・ヒストリー入門

開かれた歴史学への挑戦

◆おへん

口絵

菅 豊 ●序文 パブリック・ヒストリー——現代社会において歴史学が向かうひとつの方向性

I 理論 Theories

菅 豊 ●パブリック・ヒストリーとはなにか？

北條勝貴 ●〈ありのままの事実〉を支えるもの——近代日本における歴史実践の多様性
中澤克昭 ●プラクティカル・パストと日本史——中世歴史実践史ノート

II 実践 Practices

《歴史家とは誰か？ Who is the Historian?》

俵木 悟 ●歴史と芸——神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践

西村 明 ●いまに生きる、いまに生かす歴史的空間における歴史実践
——「Oターン郷土誌家」を目指して

市川秀之 ●滋賀県下の字誌にみる歴史実践

及川祥平 ●〈コラム〉「武田家属将美名録」はなぜ配られたのか——ある末裔の歴史実践

《協働 Collaboration》

宮内泰介 ●「八重子の日記」をめぐる歴史実践

加藤幸治 ●更地と工事現場からの文化創造と歴史実践
——津波被災地における復興キュレーション

加藤圭木 ●朝鮮・日本の歴史認識と市民的協働
——「韓国併合」100年をめぐる日韓の運動から

金子祥之 ●〈コラム〉「歴史」を回す——オビシャ行事とオニッキをめぐる歴史実践

《オーラル・ヒストリーとライティング・ヒストリー

Oral History and Writing History》

石井 弓 ●戦争記憶をめぐる再帰的な歴史実践
——オーラル・ヒストリーによる他者理解と自己理解

金菱 清 ●オーラル・ヒストリーの敗北宣言——想像の死者へ向けた手紙

川田牧人 ●〈コラム〉「歴史」する聖地創出

《ミュージアムとアーカイブズ Museums and Archives》

西村慎太郎 ●歴史資料の保全と地域貢献

小山 亮 ●東京大空襲・戦災資料センターを拠点とした
「東方社コレクション」をめぐる活動——共同研究の進展と成果の公開

村上忠喜 ●〈コラム〉民俗文化財に対する内部者の目線と外部者の目線

《デジタル・パブリック・ヒストリー Digital Public History》

後藤 真 ●歴史のデータは誰のものか——Digital Historyがもたらす未来とは

渡邊英徳 ●「記憶の解凍」
——資料の「フロー」化とコミュニケーションの創発による記憶の継承

塚原伸治 ●〈コラム〉歴史を刻む音楽——ある祭り囃子の「成長」

《アートと歴史映画 Art and Historiophoty》

飯田高善 ●歴史・アーカイブズ・アートの連環
——青森EARTH(2012 超群島)／

青原さとし ●映像という歴史叙述
〈2013 すばらしい新世界〉——再魔術化するユートピア

今井友樹 ●〈コラム〉映像で文化を切り取る歴史実践の可能性と課題
——姫田忠義の映像製作

北條勝貴 ●パブリック・ヒストリアンへの道程——あとがきにかえて

新装版

唐物と東アジア

船載品をめぐる文化交流史

固定的な東アジア観を超越する

好評につき
重版

唐物とよばれる船載品は、奈良から平安、そして中世や近世まで、どのように受容され、日本文化史に息づいているのだろうか。唐物交易の時代的変遷とその実態からみた異国との交流史、唐物を結節点とする漢と和の関係性への分析、人物とその権力の表象としての唐物の関係性について、美術品や歴史資料のみならず、文学資料も用いて明らかにする。

もくじ

- 序にかえて：河添房江
- 「唐物」研究と「東アジア」的視点―日本古代・中世史研究を中心として：皆川雅樹
- 日本美術としての「唐物」：島尾新
- コラム―唐物と日本の古代中世：五味文彦
- 奈良時代と「唐物」：森公章
- 上代の船載品をめぐる文化史：河添房江
- 『万葉集』と古代の遊戯―双六・打毬・かりうち：垣見修司
- 平安時代と唐物：シャルロット・フォン・ヴェアシア
- 算賀・法会の中の茶文化と『源氏物語』―書かれざる唐物：末沢明子
- コラム―唐物としての書物：小島毅
- 唐物としての黄山谷：前田雅之
- 中世唐物再考―記録された唐物：古川元也
- 戦国織豊期の唐物―唐物から名物へ：竹本千鶴
- コラム―唐物と虚栄心の話をしよう！：上野誠
- 江戸時代の唐物と日蘭貿易：石田千尋
- 琉球使節の唐旅と文化交流：真栄平房昭

新装版 あとがき：皆川雅樹
執筆者一覧

※本書は、『唐物と東アジア』（アジア遊学147号）の品切にともない、新装刊行した書籍になります。



青磁香炉
中国・元時代 | 称名寺蔵

本体 2,000円(+税)

A5判並製カバー装・208頁

2021年4月刊行

ISBN978-4-585-22140-1 C1021

河添房江・皆川雅樹 [編]

「かわぞえ・ふさぎ」一九五三年生まれ。東京学芸大学教育学部教授。平安文学を専攻。古典文学と東アジア関係を研究。主著に『源氏物語時空論』（東京大学出版会）『唐物の文化史』（岩波新書）など多数。「みながわ・まさき」一九七八年生まれ。専修大学附属高等学校教諭。専門は日本古代史。古代東アジアの交流史と政治・文化史との連関などを研究。主著に『日本古代王権と唐物交易』（吉川弘文館）など。

書名	部数
新装版 唐物と東アジア ―船載品をめぐる文化交流史 河添房江・皆川雅樹 [編]	部
本体2,000円(+税) A5判並製カバー装・208頁 2021年4月刊行 ISBN978-4-585-22140-1 C1021	
ご送付先ご住所（通信欄）	

観相の文化史

相田 満 [著]



人相占いに代表される「観相」の知識体系が、文学・絵画等の表現活動にどのような影響を及ぼしてきたか

古典的相書の記述と関連資料の分析により、「忘れられた日本の学問」の具体相の把握、継承性と応用の可能性を追究することを試みる。

著者プロフィール

相田 満 (あいだみつる)

国文学研究資料館および総合研究大学院大学准教授。文学博士。論著等に『元号の歴史大事典・大化から令和由来と改元の原因』(監修、くもん出版、二〇一九)『時空間とオントロジで見る和漢古典学』(勉誠出版、二〇一六)『古典化するキャラクター』(アジア遊学130、勉誠出版、二〇一〇)、『和漢古典学のオントロジ』(勉誠出版、二〇一七)など。

目次

序 章 ● 本書の概要

第 I 章 ● 利休の顔——観相的分析の試み

第 II 章 ● 俗相の利休——利休の顔 二

——『秀雅百人一首』に収載される異形の利休像の観相的分析

第 III 章 ● 曲亭馬琴『南総里見八犬伝』の石龍子『神相全編正義』受容

——観相的分析の試み

第 IV 章 ● 騎馬武者像再考

——足利尊氏像主説を西川祐信『絵本武者備考』と

観相の視点から考える

第 V 章 ● 聖徳太子の観相——観相的分析の試み(渡辺信和氏と共著)

第 VI 章 ● 相書に見る声で定命を知る平安時代の観相譚

——『今昔物語集』巻六第四八の延命譚を

敦煌文書と比較して分析する

第 VII 章 ● 異相をめぐる言説の系譜——重瞳を中心に

第 VIII 章 ● 総論的序章——まとめと補足

本体九、〇〇〇円(十税)

A5判・上製カバー装

二八〇頁+カラー口絵八頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29203-6 C3095

<p>書 名</p> <h2>観相の文化史</h2> <p>相田満 [著]</p>	<p>部 数</p> <p>本体 9,000円(+税)</p> <p>A5判・上製カバー装 280頁+カラー口絵8頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-29203-6 C3095</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	

二松學舎大学文学部中国文学科「編」

改訂新版

中国学入門

中国古典を学ぶための13章

本体 一、六〇〇円 (+税)

A5判並製カバー装・二三二頁

二〇一七年四月刊行

ISBN978-4-585-20056-7 C1000

※本書は二松學舎大学文学部中国文学科編
『中国学入門』(2015年)の改訂新版です。

「もくじ」

- 古文学学◎戸内俊介
中国古代理学論——二十一世紀の古文学学
- 古代歴史書◎小方伴子
物語伝承と歴史書——晋文公の放浪譚と史書「国語」
- コラム◎小方伴子
日本における「国語」の受容と訓点本
- 古代思想◎野間文史
経書略説——五経を中心にして
- 中国文学論◎牧角悦子
中国文学という方法
—— 兩漢・六朝から唐代までの文学意識と詩文
- コラム◎牧角悦子
夏目漱石と漢詩
- 宋明思想◎田中正樹
宋代士大夫の思想とその展開——宋学と明学
- 古典小説◎伊藤晋太郎
「三国志」を文学する——「三国志」から「三国志演義」へ
- コラム◎伊藤晋太郎
神になった「三国志」の英雄
- 二十世紀文学◎武永尚子
文豪老舎——その生涯と作品
- 中国語学・中国語教育◎張佩茹
現代中国語文法研究与中国語教育
- 中国書道◎高澤浩一
偉人・王羲之と陶淵明を書く！
- 日本書道◎福島一浩
日本書道史が蓄えた書美
——中国書法の摂取と創造の熱意
- 日本漢学◎町泉寿郎
日本漢学略史
——日本における中国学術文化の学び
- 書誌学◎高山節也
漢籍書誌学のすすめ——古本整理案内記
- 古代文学◎冢井眞
銘文から「詩経」へ
お役立ちサイト集／執筆者一覧



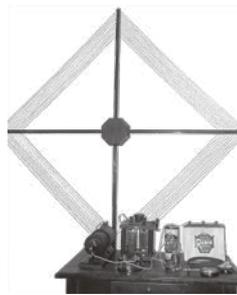
中国の文学・歴史・思想・芸術などの文化を研究する「中国学」。歴史をひもとけば分かるように、私たちの精神や思想の背景には、広く中国や朝鮮半島など東アジアからの影響がある。中国学を学ぶことは、自分自身を知ることにつながるだろう。古代から二〇世紀にいたる中国文化の展開や日本における影響を概観し、その豊穡な世界を分かりやすく紹介する。

中国古典を学ぶために必携の一冊！

書名	部数
改訂新版中国学入門【オンデマンド版】 中国古典を学ぶための13章 二松學舎大学文学部中国文学科「編」	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

ラジオの技術・産業の百年史

岡部匡伸 [著]



本体 **5,400** 円(+税)

A5判・上製カバー装・550頁
ISBN978-4-585-22295-8 C1020
2020年12月刊行



図版点数
200点以上!!

大衆メディアの誕生と変遷

本邦初!

ラジオ誕生から現在までの全歴史を網羅!

長野県松本市にある日本ラジオ博物館の膨大なコレクションを紹介。
ラジオの発明、放送技術の誕生、放送局の設立、世界各地での放送開始から、戦時下の国家による統制・管理の時代を経て、戦後の娯楽メディアとしての興隆、テレビ、インターネットの影響によるラジオの変容まで、100年の歴史を追う。



【目次】

はじめに

序章 ラジオが始まるまで

第1部 ラジオのはじまりから終戦まで

—新たなメディアの登場から発展、
そして戦時下へ 1920~1945

第1章 ラジオ放送のはじまり

第2章 ラジオの交流化と普及

—エリミネーターからミゼットへ 1928-34

第3章 ラジオの普及と戦争の時代—1935-38

第4章 戦時下のラジオ

第2部 ラジオの戦後復興

—どん底からの再出発、
民放のはじまりからラジオの黄金時代へ 1946~1954

第1章 焼け跡からの戦後復興

—国民型受信機と全波受信機の時代 1946-48

第2章 占領の終わり、民放開局前夜

—業界の淘汰とアマチュアの台頭 1949-50

第3章 民放開局と5球スーパーの流行—ラジオの黄金時代 1951-55

第4章 復興から成長へ—ST管からmT管へ



第3部 高度成長期のラジオ

—トランジスタが輸出の花形へ、
テレビとの共存の時代 1955~1973

第1章 高度成長の始まり

第2章 真空管からトランジスタへ

第3章 若者文化とラジオ

第4章 高度成長の終わり



第4部 石油ショック後のラジオ—安定成長からデフレへ、 多メディアの中のラジオ 1973~現代、そして未来へ

第1章 BCLとラジカセ—1970年代のラジオ

第2章 ハイテクとデジタル—1980年代のラジオ

第3章 バブル崩壊とグローバル化の時代—1990年代のラジオ

第4章 21世紀のラジオ

終章 ラジオの未来

あとがき／付録／索引



岡部匡伸 (おかべ・ただのぶ) — 1970年代後半よりラジオ、オーディオに興味を持ち、収集を始める。1986年アキュフェーズ株式会社入社、現職。同社勤務のかたわら、2007年よりネットミュージアム「日本ラジオ博物館」を主宰。館長。2012年、長野県松本市に展示施設を開設、公開し、現在に至る。主要論文に「生産統計、聴取者統計に見るラジオ受信機普及状況」(『電気学会電気技術史研究会資料』HEE-97-1、1997年)など。

書名	部数
ラジオの技術・産業の百年史 大衆メディアの誕生と変遷 岡部匡伸 [著]	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

絶滅危惧種を

喰らう

秋道智彌
岩崎望 [編]

われわれには、何ができるのか――

現在、年間一〇〇〇種の野生動物が絶滅しており、
いったん絶滅した生き物は二度と地球上にもどることはない。
乱獲、生息地の分断、幼獣の食害、生息地環境の劣化……
さまざまなシナリオで人間は動物を絶滅に追い込む。
野生動物を絶滅から救うために、我々は何をすべきなのか。
野生動物を「喰らう」問題、「装う」問題、
そしていかにして野生動物を絶滅から救うかについての方策と
よりどころとなる思想について多角的な視点から論じる。

図版掲載点数130点以上!

編者プロフィール

秋道智彌(あきみち・ともや)

山梨県立富士山世界遺産センター所長。専門は生態人類学、海洋民族学、民族生物学。日本・東南アジア・オセアニアにおける漁撈民の生態史、海洋民族学の研究、コモンズ論の研究に従事。最近では日本の明治・昭和前期の漁業についての資料解析をおこなう。著書に『魚と人の文明論』(臨川書店、二〇一七年)、『交錯する世界 自然と文化の再構築』(フリップ・デスコラとの対話) (編著、京都大学学術出版会、二〇一八年)、『たたき人の人類史』(玉川大学出版部、二〇一九年)などがある。

岩崎望(いわさき・のぞむ)

立正大学地球環境科学部教授。専門は海洋生物学、寶石サンゴの生態と持続的利用に関する研究を行っている。著書に『珊瑚の文化誌―宝石サンゴをめぐる科学・文化・歴史』(編著、2008年)、『珊瑚―宝石珊瑚をめぐる文化と歴史』(共編著、二〇一二年)、『いずれも東海大学出版会』、『ドキュメンタリーDVD』(『深海3572mに生きた』(二〇一二年)、『宝石サンゴ 科学調査の現場から』(二〇一六年)、『いずれも東京シネマ新社』などがある。



本体二、二〇〇円(+税)
A5並製カバー装
二八〇頁+カラー口絵八頁
二〇二〇年二月刊行
ISBN978-4-585-24014-3 C1045

目次

序章 絶滅危惧動物とヒト――かわりあいの歴史と文化◎秋道智彌

第1部 絶滅危惧種を喰らう

- 第1章 「隣人」としてのゾウ―バカ・ビケミーのゾウ肉タブーから読み解くヒト社会の進化史的基盤◎安岡宏和
- コラム1 メコンのシンボル「ブライフック」の危急と活用◎秋篠宮文仁
- コラム2 センザンゴウの肉とウロコ◎大石高典
- 第3章 凋落する大衆回遊魚―サケとウナギ◎森田健太郎、黒木真理
- コラム3 フカヒレ狂騒曲◎鈴木隆史

第2部 絶滅危惧種の商品化と文化化

- 第4章 ウミガメはなぜ減少するようになったのか◎亀崎直樹
- コラム4 フウチョウに倣って着飾るタンサー
- コラム5 ホッキョククジラを守りながら食べる―北極海の先住民捕鯨◎岸上伸啓
- コラム6 イルカ漁をめぐる二つの局面
- 第6章 宝石サンゴ―限りある資源と限りなき欲望◎岩崎望
- コラム7 鯨歯文化も絶滅するのか―捕鯨の副産物◎内田昌宏
- 第3部 絶滅危惧種の保全と利用
- 第7章 野生動物の違法取引と戦う―ワシントン条約と日本◎井田徹治
- 第8章 日本の「ゼロ絶滅」と「持続可能な利用」達成へのみちぞし◎東梅貞義
- コラム8 捕鯨は悪か―アンチ・スーパードール論◎秋道智彌
- 第9章 絶滅危惧種を創る、護る
- コラム9 新たな絶滅要因、感染症によるパラダイムシフト◎岡安直比
- コラム10 チンパンジーを笑うヒトは滅びる◎中村美穂
- 第10章 食べて守るか、食わずに守るか◎松田裕之
- コラム10 殺さずに末永く利用する

成功例ルワンダのゴリラツーリズム◎井田徹治
終章 霊性の復権―絶滅危惧種へのつきあい◎秋道智彌
索引



書名	部数
絶滅危惧種を喰らう	
秋道智彌・岩崎望 [編]	
ご送付先ご住所 (通信欄)	
本体3,200円(+税) A5判・並製・カバー装 256頁+カラー口絵8頁 2020年12月刊行 ISBN978-4-585-24014-3 C1045	部

パリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生

坂野正則 [編]

歴史・信仰・空間から考える

文化財を伝え、守る

二〇一九年四月十五日に発生した大規模な火災により尖塔や屋根を焼失し、世界中に大きな衝撃をもたらしたパリ・ノートルダム大司教座聖堂。八五〇年の歴史をもつこの大聖堂は初期ゴシック建築の傑作であると同時に、中世以降も、様々な統治権力との結びつきを保ちながらフランスの「国民的記憶」の一翼を担い続けてきた。

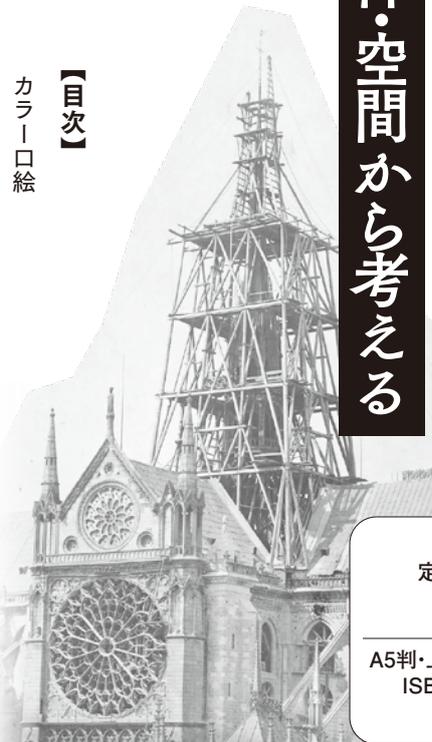
重要な文化財、そして、宗教施設である大聖堂を空間的・社会的・精神的に「再生」させるためにはどのような方法がふさわしいのか。

絵画作品、図面、大聖堂の写真といった豊富なビジュアル資料とともに、キリスト教神学・建築史学・西洋史学・文化財学による領域横断的なアプローチにより、「ノートルダム大聖堂」の歴史、その復興・再生を考察する。

【编者紹介】

坂野正則(さかのまさのり)

上智大学文学部史学科教授。専門は西洋史学、フランス近世史。主な共著に『近世王国の社会と宗教』(平野千果子編著)、『新しく学ぶフランス史』(ミネルヴァ書房、二〇一九年)、『絵画から読み解くフランス宗教戦争』(上智大学文学部史学科編)、『歴史家の調弦』(上智大学出版、二〇一九年)などがある。



【目次】

- カラー口絵
 - 序 章 ● 歴史遺産と信仰空間としてのパリ・ノートルダム大聖堂の再建…坂野正則
 - 特別寄稿 ● ノートルダム火災のあとで…クリスチャンヌ・ウルティック(原敬子訳)
 - ゴシック時代の教会建築を巡る神学的理解
 - 聖書解釈との関連から…坂田奈々絵
 - 第1章 ● 「COLUMN」 神に会いに行く、みんなの家…原敬子
 - 第2章 ● 「COLUMN」 中世における都市パリと大聖堂
 - シテ島東側の空間形成を中心に…嵩井里恵子
 - 第3章 ● 大司教座聖堂としてのパリ・ノートルダム大聖堂の成立
 - 近世空間における権力と聖性…坂野正則
 - 第4章 ● パリ・ノートルダム大聖堂の近世におけるリノベーション…中島智章
 - 第5章 ● 「COLUMN」 パリのノートルダム大聖堂火災と再建築をめぐって…中島智章
 - 第6章 ● ノートルダム大聖堂とヴィオレール・デュクの木造尖塔…加藤耕一
 - 第7章 ● 近現代ヨーロッパにおけるゴシック様式大聖堂の社会史…松島明男
- 編集を終えて…坂野正則

定価 **8,800** 円(税込)
[本体8,000円]

A5判・上製カバー装・口絵8頁+本文280頁
ISBN978-4-585-31000-6 C3014
2021年3月刊行

<p>書名</p> <p>パリ・ノートルダム大聖堂の伝統と再生</p> <p>歴史・信仰・空間から考える</p> <p>坂野正則 [編]</p>	<p>部数</p> <p>定価 8,800 円(税込) [本体8,000円]</p> <p>A5判・上製カバー装・口絵8頁+本文280頁 ISBN978-4-585-31000-6 C3014 2021年3月刊行</p> <p>部</p>
<p>ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

メソアメリカ文明ゼミナール

Seminar on Mesoamerican Civilizations

伊藤伸幸 [監修] 村上達也・嘉幡茂 [編集]

古代メソアメリカを研究する複数の新進気鋭の研究者たちが、各自が専門とする地域や分野について詳細に記述。古代メソアメリカ文明に関する基礎的な知識だけでなく、より深い知識や知見を獲得し、さらに現在の学界動向が学べる概説書。

本体 5,000 円 (+税)

A5判並製カバー装・530頁
ISBN 978-4-585-22296-5・C1022
2020年12月刊行

目次

はじめに◎伊藤伸幸

古代メソアメリカ遺跡分布地図

第Ⅰ部 古代メソアメリカ文明の出現背景

氷期にさかのぼる最初のアメリカ人の出現とその拡散◎出穂雅実

狩猟採集社会から定住社会へ◎伊藤伸幸

古代メソアメリカ文明とは何か◎村上達也・嘉幡茂

コラム① 冶金術◎嘉幡茂

第Ⅱ部 古代メソアメリカの歴史

メキシコ湾岸文化——南部地方と中部地方の古代文化◎古手川博一・黒崎充

コラム② ラ・ベンタ◎古手川博一

コラム③ エステロ・ラボン◎古手川博一

コラム④ エル・タヒン◎黒崎充

コラム⑤ カントナ◎黒崎充

コラム⑥ コマルカルコ◎黒崎充

コラム⑦ テオバンテクアエトラン◎古手川博一

メキシコ中央高原文化——テオティワカンからトルテカ◎村上達也・嘉幡茂

コラム⑧ クイグイルコ◎嘉幡茂

コラム⑨ トランカレカ◎嘉幡茂・村上達也

コラム⑩ チョルーラ◎嘉幡茂

コラム⑪ ソチカルコ◎嘉幡茂

コラム⑫ カカシュトラ・ショチテカトル◎嘉幡茂

アステカ文化◎井上幸孝

コラム⑬ 貢納台帳◎井上幸孝

コラム⑭ テンプロ・マヨール◎井上幸孝

コラム⑮ 市場(ティアングス)◎井上幸孝

マヤ文化——先古典期と古典期◎今泉和也

コラム⑯ ティカル◎今泉和也

コラム⑰ パレンケ◎今泉和也

コラム⑱ コパン◎今泉和也

コラム⑲ チチェン・イツァ◎今泉和也

後古典期マヤ文化◎白鳥祐子

コラム⑳ ウシュマル◎白鳥祐子

南東部太平洋側文化◎市川彰

コラム㉑ タカリク・アバフ◎市川彰・八木宏明

コラム㉒ チャルチュアパ◎市川彰・八木宏明

コラム㉓ カミナルフユ◎市川彰・八木宏明

コラム㉔ 火山灰編年学◎市川彰

コラム㉕ ホヤ・デ・セレン◎市川彰・八木宏明

オアハカ文化——サポテカとミシュテカ◎柳澤佐永子・福原弘識

コラム㉖ モンテ・アルバン◎福原弘識

コラム㉗ サン・ホセ・モゴータ◎福原弘識

コラム㉘ ミトラ◎柳澤佐永子

メキシコ西部文化◎吉田晃章

コラム㉙ ワチモンテン◎今泉和也

コラム㉚ ラ・ケマダ◎今泉和也

コラム㉛ ツインツツツァン◎今泉和也

メキシコ北西部文化◎荒川史康

コラム㉜ カサス・グランデス(バキメ)◎今泉和也

中央アメリカ文化◎長谷川悦夫

第Ⅲ部 メソアメリカ考古学と隣接科学

形質人類学◎鈴木真太郎

コラム㉝ 同位体分析による古食性推定◎瀧上舞

コラム㉞ DNA分析◎鈴木真太郎

民族学・文化人類学◎小林貴徳

歴史学◎井上幸孝

碑文学◎柳澤佐永子

絵文書学◎柳澤佐永子

保存修復科学◎喜多裕子

博物館学とパブリック考古学◎村野正景

考古学◎村上達也

動植物学◎浪形早季子・村上達也

コラム㉟ 貝塚◎浪形早季子

コラム㊱ 漁撈◎浪形早季子

コラム㊲ カカオ◎井上幸孝

おわりに◎嘉幡茂・村上達也

古代メソアメリカ編年表

索引/執筆者紹介

監修者・編者プロフィール

伊藤伸幸(いとうのぶゆき)

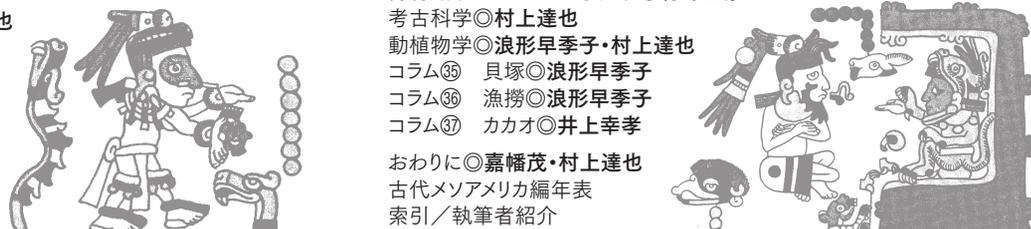
名古屋大学・助教。専門はメソアメリカ考古学(特に先古典期文化)。主な著書に、『メソアメリカ先古典期文化の研究』(深水社、2010年)、『中米の初期文明オルメカ』(同成社、2011年)など。

村上達也(むらかみ・たつや)

チューレーン大学・准教授。専門はメソアメリカ考古学、物質文化論、考古学。主な論文に「酒と水と嵐の神の壺——形成期終末期トランカレカにおける都市の発展と社会統合」(共著、『古代アメリカ』第22号、2019年)など。

嘉幡茂(かばた・しげる)

京都外国語大学・嘱託研究員。専門はメソアメリカ考古学、パブリック考古学。主な著書に、『テオティワカン——「神々の都」の誕生と衰退』(雄山閣、2019年)、『図説マヤ文明』(河出書房新社、2020年)など。



書名	部数
メソアメリカ文明ゼミナール	本体 5,000 円 (+税)
伊藤伸幸 [監修] 村上達也・嘉幡茂 [編集]	A5判並製カバー装・530頁
	ISBN 978-4-585-22296-5・C1022
	2020年12月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	部

中野幸一〈著〉

物語文学の諸相と展開

平安文学研究の大家による
提言や試論を集めた必読の二書。

『源氏物語』『うつほ物語』『堤中納言物語』などの
物語史を検証。

緻密な文章表現の分析により、
物語世界に新たな解釈を提示する。

『平家公達草紙』『しづくににぐる物語』『下燃物語』
『すもり物語』『しら露物語』など

新出の物語文学資料に関する論考も充実。

〈著者プロフィール〉

中野幸一（なかの・こういち）

早稲田大学名誉教授。文学博士。

専攻は平安文学。二〇一一年瑞宝中綬章受章。

主な編著書に『物語文学論攷』（教育出版センター、一九七一年）、『うつほ物語の研究』（武蔵野書院、一九八一年）、『奈良絵本絵巻集』全12

巻別巻3巻（早稲田大学出版部、一九八七～一九八九年）、『常用源氏物語要覧』（武蔵野書院、一九九五年）、『源氏物語古註釈叢刊』全十巻（武蔵野書院、一九七八～二〇一〇年）、『フルカラー 見る・知る・読む

源氏物語』（勉誠出版、二〇一三年）、『ちりめん本影印集成 日本昔

噺篇』（共編、勉誠出版、二〇一四年）、『正訳源氏物語本文対照』

全十冊（勉誠出版、二〇一五～二〇一七年）、『正訳紫式部日記本文対照』

（勉誠出版、二〇一八年）などがある。

〈もくじ〉

はじめに

古代物語の系譜と類別——物語史の検証——

前期物語の性格——物語史の検証——

長編物語の成立をめぐる（講演）

古物語の合成発展——短編から長編へ——

『うつほ物語』の成立年代

——史実・歳事・風俗上からの考察——

『うつほ物語』の叙述の方法——長編物語への試み——

『うつほ物語』の構造

『源氏物語』の一回性人物——その消滅型と再生型——

『源氏物語』の「かざり」について

『源氏物語』の表現方法——短文表現と再叙表現——

『源氏物語』の遡及表現

『源氏物語』の依存表現

『源氏物語』における強調・感動・傍観の草子地

『源氏物語』における「夕ばえ」の解釈について

猪苗代兼載『源氏一部抜書』の資料的価値

『物語のいできはじめのおや』考

——『竹取物語』の文学史上の地位——

『源氏取り』の物語の方法

草子地攷

『紫式部日記』の時間的構造

——その回想と執筆時期について——

『堤中納言物語』の形態とその編纂意図

『堤中納言物語』をめぐる試論

——はたして短編物語集か——

六条齋院禊子内親王家の「物語合」について

——その発見時の成果の再吟味——

書陵部蔵の佚名物語一卷について

——『平家公達草紙』の残欠か——

『平家公達草紙』をめぐる

『しづくににぐる物語』考

『下燃物語』の残欠絵巻について

——後期物語の新出資料——

『すもり物語』 覚書

『しら露物語』 考

定価 一、二、一〇〇円（税込）

【本体 一、〇〇〇円】

A5判上製カバー装・五四四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39000-8 C3095

書名	物語文学の諸相と展開	部数	
著者	中野幸一 [著]	定価	13,200円(税込)/本体12,000円
			A5判上製カバー装・544頁
			2021年4月刊行
			ISBN978-4-585-39000-8 C3095
ご送付先ご住所（通信欄）			

中世和歌論

歌学と表現と歌人

中川博夫 [著]

和歌の学理と表現、それを担う歌人たちの営為は、どのような意識・観念のもとに展開していったのか――

和歌の史的蓄積を自らの歌学の中に位置づけ、後の和歌と勅撰集のあり方を方向づけた俊成や定家。彼らの和歌観を直接・間接に選択・継承し、それぞれの和歌のあり方を模索していった為家や京極派。王朝和歌から連なる中世和歌の史の変遷を丁寧に紐解き、個々の特質と連続性を多面的に明らかにする待望の一書。

【著者プロフィール】

中川博夫（なかむら・ひろお）
鶴見大学文学部教授。専門は和歌文学。主な論文に「鎌倉期関東歌壇の和歌――中世和歌表現史試論」（『中世文学』五九、二〇一四年）、「中世和歌表現史試論」（『国語と国文学』二〇一六年）、「実朝を読み直す――藤原定家所伝本『金槐和歌集』抄」（渡部泰明編『源実朝――虚実を越えて』勉誠出版、二〇一九年）などがある。

【目次】

- 序言
 - 序論
 - 1 中古「本歌取」言説史論
本歌取説と実作の評価
――定家の所説と秀歌撰歌をめぐる
 - 2 古注の言説と和歌の実作と現代の注釈と
――「括る」か「潜る」か
 - 3 作意と解釈――『新古今集』の羈旅歌二首をめぐる
 - 4 歌学論
 - 5 『新勅撰和歌集』序の理念
 - 6 『詠歌一体』論
 - 7 『遂加』の方法
 - 8 『越部禅尼消息』論
 - 9 表現論
 - 9 中世和歌表現史論
 - 10 『土佐日記』の和歌の踪跡
 - 11 「空に知る」考
 - 12 「身を身」と「思ふ」考
 - 13 京極派和歌各論
 - 13 「けしき」の様相
 - 14 「三日月」をよむ
 - 15 〈軒〉をとおして
 - 16 〈間〉にうかがう
 - 17 歌人論
 - 17 西行の影響――『十訓抄』と関東歌人に見る
 - 18 臨終の俊成――「普賢品」を覚悟すること
 - 19 妻の死・母の死――俊成・定家と「源氏物語」
 - 20 治世の音・亡国の音――定家とその周辺
- あとがき・初出一覧・索引

本体 二一、〇〇〇円（＋税）
A5判上製カバー装・四九六頁
二〇二〇年十一月刊行
ISBN978-4-585-29199-2・C3092

書名	部数
中世和歌論 ——歌学と表現と歌人 中川博夫 [著]	本体 12,000円（＋税） A5判上製カバー装・496頁 ISBN 978-4-585-29199-2・C3092 2020年11月刊行
ご送付先ご住所（通信欄）	

和漢朗詠集とその享受 増訂版

三木雅博〈著〉

本体 一五、〇〇〇円(+税)
A5判上製カバー装・四八〇頁
二〇二〇年十二月刊行
ISBN978-4-585-29202-9 C3091

*『和漢朗詠集とその享受』
(勉誠出版、一九九五年)の
増補改訂版です。

【目次】

まえがき

序文 伊藤正義

増訂版の刊行にあたって

序 『和漢朗詠集』研究史の沿革と本書

第I篇：『和漢朗詠集』の構成

一 『和漢朗詠集』全般の構成

——『古今集』をはじめとする勅撰和歌集との関において——

二 『和漢朗詠集』上巻四季部の構成——先行詞華集との関連において——

三 『和漢朗詠集』下巻雑部の構成——先行詞華集との関連において——

四 『和漢朗詠集』八月十五夜・月部の構成——都の月・他郷の月——

五 『和漢朗詠集』の部立「白」に関する考察

——『朗詠集』の構成と周辺の資料から——

六 『和漢朗詠集』帝王・親王・丞相部の所収和歌をめぐって

——『古今集』序・同序古注(公任注)とのかかわりを視野において——

第II篇：『和漢朗詠集』の本文

一 『和漢朗詠集』の享受と諸写本の本文形態の相違

二 『和漢朗詠集』古写本における佳句本文の改変をめぐって

三 『和漢朗詠集』古写本における和歌本文の異同と部立の配列

——春部末の「藤」「躑躅」「款冬」の部立を中心に——

四 『和漢朗詠集』博士家写本の解説

——学的情報としての注記の「読み取り」——

第III篇：『和漢朗詠集』の享受と古注釈

一 院政期における和漢朗詠集注釈の展開

——『朗詠江注』から『和漢朗詠集私注』へ——

二 『和漢朗詠集私注』の方法

三 『和漢朗詠集私注』の変貌——平安末期から

室町期にかけての『和漢朗詠集』写本の動向と関連して——

四 鎌倉前期における和漢朗詠集注釈の展開

——『和漢朗詠集私注』から『和漢朗詠集永清注』『和漢朗詠註抄』へ——

五 朗詠注における説話

附篇

一 『千載佳句』の部門の構成に関する考察

——冒頭の四時部を対象として——

二 『和漢朗詠集』所引唐人賦句雑考——出処と享受の問題を中心に——

索引(事項・書名・人名・題目・詩句・和歌)

日本にもたらされた中国の漢詩文、それを承けて平安朝の文人たちがつくりあげた日本の漢詩文、一方で万葉以来展開してきた和歌、これらが享受されていく歴史の交差点に成立したのが『和漢朗詠集』である。本書は『和漢朗詠集』の成立と享受を論じることにより、和の世界が有していた流れと漢の世界からもたらされた流れが交錯し、新しい流れが生み出されていく我が国の文化の創造の過程で現れた、一つの典型的な現象を明らかにしていく。増補・改訂により待望の復刊。

【著者プロフィール】

三木雅博(みき・まさひろ)

一九五四年和歌山県生まれ。大阪市立大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。梅花女子大学文化表現学部日本文化学科教授、博士(文学)。

専門は日中比較文学、平安朝文学。

著書に『平安詩歌の展開と中国文学』(和泉書院、一九九九年)、『平安朝漢文学鈞沈』(和泉書院、二〇一七年)、角川ソフィア文庫『和漢朗詠集現代語訳付き』(株式会社KADOKAWA、二〇一三年)など。

書名	部数
和漢朗詠集とその享受 増訂版 三木雅博〈著〉	部
本体 15,000円(+税) A5判上製カバー装・480頁 2020年12月刊行 ISBN978-4-585-29202-9 C3091	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

玉城司・小幡伍 (編著)

真田幸弘 点取百韻 翻刻と解題

さなだゆきひろてんとりひやくいんほんことかいたい

江戸時代語の宝庫、 大名の点取俳諧を翻刻した資料集

真田宝物館(長野市松代町)が收藏する松代藩第六代藩主・真田幸弘(菊貫)が同座した点取俳諧資料集『菊の分根』の百韻・五十八巻を原本に忠実に翻刻。詳細な解題・解説を附す。武家と庶民の身分を越えた交流の様相を知ることができ、また、「猪牙」(吉原通いの舟)、「素破」(忍者)、「女商・数間」(仲介業者)、「温石」(カイロ)、「列卒」(狩り場の人夫)など、(日葡辞書)にも採られる江戸時代語を多数含む。

俳諧研究のみならず、国語学や、地方と中央を結ぶ歴史学、俳句に詠みこまれた風俗研究等の発展に大きく寄与する一書。

〈本書の特色〉

- 真田幸弘の点取百韻『菊の分根』は、連衆が大名と家臣等の武家、批点する宗匠は庶民であり、身分を越えた交流が俳諧の座でなされた様相を具体的に知ることができる。
- 武家自らが興じた百韻の言葉から、大名等の思想や嗜好をうかがい知ることができる。
- 細川重賢の俳諧資料集『俳諧集』(出水叢書 汲古書院)との比較も可能になり、より多角的な視点から近世俳諧を考察するための基礎資料となる。

〈もくじ〉

カラー口絵
凡例

翻刻

第1冊(宝暦十三年九月二十九日、明和元年八月二十四日) 植た手の／瀧守の／居酒屋に／四季の内に／四季の内に／四季のうちに／蝶は夢／梅一木／梅一木／青柳は／色こそその／青簾／笠とるや／手拭に／笠取るや／鶏頭は

第2冊(明和元年十月十三日、明和二年八月) 初冬や／鳥とは／百年の／初雪や／降れ霞／あれ聞けと／砂書を／穴の明く／うくるすの／咲ふかと／暮惜しむ

第3冊(明和九年七月二十二日、安永元年十一月十六日) 誰か為そ／初秋や／根を分ける／残る蚊を／蟹は子に／放したる／草の戸や／振さくる／柿に六ツ／十六夜も／むかし聞け／されはこそ／磯くさき／しみく／と／横乗の

第4冊(安永元年十二月三日、安永二年二月二十日) 口切や／息才を／水仙の／いや応は／一片の／口切や／水仙は／水仙の／一ツ宛／四季のうちに／思わすも／水にすむ／若菜野や／方円の／水に住む／方円の

解題・解説

解題〈全体〉
解題〈冊子ごと〉

付表明和・安永初期「菊の分根」一覽
あとがき

〈編著者プロフィール〉

玉城司(たまき・つかさ)

上田女子短期大学特任教授。専門は近世俳諧史。主な著書に、『蕪村句集』(角川ソフィア文庫、二〇一一年)、『茶句集』(同、二〇一三年)、共編著に、『元禄名家句集略注 上嶋鬼貫篇』(新典社、二〇一二年)などがある。

小幡伍(おばた・あつむ)

信州大学教育学部卒業。専門は英語教育。主な著書に、『松代歴史散策』(鬼灯書籍、二〇〇九年)、『続・松代歴史散策』(龍鳳書房、二〇一七年)、共編著に、『松代見て歩き』(真田宝物館、二〇〇二年)、『真田宝物館への招待』(同、二〇〇三年)、『松代城ものがたり』(同、二〇〇四年)などがある。

本体 九、〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装
カラー口絵四頁+本文三〇四頁
二〇二一年二月刊行
ISBN978-4-585-29204-3 C3095

書名	部数
真田幸弘点取百韻 翻刻と解題	部
玉城司・小幡伍 編著	
本体 9,000円(+税)	
A5判上製カバー装 カラー口絵4頁+本文304頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-29204-3 C3095	
ご送付先ご住所(通信欄)	

中国古典文学に

描かれた厠・井戸・簪

かわや

かんざし

——民俗学的視点に基づく考察

山崎藍 [著]

「境界」を探る

中国古典文学に描かれる厠や井戸、それにまつわる道具や、井戸の周囲などを「めぐる」という行為には、どのような観念が存在していたのか。「異空間」のひとつとしても位置づけられている厠、そして厠神の存在。文言小説で描かれる「境界としての井戸」の発想を用いて作られた元稹の「夢井」。白居易「長恨歌」におけるかんざし描写の独自性……古代中国の人々がそれらの場所・道具・行為をどのように認識し、如何にその象徴性を詩歌に反映させたかを綿密な資料調査と分析から考察する。従来、等閑視されてきた民俗学的視点から、詩歌研究の新たな可能性を探る快著。

「著者プロフィール」

山崎藍 (やまざき あい)

青山学院大学文学部准教授。専門は中国古典文学。主論文に「京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻校注——『醴泉』井」(名和敏光編『東アジア思想・文化の基層構造——術数と』天地瑞祥志』汲古書院、二〇一九年)、「白居易新築府井底引銀瓶止淫奔也」に詠われる「瓶沈簪折」について——唐詩に垣間見える術数文化」(水口幹記編『前近代東アジアにおける術数文化』アジア遊学 二四四、二〇二〇年、勉誠出版)などがある。

「目次」

緒言

第一章 正と負の厠神
——中国における厠観

第二章 元稹「夢井」考
——中国における井戸観

第三章 元稹「夢井」における「邊井」の意味
——死者を悼む旋回儀礼

第四章 李白「長干行二首 其二」における「邊牀」
——婚姻に関する旋回儀礼

第五章 李賀「後園鑿井」考
——釣瓶と轆轤に託されたもの

第六章 白居易「長恨歌」の試み
——かんざしの喪失と破鏡重円故事

附 流れる汗・にじむ汗
——白居易における舞妓の汗描写を中心に

補論一 京都大学人文科学研究所蔵『天地瑞祥志』第十六翻刻校注
——『醴泉』井

補論二 日本の古典文学における井戸描写概説

あとがき

主要参考文献一覧

英文摘要・中文摘要

索引(人名索引・作品名索引・書名索引)



本体 九,〇〇〇円(+税)

A5判上製カバー装・三三六頁

二〇二〇年十一月刊行

ISBN978-4-585-29200-5・C3098

部数

本体 9,000円(+税)

A5判上製カバー装・336頁
ISBN 978-4-585-29200-5・C3098
2020年11月刊行

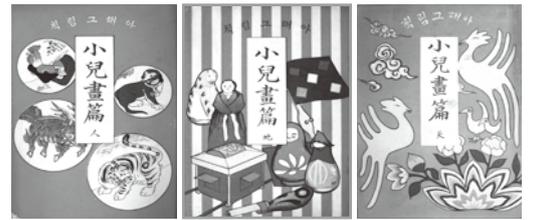
部

書名

中国古典文学に描かれた厠・井戸・簪
——民俗学的視点に基づく考察
山崎藍 [著]

ご送付先ご住所(通信欄)

韓国・朝鮮 説話学の 形成と展開



金廣植 著

Kim Kwangsik (キム・クワンシク)

一九七四年韓国生まれ。東京学芸大学大学院修了(博士)。延世大学校・東京理科大学・横浜国立大学・埼玉大学などの非常勤講師、日本学術振興会特別研究員PDを経て、『東方学志』実践民俗学研究などの編集委員、立教大学兼任講師。主な著書に、『植民地期における日本語朝鮮説話集の研究』(帝国日本の「学知」と朝鮮民俗学)勉誠出版、二〇一四年、『植民地朝鮮近現代説話』(民俗苑、二〇一五年)、『近代日本の朝鮮口碑文学研究』(寶庫社、二〇一八年)、共編著に、『植民地時期日本語朝鮮説話集資料叢書』全13冊(J&C、二〇二二)、『二〇一四年』編著に、『近代日本語朝鮮説話集資料叢書』全4冊(寶庫社、二〇一八年)など多数。

近代教育及び植民地経験を経た韓国・朝鮮民間説話の近代的変容を捉える。

日本人研究者の植民地主義・朝鮮人研究者の抵抗民族主義という

二分法的な図式が散見される朝鮮民俗学史。しかし、そこには日本人研究者の

果たした役割とその影響がきわめて大きく、朝鮮民間説話学は近代日本の

学知の影響を受けながら形成されたものであった。

未公開資料・新出資料を含めた膨大な近代資料を収集・整理・分析し、

説話のモチーフや構造的形式の影響関係に注目。

説話の歪曲という観点を乗り越え、近現代の韓国・朝鮮民間説話学の形成過程を

総合的に分析し、個別説話の伝承とその変容を複合的に捉えなおし、

その意味を考察する。東アジア比較民間説話学を新たに再構築する基盤を提供する一冊。

〈もくじ〉

序章

第1編 朝鮮総督府学務局の民間伝承調査と教科書

- 第1章 日本と植民地朝鮮で実施された民間伝承調査
- 第2章 朝鮮総督府朝鮮語教科書に収録された俚諺の収録過程
- 第3章 民間説話調査の内容とその意味
- 第4章 朝鮮総督府学務局編輯課と朝鮮民俗資料
- 第5章 朝鮮総督府編纂『国語読本』研究の現況と課題
- 第6章 韓国教科書における伝承童話の収録過程

第2編 朝鮮説話・童話集の刊行と比較説話学の展開

- 第1章 帝国日本の「日本」説話集における朝鮮と台湾
- 第2章 ドイツ文学者田中梅吉と朝鮮初の童話集及び絵本
- 第3章 朝鮮語で刊行された童話集と沈宜麟
- 第4章 朝鮮童話集における改作の様相
- 第5章 1920年前後における日韓比較説話学の展開
- 第6章 孫晋泰の東アジア民間説話論

第3編 韓国・朝鮮民間説話の近代的変容

- 第1章 民間説話の変容と壬辰倭乱(文祿・慶長の役)
- 第2章 植民地期朝鮮における日韓共通の昔話「瘤取り」
- 第3章 韓国における兄弟譚及び隣人譚の変容
- 第4章 朝鮮総督府編修官立柄教俊と「もの言う亀」
- 第5章 植民地期朝鮮における「三年峠」(三年坂)
- 第6章 近現代における「きこりと仙女」(天人女房譚)の展開

終章

参考文献 ◎ハンゲル及び漢文文献◎日本語文献
初出一覧／あとがき／索引

本体 一一、〇〇〇円(十税)

A5判上製カバー装・四六四頁

二〇二一年二月刊行

ISBN978-4-585-29201-2 C3098



<p>書名</p> <h2>韓国・朝鮮説話学の形成と展開</h2> <p>金廣植 [著]</p> <p>ご送付先ご住所 (通信欄)</p>	<p>部数</p> <p>本体 11,000円(+税)</p> <p>A5判上製カバー装・464頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-29201-2 C3098</p> <p>部</p>
---	--

杜甫研究年報

日本杜甫学会「編」

「詩聖」杜甫。

その詩は、それ以前の詩の総括であるとともに、以後の中国詩の出発点でもある。

日本においては、五山の僧の崇敬、芭蕉の傾倒があり、明治以後も、中江兆民・島崎藤村・正岡子規を始め、

知識人・国民の間で、その親愛の念は一貫して揺るがないものだった。漢文教育においても、杜甫の詩は教材の中で重要な位置を占めてきた。

世界における杜甫への関心を見つめつつ、変転する時の中で無窮の未来に向かって杜甫研究を発展させ続ける一冊。

【最新号】

第四号 目次

- 論文 ● 杜甫詩の真偽——「哭長孫侍御」札記——◎後藤秋正
- 論文 ● 杜詩における「齒」について◎大橋賢一
- 論文 ● 杜甫の詩における鷓鴣詠◎高岡遼
- 論文 ● 杜甫、そして白居易へ——「醒」の快適◎下定雅弘
- 論文 ● 杜甫詩における双声韻の諸相◎丸井 憲
- 論文 ● 仁甫聖寿抄『統臆断』（慶應義塾大学斯道文庫所蔵）瞥見◎太田 亨
- 「研究概況及び文献収録」
- 書評 ● 『李白と杜甫の事典』（大修館書店、二〇一九・一一）◎後藤秋正
- 日本における杜甫研究集録（二〇一九）◎大橋賢一・加藤聰・紺野達也
- 日本杜甫学会会則・彙報・編集後記

定価 二,二〇〇円(税込)

〔本体二,〇〇〇円〕

A5判並製・一〇四頁

二〇二一年四月刊行

ISBN978-4-585-39444-0 C3098

注文書

書名	部数
杜甫研究年報 第四号 日本杜甫学会〔編〕 定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・104頁/2021年4月刊行 ISBN978-4-585-39444-0 C3098	部
第三号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・112頁/2020年5月刊行 ISBN978-4-585-29443-6 C3098	部
第二号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・88頁/2019年5月刊行 ISBN978-4-585-29442-9 C3098	部
創刊号 定価2,200円(税込) 本体2,000円 A5判並製・116頁/2018年4月刊行 ISBN978-4-585-29441-2 C3098	部
シリーズ 杜甫研究年報 〈定期購読〉 日本杜甫学会〔編〕 毎号・定価2,200円(税込)/本体2,000円 A5判並製・約100頁 2018年以降～毎年春頃、年1回刊行	部
【関連書】 白居易研究年報 全20巻セット 白居易研究会〔編〕 揃定価107,030円(税込)/本体97,300円 各巻A5判並製	部
ご送付先ご住所（通信欄）	

全40巻、
遂に完結!

鉄幹晶子全集 別巻8

逸見久美ほか【編】

拾遺篇

書誌・年譜

与謝野寛と晶子が生前発表したすべての単行本を、
編年体で刊行した、初の夫婦全集

「鉄幹晶子全集 全32巻」(本文篇31巻+全歌集五句索引篇)。

その完結のち、

短歌、詩(漢詩を含む)、小説、評論、随想、童話、古典翻訳など、

単行本未収録作品から、没後発見の貴重な資料までを網羅した、

「鉄幹晶子全集 別巻 全8巻」を刊行。

最終巻となる「別巻8 拾遺篇—書誌・年譜」では、
明治17年〜昭和17年の与謝野寛・晶子の著作を編年体で配列。
与謝野寛・晶子の年譜も収録。

編者プロフィール

逸見久美(いつみくみ)

一九二六年、翁久允の娘として兵庫県に生まれる。

早稲田大学文学部国文科卒、実践女子大学大学院国文科博士課程満期退学。

文学博士。女子聖学院短期大学教授、徳島文理大学教授、聖徳大学教授を歴任。

『評伝与謝野鉄幹晶子』『みだれ髪全集』『むらさき全集』『回想与謝野寛晶子研究』ほか多くの編著書がある。

定価九、九〇〇円(税込)・本体九、〇〇〇円

A5判上製カバー装・三六八頁

二〇二一年五月刊行

ISBN978-4-585-01093-7 C0392

各巻の構成【全八巻】

1〜8巻各定価九、九〇〇円(税込)・本体九、〇〇〇円

A5判上製カバー装

別巻1…拾遺篇—詩

ISBN978-4-585-01086-9

鉄幹の漢詩から晶子の散文詩(英文)まで、
単行本未収録の詩作品を掲載。

ふたりの作品を完全な発表順で配列した。

主な収録作品は寛の「海内詩集(漢詩)」

「爆弾三勇士」、晶子の「防空演習の夜」など。

別巻2…拾遺篇—明治期短歌

ISBN978-4-585-01087-6

別巻3…拾遺篇—大正期短歌上

ISBN978-4-585-01088-3

別巻4…拾遺篇—大正期短歌下

ISBN978-4-585-01089-0

別巻5…拾遺篇—昭和期短歌上

ISBN978-4-585-01090-6

別巻6…拾遺篇—昭和期短歌中

ISBN978-4-585-01091-3

別巻7…拾遺篇—昭和期短歌下

ISBN978-4-585-01092-0

ふたりが発表した膨大な短歌のうち、

各紙誌に発表された、

単行本に収められなかったものを網羅。

別巻8…年譜・書誌

書名	部数
鉄幹晶子全集 別巻8 拾遺篇—書誌・年譜 逸見久美ほか【編】	部
鉄幹晶子全集 別巻 第()巻	部
鉄幹晶子全集 全32巻	セット
鉄幹晶子全集 第()巻	部

ご送付先ご住所(通信欄)

パンフレットを希望します。

注
文
書

好
評
既
刊

勉誠出版

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

ベトナム語 空間ダイクシスと その展開

指示詞から
文末詞・感動詞へ

安達真弓 著

本体11,000円(+税)・本体10,000円
A5判上製カバー装・268頁
2021年5月刊行
ISBN978-4-585-38001-6 C3087

ベトナム語における
指示詞・文末詞・感動詞の形式的な類似は、
偶然の産物か。

現代ベトナム語における3要素の比較を通して、指示詞から文末詞・感動詞
へという変化の方向を検証。言語類型論にも新たな実証的データを提供する。
ベトナム語の指示詞を体系的に扱う、日本初の研究書。

本書の特色

- ◎ベトナム語における近・中・遠3系列の指示詞の間の違いを明らかにする
- ◎指示詞・文末詞・感動詞という3要素がダイクシス表現(その解釈に発話の場の情報を必須とする表現)であるという共通項を持つことに着目し、その多様な機能を体系的に整理する。
- ◎自然談話のみならず、戯曲や小説の台詞など、話しことばに近い用例も広く収集するなど、豊富な例文を掲載。

目次

- はじめに
- 第1章…先行研究の整理と用語の定義
- 第2章…ベトナム語の指示詞
- 第3章…ベトナム語指示詞由来の文末詞
- 第4章…ベトナム語指示詞由来の感動詞
- 第5章…おわりに
—ベトナム語指示詞から文末詞・感動詞への文法化
- 引用したデータ
- 参考文献
- 付録:自然談話のデータ
- あとがき

著者プロフィール

安達真弓 (あだち・まゆみ)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、助教。専門はベトナム語の調査研究。
主な論文に“Vietnamese demonstratives *dây, đó, kia*” (2011年、*Mon-Khmer Studies Journal, Special issue 3: 1-8*)や「ベトナム語の遠称指示詞 *kia*と *kial*について」(2012年、『東京大学言語学論集』32号: 1-9)がある。

書名	部数
ベトナム語空間ダイクシスとその展開 指示詞から文末詞・感動詞へ 安達真弓 著	部
ご送付先ご住所 (通信欄)	

定価11,000円(税込)・本体10,000円
A5判上製カバー装・268頁
2021年5月刊行
ISBN978-4-585-38001-6 C3087

日本語 文字論の

挑戦

表記・
文字・

文献を考えるための
17章



ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字等、
世界的にも珍しい多文字種環境を有する日本語。
古来、日本人にとって「文字」は、
意思疎通のための情報ツールであると同時に、
彼我の文化に架橋するための媒体であった。
古代から現代までを視野に
「書く」「読む」「学ぶ」「残す」という文字の諸機能に着目し、
日本語における「文字論」の豊富な世界を示す初めての一冊。

加藤重広・岡墻裕剛 〔編〕

かとう・しげひろ ●一九六
四年生まれ。北海道大学文
学研究院教授(言語科学研
究室)。専門は日本語学・言
語学。著書に『日本語統語特
性論』(北海道大学出版会、
二〇一三年)、『言語学講義』
(筑摩書房、二〇一九年)な
どがある。

おかがき・ひろたか ●一九
八〇年生まれ。神戸女子大
学文学部日本語日本文学科
准教授。専門は日本語学表
記・漢字。著書に『B・H・
チェンバレン』(文字のしる
べ)『影印・研究』(編著、勉誠
出版、二〇〇八年)などがあ
る。

【もくじ】

第1部：言葉はどう書くか

まえばき 〔岡墻裕剛〕
日本語の表記システムとその特徴

近・現代小説の片仮名の用法一斑

古代中国語における漢字の表語現象の諸相〔松江崇〕

平安時代の真仮名「乾善彦」

第2部：文献をどう読むか

訓点研究「超」入門〔小助川貞次〕

篆隸万象名義における漢文節の意味注記について〔李媛〕
図書寮本『類聚名義抄』における掲出語と注文の対応について〔申雄哲〕
辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討
——キリタン版『落葉集』と『きやとべか』を中心として〔白井純〕

明治期における基本漢字文献の諸相〔岡墻裕剛〕

第3部：文字をどう学ぶか

『文選』の学習——訓点資料を通して見えてきたこと〔渡辺さゆり〕

変体仮名を学ぶ小学生〔岡田一祐〕

米国防海軍日本語学校の漢字教材『kanji book』〔高田智和〕

第4部：文化をどう残すか

京都の「天橋立」を表す日本製漢字の展開と背景

——「邏」(邏)を中心として〔笹原宏之〕

『蝦夷記』のアイヌ語申渡文における仮名の用法〔佐藤知己〕

〔S仮名と〕Jap仮名をめぐるといづつかの問題〔富山日出夫〕

漢字字体研究と日本古辞書データベースの構築〔池田証壽〕

あとがき〔加藤重広〕・執筆者一覧

定価七、七〇〇円(税込)

〔本体七〇〇〇円〕

A5判並製カバー装・四三三頁
二〇二一年三月刊行
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

定価7,700円(税込)・本体7,000円

A5判並製カバー装・432頁
2021年4月刊行
ISBN978-4-585-38000-9 C3081

書名	部数
<p>日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章 加藤重広・岡墻裕剛 〔編〕</p>	<p>部</p>
ご送付先ご住所(通信欄)	

コーパスと 近代日本語書き言葉の 一人称代名詞の研究

近藤明日子 [著]

本体 8,500 円(+税)

A5判上製カバー装・400頁
ISBN978-4-585-28052-1 C3081
2021年2月刊行

新漢語の発生や言文一致の進展に代表されるように、約60年という短期間に書き言葉が劇的に変化した明治・大正期。この時期には活版印刷技術の普及やマスメディアの発達により、膨大な量の書き言葉の資料が出版され流通した。

本書では、そのような急激な変化を内包した資料群の縮図とも言える近代雑誌のコーパスを使用して、先行研究でほとんど扱われてこなかった

明治・大正期の書き言葉における一人称代名詞の体系と通時期的変化について分析・考察する。

一人称代名詞という言語項目の研究そのものとともに、それを果たすために、著者自らも構築に携わった近代雑誌コーパスの設計・資料特性の研究も展開。

コーパスの活用により浮かび上がる 近代日本語史の知られざる側面

【目次】

序

I 本研究で使用したコーパスと研究方法

- 第1章 近代雑誌コーパスの設計
第2章 一人称代名詞と使用場面属性の抽出・分類
第3章 言語量から見る近代雑誌コーパスの資料特性

II 近代書き言葉の一人称代名詞

- 第4章 『明六雑誌』の一人称代名詞
第5章 『東洋学芸雑誌』の一人称代名詞
第6章 『国民之友』の一人称代名詞
第7章 『太陽』の文語体書き言葉の一人称代名詞
第8章 明治・大正期の文語体書き言葉における一人称代名詞の通時期的変化
第9章 『太陽』の口語体書き言葉の一人称代名詞

III 近代話し言葉の一人称代名詞

- 第10章 『太陽』の口語体会話文の一人称代名詞

IV 女性雑誌の一人称代名詞

- 第11章 女性雑誌の書き言葉の一人称代名詞
第12章 女性雑誌の口語体会話文の一人称代名詞

結

参考文献・参考URL
本書と既発表研究との関係
謝辞
索引

【執筆者プロフィール】

近藤明日子 (こんどう・あすこ)

国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員。専門は日本語学。著書に『シリーズ〈日本語の語彙〉5 近代の語彙①——四民平等の時代——』（共著、朝倉書店、2020年）、論文に「語種率・品詞率から見る明治・大正期の口語体実用文」（『近代語研究 第二十一集』武蔵野書院、2019年）、研究業績に『日本語歴史コーパス 明治・大正編Ⅱ教科書』（短単位データ1.0）（共同開発、国立国語研究所、2018年）、『日本語歴史コーパス 明治・大正編Ⅰ雑誌』（短単位データ1.2）（共同開発、国立国語研究所、2019年）、『日本語歴史コーパス 明治・大正編Ⅲ明治初期口語資料』（短単位データ0.8）（共同開発、国立国語研究所、2019年）などがある。

書名	部数
コーパスと近代日本語書き言葉の 一人称代名詞の研究 近藤明日子 [著]	本体 8,500 円(+税) A5判上製カバー装・400頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-28052-1 C3081
ご送付先ご住所（通信欄）	部

おおよそいうち

大宅壮一文庫解体新書

雑誌図書館の全貌とその研究活用

阪本博志〔編〕

大宅壮一文庫、開設50周年！ 文庫の全てに迫る！

大宅壮一が収集した膨大な雑誌のコレクションを
基礎として設立された大宅壮一文庫。

二〇二一年、開設から五〇年を迎える大宅壮一文庫について、
概要から、その誕生の歴史、そして文庫を活用した
研究の実践例まで、すべてを網羅した解説書。

＊大宅壮一（一九〇〇―一九七〇）とは：

日本のジャーナリスト、ノンフィクション作家、評論家。時代の風潮を
見事に裁断する独特な社会評論や人物評論で、長くマスコミ界で
活躍。明快な是非論で広く一般大衆の支持を得た。また、「一億
総白痴化」、「恐妻」、「ロコミ」など、多数の造語を生んだ。

本書の特色

①「雑誌の図書館」大宅壮一文庫の概要、歴史、利用方法などを、詳細に解説。

②実際に大宅壮一文庫を活用している執筆者陣が、文庫を利用することでどういったことが見えてくるかをまとめた論考を収録。

編者プロフィール

阪本博志（さかもと・ひろし）

帝京大学文学部社会学科教授。専門は社会学・メディア史・出版文化論。主な著書に『平凡』の時代―一九五〇年代の大衆娯楽雑誌と若者たち（昭和堂、二〇〇八年）、第30回日本出版学会賞奨励賞・第18回橋本峰雄賞、『江戸川乱歩大事件（落合教幸・藤井淑慎・渡辺憲司との共編）勉誠出版（二〇二一年）などがある。

定価 三、八五〇円（税込）・本体 三、五〇〇円

A5並製カバー装・三〇〇頁

二〇二一年五月刊行

ISBN978-4-585-30001-4 C1000

目次

第一章

索引的思考

カラー口絵／はじめに◎大宅映子／本書の構成◎阪本博志
（無思想人）大宅壮一における知の技法◎有馬学
コラム① ノーパン喫茶と大宅文庫
――週刊誌がおしえてくれること、くれないこと◎井上章一

第二章

大宅壮一と大宅壮一文庫◎阪本博志

①大宅壮一文庫の誕生◎大宅壮一文庫の発展◎大宅壮一文庫のこれから
コラム② 大宅文庫について思うこと◎三鬼浩子

第三章

雑誌の図書館 大宅壮一文庫

その所蔵資料と利用方法◎鴨志田浩
①大宅壮一文庫の概要◎大宅壮一文庫の迷宮書庫
②大宅壮一文庫の出版物◎大宅壮一文庫の索引・検索システム
③大宅壮一文庫の資料閲覧と各種サービス
コラム③ 長持としての大宅文庫◎永井良和

第四章

大宅壮一文庫の活用(1) 横断的研究

雑誌アーカイブ大宅壮一文庫 ― その現在と未来◎前島志保
二世紀における大宅文庫の可能性◎鳥羽耕史
受贈・教育雑誌と文学 ― 大宅壮一文庫所蔵誌をきっかけとして◎大原祐治
出版社系週刊誌の誕生 ― 週刊新潮と文学との関わりを中心に◎加藤邦彦
コラム④ 「心の時代」をもう一度可視化するか◎牧野智和

第五章

大宅壮一文庫の活用(2) テーマ研究

大宅壮一文庫雑誌記事索引にみる性風俗の歴史
――トルコ風呂の元祖「東京温泉」を例に◎光石亜由美
寄せ場の表象 ― 大衆雑誌にみる高度経済成長期の「山合」◎石川巧
話を残す ― 漫才作者秋田実と雑誌◎後藤美緒
コラム⑤ 書物のない場所 ― 戦後文学に描かれた「書物」◎多田蔵人
あとがき◎阪本博志



書名	部数
おおよそいうち 大宅壮一文庫解体新書 雑誌図書館の全貌とその研究活用 阪本博志〔編〕	
ご送付先ご住所（通信欄）	部
定価 3,850円（税込）・本体 3,500円	
A5判並製カバー装・300頁	
ISBN 978-4-585-30001-4・C1000	
2021年5月刊行	

日本の図書館建築

建築からプロジェクトへ

五十嵐太郎・李明喜 [編]

戦後日本の公共図書館建築の歴史をたどる——

日本の公共図書館は、いわゆる「箱モノ」から、コミュニケーションなどを重視した「有機的なモノ」へと変化を遂げている。こうした変化はいつごろから見られるようになってきたのだろうか？戦後間もない1950年代から、2020年代の現在まで、全国各地にある特色ある公共図書館を紹介することで、図書館建築の歴史的流れを追った一冊。

掲載図版
(フルカラー！)
200
点以上



目次

第I章——黎明期～確立期 1955～70年代 図書館が根付いた時代の建築

大阪府立中之島図書館●神奈川県立図書館●北九州市立八幡図書館●東京都立日比谷図書館(現・千代田区立日比谷図書文化館)●国立国会図書館●佐賀県立図書館●ほか

第II章——発展期 80年代～2000年前後 多様化する図書館のデザイン

北九州市立中央図書館●軽井沢町立図書館●山形県立図書館●小牧市立図書館●金沢市立玉川図書館●日野市立高幡図書館●杉並区立中央図書館●岡崎市立中央図書館●ほか

第III章——変革期 00年代～現在 新しい状況をもたらす図書館建築の変化

仙台市民図書館／せんだいメディアテーク●国立国会図書館国際子ども図書館●国立国会図書館関西館●福井県立図書館・福井県文書館・福井ふるさと文学館●ほか

第IV章——これからの図書館建築に向けて 現実空間と情報空間が重なった時代の 環境としての図書館

本書の特色

●第1章から第3章では、全国各地にある公共図書館60館以上を選び、その建築における特色を紹介。掲載写真は館外・館内を含め、すべてカラーで掲載(一部モノクロあり)。

●第4章では現在進行形で活躍中の若手建築家へのインタビューを掲載。公共図書館をどのように設計したかなど、建築家は図書館建築に対してどのように臨んでいるかを知ることができる。

●これまでに図書館の建築を扱った書籍はいくつか刊行されているが、1950年代から現在までの最新の流れを追ったものはなく、本書が初。

本体 3,500 円 (+税)

A5判並製カバー装・336頁
ISBN 978-4-585-20074-1・C1000
2021年3月刊行

編者プロフィール

五十嵐太郎(いがらし・たろう)

1967年生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。東北大学教授。専門は都市・建築理論。主な著書に、『建築の東京』(みすず書房、2020年)、『日本建築入門』(ちくま新書、2016年)、『現代建築に関する16章』(講談社、2006年)などがある。ヴェネツィアビエンナーレ国際建築展2008の日本館コミッショナー、あいちトリエンナーレ2013の芸術監督、「インボッシブル・アーキテクチャー」展(2019-2020年)の監修などをつとめる。

李明喜(り・みよんひ)

1966年生まれ。デザイナー。アカデミック・リソース・ガイド株式会社(arg)取締役 CDO(最高デザイン責任者)。1998年、デザインチームmattを立ち上げ、商業&公共施設の空間デザインやアート・キュレーション業務を行う。2014年より、arg社のデザイナーとして、須賀川市、西ノ島町、長野県などで、図書館を中心とした新しい文化施設づくりや地域のデザインにあたっている。図書館管理運営計画、ミュージアムキュレーションなどを担当した「須賀川市民交流センターtette」は、2019年グッドデザイン金賞を受賞。

書名	部数
日本の図書館建築 建築からプロジェクトへ 五十嵐太郎・李明喜 [編]	本体 3,500 円 (+税) A5判並製カバー装・336頁 ISBN 978-4-585-20074-1・C1000 2021年3月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

デジタルアーカイブ・ベーシックス 5

新しい、産業創造へ

時実象一 [監修]
久永一郎 [責任編集]

デジタルアーカイブを
活用・運用していくための
基礎を学ぶことのできる
必読のシリーズ

デジタルアーカイブが産業の未来を切り拓く

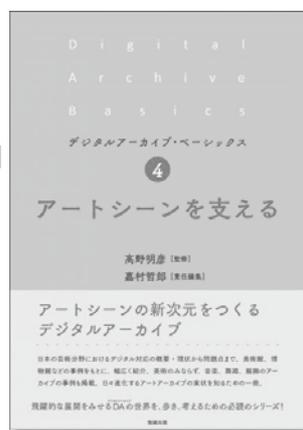
日本の企業はデジタルアーカイブをどのように利活用し、それをビジネスに昇華しているのか？

先進的な企業の取組みを紹介することで、産業におけるデジタルアーカイブの可能性を探る。

「デジタルアーカイブ・ベーシックス」全5巻、ここに完結！

定価 **2,750**円(税込)・本体2,500円

A5判並製カバー装・288頁
ISBN 978-4-585-20285-1・C1000
2021年5月刊行



はしがき◎時実象一
序論 デジタル技術とデジタルアーカイブ産業の可能性◎島裕

第1部 デジタルアーカイブの活用

- 第1章 世界のビジネス・アーカイブズ概観◎松崎裕子
- 第2章 ポーラ文化研究所における文化資産の展開
——「化粧文化データベース」を中心に◎川上博子
- 第3章 美術と歴史の分野における画像ライセンスビジネス◎國谷泰道
- 第4章 フィジカルからデータにいたるコンテンツアーカイブの課題とビジネス展開◎緒方靖弘

第2部 デジタルアーカイブ産業を支える技術革新

- 第5章 情報システム開発の視点から見る日本のデジタルアーカイブ技術の水準◎川島健一
- 第6章 座談会 デジタルアーカイブ技術開発の動向◎大向一輝・肥田康・手嶋毅 (司会)岡本真
- 第7章 アートの世界を変えるブロックチェーン◎太田圭亮

第3部 デジタルアーカイブ産業の兆し

- 第8章 「デジタルアーカイブ産業」の萌芽と期待◎伊屋早百合・小林慎太郎
 - 第9章 デジタルアーカイブを活用した自治体史編さん事業の提案◎太田亮子
 - 第10章 映像保存の現在地とこれから
——変わりゆくデジタル技術・長期保存メディア・制度を見つめて◎藤原理子
 - 第11章 気象ソリューションで世界企業に◎安部大介
- あとがき◎久永一郎

監修 時実象一(ときざね・そういち)

1944年生まれ。東京大学大学院情報学環高等客員研究員。専門はデジタルアーカイブ、学術情報、ウェブ検索、ウィキペディア。主な著書に『研究者のコピペと捏造』(樹村房、2018年)、『コピペと捏造』(樹村房、2016年)、『デジタル・アーカイブの最前線』(講談社、2015年)などがある。

責任編集 久永一郎(ひさなが・いちろう)

1967年生まれ。大日本印刷株式会社マーケティング本部事業戦略ユニットヒューマン・エンジニアリング・ラボ室長。専門はエクスペリエンスデザイン・インタラクションデザイン。

書名	部数
第5巻…新しい産業創造へ 時実象一 [監修] / 久永一郎 [責任編集]	部
第1巻…権利処理と法の実務 福井健策 [監修] / 数藤雅彦 [責任編集] 978-4-585-20281-3 C1000 2019年3月 定価2,750円(税込)・本体2,500円	部
第2巻…災害記録を未来に活かす 今村文彦 [監修] / 鈴木親彦 [責任編集] 978-4-585-20282-0 C1000 2019年8月 定価2,750円(税込)・本体2,500円	部
第3巻…自然史・理工系研究データの活用 井上透 [監修] / 中村覚 [責任編集] 978-4-585-20283-7 C1000 2020年4月 定価2,750円(税込)・本体2,500円	部
第4巻…アートシーンを支える 高野明彦 [監修] / 嘉村哲郎 [責任編集] 978-4-585-20284-4 C1000 2020年12月 定価2,750円(税込)・本体2,500円	部
デジタルアーカイブ・ベーシックス 全5巻 定価 各 2,750 円(税込)・本体2,500円 A5判並製カバー装・各巻208頁～312頁	セット

ご送付先ご住所 (通信欄)

「デジタルアーカイブ・ベーシック」シリーズ 全5巻完結!

Digital Archive Basics

権利処理と法の実務 第1巻

福井健策[監修] / 数藤雅彦[責任編集]

シリーズ発刊にあたって デジタルアーカイブ学会会長◎長尾真 / まえがき◎福井健策 / デジタルアーカイブの構築に関わる法制度の概観——最近の法改正等を中心に◎生貝直人

第1部 理論編

著作権の諸問題(1) 保護期間満了(パブリックドメイン)の判断基準◎数藤雅彦・橋本阿友子 / 著作権の諸問題(2) オープンワークスへの対応◎瀬尾太一 / 自治体が運営する災害デジタルアーカイブ——肖像・プライバシー等を巡る現状と課題◎長坂俊成 / 所有権の諸問題——オープンフィルムの寄贈に関する問題を例に◎山元裕子・【特別寄稿】とちぎあきら

第1巻

978-4-585-20281-3 | C1000 | 2019年3月
定価 2,750円(税込)・本体 2,500円

第2部 実践編

公共機関デジタルアーカイブ構築の実務と問題点——国立国会図書館を例に◎井上奈智 / アニメーション・アーカイブから見る資料を取り巻く権利とその問題点——I.Gアーカイブの事例より◎山川道子・金木利憲 / 美術全集のデジタルアーカイブ構築の実務と問題点◎清水芳郎 / コラム:映像コンテンツのデジタルアーカイブのための権利処理実務◎宮本聖二 / デジタルアーカイブのライセンス表示についての動向◎時実象一 / デジタルアーカイブ活用促進のための新しい法的環境の在り方◎福井健策・藤森純 あとがき◎数藤雅彦 / 執筆者一覧

災害記録を未来に活かす 第2巻

今村文彦[監修] / 鈴木親彦[責任編集]

震災・災害デジタルアーカイブの今日的意義——新しい防災文化の創生を目指して◎今村文彦

第1部 震災・災害の記録を残すことの意義と目的

震災・災害アーカイブの役割と歴史の変遷と現状◎柴山明寛 / 放送局による東日本大震災アーカイブの意義——NHK東日本大震災アーカイブを事例に◎宮本聖二 / 震災の記録を横断する——国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎ)の意義と課題◎伊東敦子 / 前田雄志

第2部 復興に向けて人々の声、地域の歴史を残す

第2巻

978-4-585-20282-0 | C1000 | 2019年8月
定価 2,750円(税込)・本体 2,500円

東北からの声——口承記録デジタルアーカイブから防災・減災のためのアプリケーションへ◎フラヴィア・フルコ・ロビン・オディ、デビッド・スレイター / 「命の軌跡」は訴える——東日本大震災、地方紙とデジタルアーカイブ◎鹿糠敏和 / 市民の力で地震史料をテキスト化「みんなで翻刻」◎橋本雄太

第3部 未来のためのデジタルアーカイブ——震災・災害情報の利活用

災害の非可逆性とアーカイブの精神——デジタル台風・東日本大震災デジタルアーカイブ・メモリーグラフの教訓◎北本朝展 / 歴史地震研究と日記史料有感地震データベース◎西山昭仁 / 防災科学技術研究所の災害資料とデジタルアーカイブ——自然災害資料の収集・整備・発信◎三浦伸也・鈴木比奈子 / 記憶の解凍——資料の“フロー”化とコミュニケーションの創発による記憶の継承◎渡邊英徳 / あとがき◎鈴木親彦 / 執筆者一覧

自然史・理工系研究データの活用 第3巻

井上透[監修] / 中村覚[責任編集]

自然史・理工学デジタルアーカイブの今日的意義◎井上透

第1部 研究データの活用に向けて

科学データのデジタルアーカイブにおける必須条件「オープンデータ」◎大澤剛士 / 研究データ活用の国際的動向——世界の自然史・理工学DA活用◎南山泰之

第2部 自然史・理工学DAの社会的活用

オープンサイエンスと天文学——現状と課題◎玉澤春史 / 自然史博物館×デジタルアーカイブ——オープンサイエンスを拓く一例としての魚類写真資料データベース◎大西亘

第3巻

978-4-585-20283-7 | C1000 | 2020年4月
定価 2,750円(税込)・本体 2,500円

自然史情報のデジタルアーカイブと社会的問題への利用——地球規模生物多様性情報機構(GBIF)の機能とそのデータの活用◎細矢剛 / 環境学×教育——森の感性情報アーカイブ・サイバーフォレストを用いた環境教育◎中村和彦

第3部 自然史・理工系研究データの学際的利用

南方熊楠データベース—文理統合・双方向型デジタルアーカイブ◎岩崎仁 / 異分野融合で切り拓く歴史的オーロラ研究——オーロラ4Dプロジェクトの経験から◎岩橋清美 / 東京大学工学史料キュレーション事業の展開—工学・情報理工学図書館を実例に◎市村櫻子 / あとがき◎中村覚

アートシーンを支える 第4巻

高野明彦[監修] / 嘉村哲郎[責任編集]

まえがき 高野明彦(国立情報学研究所)

Scene 0 ゼロ地点のDA

アート×デジタルアーカイブのこれまでとこれから 青柳正規

Scene 1 アートシーンにおけるデジタル対応の現況

デジタルアーカイブはどのようにしてアートの振興に貢献するか?◎太下義之 / デジタルアーカイブ・ピトーブ——相互関し複層化する、作品環境世界◎田尾圭一郎 / アートのデジタルコンテンツの権利処理に関わる法的問題について◎酒井麻千子

Scene 2 デジタル技術とアート現場のDA

第4巻

978-4-585-20284-4 | C1000 | 2020年12月
定価 2,750円(税込)・本体 2,500円

メディアアート領域にとつてのデジタルアーカイブ——国内外の動向◎森山朋絵 / デジタル技術と現代のアートの保存◎平論一郎

Scene 3 パフォーマンスとアートのDA

早稲田大学演劇博物館のデジタルアーカイブの現状と課題◎中西智範 / 土方巽アーカイヴ—実験的アーカイブの理念と活動◎森下隆 / 日本のオペラアーカイブの現状と課題◎石田麻子・吉原潤 / 〈服装・身装文科デジタルアーカイブ〉の現在と今後の課題◎高橋晴子

Scene 4 ミュージアムとアートのDA

オープンなデジタルミュージアム——多様な価値の共存と高い規模拡張性◎金子晋文 / 国立博物館所蔵品統合検索システム「ColBase」——過去・現在・未来◎村田良二 / 文化遺産オンライン試験公開版の構築◎丸川雄三 / ヨコハマ・アート・LOD その成り立ちと構成◎相澤勝・小林厳生 / アート・プロジェクトの現場で取り組むアーカイブの試み◎井出竜郎 / あとがき◎嘉村哲郎

新しい産業創造へ 第5巻

時実象一[監修] / 久永一郎[責任編集]

はしがき 時実象一

序論 デジタル技術とデジタルアーカイブ産業の可能性◎島裕

第1部 デジタルアーカイブの活用

世界のビジネス・アーカイブ概観◎松崎裕子 / ポーラ文化研究所における文化資産の展開—「化粧文化データベース」を中心に◎川上博子 / 美術と歴史の分野における画像ライセンスビジネス 國谷泰道 / フィジカルからデータにいたるコンテンツアーカイブの課題とビジネス展開◎緒方靖弘

第2部 デジタルアーカイブ産業を支える技術革新

情報システム開発の視点から見る日本のデジタルアーカイブ技術の水準◎川島健一

第5巻

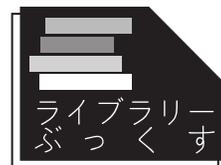
978-4-585-20285-1 | C1000 | 2021年5月
定価 2,750円(税込)・本体 2,500円

座談会 デジタルアーカイブ技術開発の動向◎大向一輝・肥田康・手嶋毅 (司会)岡本真 / アートの世界を変えるブロックチェーン◎太田圭亮

第3部 デジタルアーカイブ産業の兆し

「デジタルアーカイブ産業」の萌芽と期待◎屋屋早百合・小林慎太郎 / デジタルアーカイブを活用した自治体史編さん事業の提案◎太田亮子 / 映像保存の現在地とこれから—変わりゆくデジタル技術・長期保存メディア・制度を見つめて◎藤原理子 / 気象ソリューションで世界企業に◎安部大介 / あとがき◎久永一郎

変化する社会とともに歩む 学校図書館



野口武悟 [著]

時代ごとに変化する学校図書館。教育と図書館の相関を見る——

「本離れ」が叫ばれる中で、学校図書館は読書、ひいては本の大切さをどのように説いているのであろうか。また、司書教諭に関する法律改正などに伴って、現場はどう変化しているのだろうか？歴史的な側面を概括し、制度論も交えながら現在の学校図書館の達成ポイントと課題を論じる。デジタル環境など新しいトピックや、授業における図書館利用などについても見ていくことで、「本との出会い」だけにとどまらない図書館の教育的効果を考える。さらに小学校から高校までの学校図書館を取り巻く環境と、現在行なっている取組を、代表的な学校の司書によるコラムを交えて紹介し、実際の現場に迫る。

目次

まえがき
序 章：学校図書館の過去と現在
第1章：子どもの「学び」のいまと学校図書館
第2章：子どもの多様な育ちに応える学校図書館
第3章：子どもの多様な発達を支える学校図書館
第4章：社会の情報化と学校図書館
第5章：社会のグローバル化と学校図書館
第6章：進展する公共サービスの市場化と学校図書館
第7章：市民活動社会と学校図書館
第8章：社会の少子・高齢化、過密・過疎化と学校図書館
終 章：変化・成長する有機体としての学校図書館
補 章：新型コロナウイルスの感染拡大と学校図書館
あとがき

コラム

- ①学校図書館に、カフェあります——田奈高校「びっかりカフェ」のこれまでと、「校内居場所カフェ」のこれから ●松田ユリ子(神奈川県立新羽高等学校 学校司書)
- ②東京都立墨東特別支援学校の取組と、今後の課題 ●生井恭子(東京都立墨東特別支援学校 司書教諭)
- ③中央大学附属中学校・高等学校の図書館におけるICT活用の現状について ●平野 誠(中央大学附属高等学校・中学校 司書教諭)
- ④海士町・島まるごと図書館構想の歩み ●磯谷奈緒子(島根県海士町中央図書館 司書)

本書の特色

- 公共図書館や大学図書館に比べて、ともすれば見落とされがちな小学校から高校までの学校図書館について、社会情勢も踏まえてまとめて論じている。
- 2020年の新型コロナウイルス禍における学校図書館の取組みも掲載。
- 実際に学校図書館の現場に従事している司書によるコラムでは、実践的な例を紹介。

著者プロフィール

野口武悟 (のぐち・たけのり)

専修大学文学部ジャーナリズム学科教授・学科長、放送大学教養学部客員教授。専門は図書館情報学、学校教育学、社会福祉学。主な著書に、『多様性と出会う学校図書館——一人ひとりの自立を支える合理的配慮へのアプローチ』(共編著、読書工房、2015年)、『図書館のアクセシビリティ——「合理的配慮」の提供へ向けて』(共編著、樹村房、2016年)、『改訂新版 学校経営と学校図書館』(共編著、放送大学教育振興会、2017年)、『学校司書のための学校教育概論』(共編著、樹村房、2019年)、『多様なニーズによりそう学校図書館——特別支援学校の合理的配慮を例に』(共著、少年写真新聞社、2019年)などがある。

定価2,420円(税込)・本体2,200円

四六判並製カバー装・288頁
ISBN 978-4-585-20081-9・C0000
2021年4月刊行

書 名	部 数
変化する社会とともに歩む 学校図書館 野口武悟 [著]	定価2,420円(税込)・本体2,200円 四六判並製カバー装・288頁 ISBN 978-4-585-20081-9・C0000 2021年4月刊行
ご送付先ご住所 (通信欄)	

真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉

編 【アジア遊学254】

東アジアの歌と文字

声から文字へ、文字から声への往還

声の歌が文字化されたのはいつからだろうか。また、文字との出会いによって声の歌はどう変化したのだろうか。日本古代の『古事記』や『万葉集』、近世琉球の『おもろさうし』、中国少数民族の歌垣など、東アジアの様々な時代・地域・民族において創作されてきた歌表現の文字資料を、文学・民俗学・文化人類学の分野から検討し、声と文字との共存・影響関係、豊かな歌文化の諸相を明らかにする。

目次

【序言】東アジアにおける歌と文字の出会い ● 真下 厚

【総論】中国辺境民族の歌と文字のかかわり ● 遠藤耕太郎

【総論】琉球歌謡の文字との出会い
——『おもろさうし』の記載法を中心に ● 波照間永吉

I 日本古代における歌と文字

歌における声と文字の出会いと共存 ● 岡部隆志

古代の歌の命

——ある手法の変貌について ● エルマコワ・リュドミラー

II 琉球王国・沖縄における歌と文字

琉球王国・沖縄における歌と文字 —— おもろさうし ● 照屋 理

琉歌と南琉球の抒情歌の文字記録 ● 波照間永吉

南島歌謡の記録と伝承の諸相 —— 竹富島の巻唄をめくって ● 狩俣恵一

III 中国少数民族における歌と文字

壮族の掛け合いにおける声と文字 ● 手塚恵子

ペー祭文における声と文字の往還 ● 遠藤耕太郎

中国湘西苗族の歌と文字 ● 真下 厚

IV 資料紹介

宮古の古謡と神歌 ● 本永 清

ペー族の祭文 ● 遠藤耕太郎

必定財前途
一路布教心
也布即檢抄
記肝靴往住
仲怪吉小妹
嘉哈礼托佐
男女可分浮
男伝詳是郎
山伯吐双泡
刺鼓花凍滄
翁一踏盖花
到道橋赤靴
香落山字了
錫獎塔途鴉

【編者紹介】

真下 厚 (ましもとあつし)

元立命館大学教授。専門は日本古代文学・民俗学。

主な著書に『歌を掛け合う人々 東アジアの歌文化』(共著、三弥井書店、二〇一七年)などがある。

遠藤耕太郎 (えんどうこうたろう)

共立女子大学文芸学部教授。

専門は日本古代文学と中国少数民族文化。

主な著書に『万葉集の起源—東アジアに息づく抒情の系譜—(中公新書、二〇一〇年)などがある。

波照間永吉 (はてるまえいきち)

名城大学大学院国際地域文化研究科(後期博士課程)。

専門は歌謡呪。

主な編著書に『定本 おもろさうし』(外間守善と共編著、角川書店、二〇〇二年)、などがある。



本体 2,800円(+税)
A5判並製カバー装・208頁
ISBN978-4-585-32500-0 C1390
2021年2月刊行

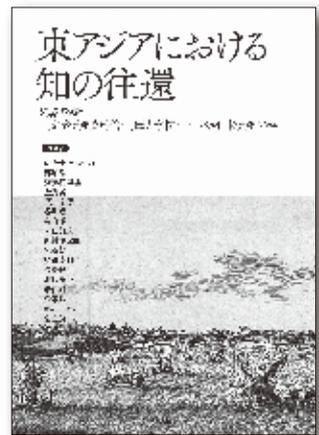
書名	東アジアの歌と文字 【アジア遊学No.243】 真下厚・遠藤耕太郎・波照間永吉 [編]	部数	本体2,800円(+税) A5判並製カバー装・208頁 2021年2月刊行 ISBN978-4-585-32500-0 C1390
ご送付先ご住所 (通信欄)			

国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院

〔共編〕

東アジアにおける知の往還

〔アジア遊学255〕



東アジアにおける知の動態を明視する

気候危機にパンデミック、市民間の分断……。生命をも脅かす大きな困難が次々に起こる現代、我々はいかにして大量の情報を「個」として的確に受け止め、判断の材料に変換できるのか。そのための「知」を下支えするものの根拠を豊富な文献に求め、歴史的経緯を留めた表現の集合体から照射することで新規の問いかけに繋げる。文学史、美術史、思想史、歴史学、アーカイブズ学など、多面的な視角から、東アジアにおける知の往還を描き出す。

〔目次〕

序

刊行によせて●ロバートキャンベル

刊行によせて●鄭炳浩

本書の企画と構成●齋藤真麻理・金秀美

I 書物と文化

『栄花物語』と朝鮮王朝の宮廷文学

——『閑中録』との比較を中心として●桜井宏徳

遺稿集の季節——二十世紀前半の日本の言説編制●谷川恵一

近代日本の元寇図と『蒙古襲来絵詞』●金容澈

（コラム）絵画と文字の表現コード

——『源氏物語絵巻』を読み解く●金秀美

（コラム）奈良絵本と『徒然草』

——ジャンルを往還するメディア●齋藤真麻理

（コラム）正方形の本をめぐる●入口敦志

II 記録と記憶

日本と韓国の災難文学と記憶

——セウオル号沈没事件と東日本大震災の災難詩を中心として●鄭炳浩

近代福島県富岡町小良ヶ浜の文書管理——複合災害・縁故地・区有文書●西村慎太郎

（コラム）『三国遺事』を巡るいくつかの知見について●宋洗範

言語と滅刑——森鷗外『高瀬舟』において●野網摩利子

（コラム）在日朝鮮人「帰国事業」の記録と記憶の文学●金季杼

III 都市という舞台

江戸における巨大寺院の復興と講中——築地本願寺の場合●渡辺浩一

日本の伝統詩歌に描かれた大都會の風土●嚴仁卿

（コラム）『京城日報』と近代都市京城の表象

——横光利一の満鉄招請文学講演旅行と「天使」を中心に●金孝順

パリが主人公

——レティフとメルシエの作品とパリの文学的神話の誕生●ギョーム・カレ

（コラム）日韓の西洋探偵小説における都市表象

——エミール・ガボリオの『ルージュ事件』を中心に●倉在真

定価 **3,080** 円(税込) 本体 2,800 円
A5 判並製カバー装・200 頁
ISBN978-4-585-32501-7 C1395
2021年4月刊行

書名	東アジアにおける知の往還 【アジア遊学No.243】 国文学研究資料館・高麗大学校グローバル日本研究院 〔共編〕	部数	部
ご送付先ご住所（通信欄）			

櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉

編

元朝の歴史

〔アジア遊学 256〕

モンゴル帝国期の東ユーラシア

一二〇六年、チンギス・カンの即位により成立した大モンゴル国は、その後継者たちにより、ユーラシア大陸全土へその版図を広げていった。その後、皇位争いに勝利し、国号を「大元」と改めた世祖クビライが、一二七九年に南宋を攻略したことにより、中国史に新たな統一王朝の名を刻むこととなる——元朝である。中国史における「元朝」とはいかなる存在であったのか——冷戦終結に伴う史料環境・研究環境の変化により、長足の進展をなしてきたモンゴル帝国史・元朝史研究の成果を受け、元代の政治・制度、社会・宗教、文化の展開の諸相、国際関係などを多面的に考察。さらには元朝をめぐる学問史を検討することにより、新たな元朝史研究の起点を示す。

〔目次〕

- カラー口絵……『書史会要』（台湾国家図書館蔵洪武九年刊本）ほか
序言 ● 櫻井智美
導論 ● クビライ登極以前のモンゴル帝国の歴史 ● 渡辺健哉
本書所載論稿関係年表
元朝皇帝一覧
- I 元代の政治・制度
元代「四階級制」説のその後
「モンゴル人第一主義」と色目人をめぐって ● 松田善之
ジャムチを使う人々 ― 元朝交通制度の一断面 ● 山本明志
元代の三都（大都・上都・中都）とその管理 ● 渡辺健哉
江南の監察官制と元初の推挙システム ● 櫻井智美
〔コラム〕カラホト文書 ● 赤木崇敏
〔コラム〕元代における宮室女性の活躍 ● 牛 瀟
元末順帝朝の政局 ― 後至元年間バヤン執政期を中心に ● 山崎 岳
- II 元代の社会・宗教
元代の水運と海運
― 華北と江南はいかにして結びつけられたか ● 矢澤知行
モンゴル朝における道仏論争について
― 『至元辯偽録』に見える禅宗の全真教理解 ● 松下道信
元版大蔵經の刊行と東アジア ● 野沢佳美
〔コラム〕南宋最後の皇帝とチベット仏教 ● 中村 淳
〔コラム〕夷狄に便利な朱子学 ― 朱子学の中華意識と治統論 ● 垣内景子
回顧されるモンゴル時代 ― 陝西省大荔県拜氏とその祖先顕彰 ● 飯山知保

III 伝統文化とその展開

- 「知」の混一と出版事業 ● 宮 紀子
白樺の生涯と文学 ● 土屋育子
「元代文学」を見つめるまなざし ● 奥野新太郎
景德鎮青花瓷器の登場 ― その生産と流通 ● 徳留大輔
- IV 元朝をめぐる国際関係
「朴通事」から広がる世界 ● 金 文京
日元間の戦争と交易 ● 中村 翼
日元間の僧侶の往来規模 ● 榎本 涉
モンゴル帝国と北の海の世界 ● 中村和之
元と南方世界 ● 向 正樹

V 研究の進展の中で

- 書き換えられた世界史教科書
― モンゴル II 元朝史研究進展の所産 ● 村岡 倫
史料の刊行から見た二十世紀末日本の元朝史研究 ● 森田憲司
〔コラム〕チンギス・カンは源義経ではない
― 同一人物説に立ちはだかる史実の壁 ● 村岡 倫
〔コラム〕モンゴル時代の石碑を探して
― 桑原臨蔵と常盤大定の調査記録から ● 渡辺健哉
〔コラム〕混一疆理歴代国都之図の再発見 ● 渡邊 久

〔編者紹介〕

櫻井智美（さくらい・さとみ）
明治大学文学部准教授。専門は宋元史、モンゴル帝国史。主な論文に「曹彬不嗜殺人——元代における曹彬故事の採用とバヤンの評価」（『明大アジア史論集』二二、二〇一九年）などがある。

飯山知保（いいやま・ともやす）
早稲田大学文学学術院教授。専門は中国華北社会史。主な著書に『金元時代の華北社会と科挙制度——もう一つの「土人層」』（早稲田大学出版部、二〇一一年）などがある。

森田憲司（もりた・けんじ）
奈良大学名誉教授。専門は中国近世社会文化史。主な著書に『概説中国史 上下』（共編、執筆、昭和堂、二〇一六年）などがある。

渡辺健哉（わたなべ・けんや）
大阪市立大学大学院文学研究科教授。専門は元代都城史・近代における日中學術交流史。主な著書に『元大都形成史の研究——首都北京の原型』（東北大学出版会、二〇一七年）などがある。

定価 **3,520** 円(税込)
本体 3,200 円

A5判並製カバー装・322頁
ISBN978-4-585-32502-4 C1322
2021年6月刊行

書名	部数
<p>元朝の歴史 モンゴル帝国期の東ユーラシア 〔アジア遊学No.256〕 櫻井智美・飯山知保・森田憲司・渡辺健哉〔編〕</p>	<p>定価 3,520 円(税込) A5判並製カバー装・322頁 2021年6月刊行 ISBN978-4-585-32502-4 C1322</p>
ご送付先ご住所（通信欄）	部

交錯する宗教と民族

鹿毛敏夫 [編]

交流と衝突の比較史

アジア遊学 257

混沌の歴史を紐解く

世界に多数存在する異宗教と多民族は、時に激しい対立や交流、融合を繰り返しながら、現代までの歴史を紡いできた。それらは、いかに顕在化しているのか。アジアとヨーロッパの東西における

人の移動と民族の越境・交流の実態、ヨーロッパ社会における政治と宗教の関係、

個々の人間の想いとその相克、さらにそこから相対化される

「国家」意識の具体的深層に迫る。

歴史学・文学・社会学・文化人類学・言語学・地域学・宗教学の分野から多角的に比較検証し、宗教・民族・国家間の共存のあり方を問い直す。



【編者紹介】

鹿毛敏夫 (かげとしお)

名古屋学院大学教授。専門は日本中世史。主な著書に『戦国大名の海外交遊』(勉誠出版、二〇一九年)、編著に『大内と大友——中世西日本の二大名』(勉誠出版、二〇一三年)、『描かれたザビエルと戦国日本——西歐画家のアジア認識』(勉誠出版、二〇一七年)、『戦国大名大友氏の館と権力』(共編、吉川弘文館、二〇一八年)などがある。

【目次】

はしがき 異宗教・多民族世界の混沌

——その歴史と現在——鹿毛敏夫

第1部 ● 流動する民族社会

鎌倉北条氏と南宋禅林——渡海僧無象静照をめぐる人びと……村井章介
ドイツ語圏越境作家における言語・民族・文化をめぐる……土屋勝彦
近代名古屋にとつての中東——実業界との関係を中心に……吉田達矢
民族をめぐる対立と交流の位相
——滞日ビルマ系難民の国際移動の事例から……人見泰弘

第2部 ● 宗教の断絶と叡智

ポグダレス化する世界と日本の宗教文化……井上順孝
ラダックのアイデンティティ運動

——もうひとつの「カシミール問題」……宮坂清

インドネシア・アチエ州のイスラーム刑法と人権……佐伯奈津子
宗教と平和——宗教多元社会における戦争……黒柳志仁

第3部 ● 個の相克と相対化される「国家」

戦国大名の「国意識」と「地域国家」外交権……鹿毛敏夫
日本中世の「暴力」と現代の「教育」……メイヨー・クリストファード
一亡命作家の軌跡・西欧キリスト教世界の対岸から
——ファン・ゴイティソローの

バルセロナ、サラエヴォ、マラケシュ……今福龍太

保育園で働く看護師の語りから考える多文化共生……梶原彩子

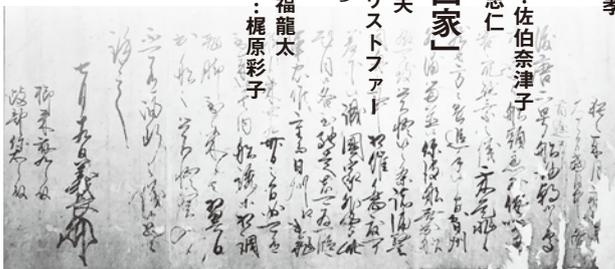


定価 二,〇八〇円(税込)
本体 一,八〇〇円

A5判並製カバー装・二三四頁

二〇二一年七月刊行

ISBN978-4-585-32503-1 C1320



書名	部数
交錯する宗教と民族 交流と衝突の比較史 鹿毛敏夫 [編]	部
定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・224頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32503-1 C1320	
ご送付先ご住所 (通信欄)	

水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志

編

【アジア遊学258】

史料が語る

東インド航路

移動がうみだす接触領域

十五世紀末から開拓され、ヨーロッパがアジアと出会った海上路、東インド航路。この航路は、大西洋を南下して、喜望峰を越え、アジア各地へと至る長距離ルートであった。以降、スエズ運河開通によりルートや移動手段が多様化するまで、多くの人やモノがこの航路を往来し、多数の記録簿や報告書、書簡、日記などの史料群が残された。

このような史料の書き手であった移動者であるヨーロッパ人と移動先のローカルな人々との関係は、航路上にあった「接触領域」コンタクト・ゾーン」の中で取り結ばれ、記録された。航路の変遷をたどり、そこに残された史料から、現地の人々の営みや関係性、特に奴隷や移動労働者といった可視化されにくい人々の輪郭を探る。

目次

はじめに ● 水井万里子・伏見岳志・大澤広晃

I 長距離航路からみる世界

東インド航路のなかのアフリカ ● 伏見岳志
 ケープ・ルートの多様化と
 オランダ東インド会社のケープ居留地建設 ● 和田郁子
 近代中国の誕生とロバート・モリソン ● 橋本真吾
 植民地をつなぎなおす ― スペインとポルトガルの帝国再編 ● 伏見岳志
 スペインとキューバ・アフリカをつなぐ
 非合法奴隷貿易のネットワーク ● 八嶋由香利

II 史料が描く接触領域としての島々

文書館史料を通じて人と出会う
 ● マダガスカル史研究史料としてのオランダ東インド会社文書
 ● イヴェト・ランジェヴァ・ラベタフィカ、ルネ・パーシユウ、
 ナタリー・エフアーツ（末永信義・訳）
 十八世紀末から十九世紀初頭のセント・ヘレナ島における移動と接触
 ― イギリス東インド会社関連史料から ● 水井万里子

III 史料のなかのケープ植民地

豊富なデータが開く歴史
 ● ケープ植民地の統計史料 ● ヨハン・フォォーリー（訳：末永信義）
 英領ケープ植民地における陸軍と関連史料 ― 一七九五―一八二〇年 ● 辻本諭
 十八―十九世紀前半の南部アフリカにおける
 イギリス系プロテスタント宣教師
 ● 移動史料研究の前提として ● 大澤広晃
 十九世紀前半の南部アフリカにおけるウエスリアン・メソヂイスト宣教師
 史料の特徴とそのナラティブ ● 大澤広晃

IV 変貌する東インド航路と帝国

ポスターのなかのアフリカの「自然」
 ● イギリス帝国通商局によるプロバガンダの環境史的考察 ● 宮内洋平
 オランダ領東インドにおける旅券制度の展開
 ● 植民地パスポートの様式と機能をめぐって ● 吉田信
 十九―二十世紀におけるフランス植民地帝国間の移動
 ● マルセイユ・サイゴン定期便 ● 岡田友和
 【コラム】旅券のスタンプから再現する植民地と本国の移動 ● 吉田信

【編者紹介】

水井万里子（みずい・まりこ）
 九州工業大学教授。
 専門は近世近代イギリス史。
 大澤広晃（おおさわ・ひろあき）
 法政大学文学部准教授。
 専門はイギリス史・イギリス帝国史。
 杉浦未樹（すぎうら・みき）
 法政大学経済学部教授。
 専門は近世都市流通消費史。
 吉田信（よしだ・まこと）
 南山大学国際教養学部教授。
 専門は国際関係論・植民地法制史。
 伏見岳志（ふしみ・たけし）
 慶應義塾大学商学部教授。
 専門は中南米および環大西洋史。



定価 3,080円(税込)
 本体 2,800円
 A5判並製カバー装・256頁
 ISBN978-4-585-32504-8 C1322
 2021年7月刊行

書名	部数
史料が語る東インド航路 【アジア遊学No.258】 移動がうみだす接触領域 水井万里子・大澤広晃・杉浦未樹・吉田信・伏見岳志【編】	定価 3,080円(税込) A5判並製カバー装・256頁 2021年7月刊行 ISBN978-4-585-32504-8 C1322
ご送付先ご住所（通信欄）	部

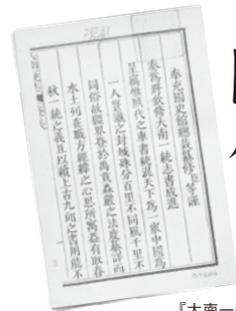
書物のなかの近世国家

東アジア「一統志」の時代

アジア遊学 259

王朝のすべてを志す

中国王朝が自らの領域の全体を明示すべく、各地域の歴史とデータを集積し作り上げた総合的書物「一統志」。
元・明・清において編まれたこれらの書籍は、東アジア諸国や欧州へも伝播し、
近代の地誌・歴史編纂にも影響を与えるものであった。
近代的領域認識の萌芽を体現するこれらの編纂物は、いかなる時代状況において作られたものであったのか。
編纂前史から、王朝三代にわたり編纂されたそれぞれの「一統志」のあり方、
周辺諸国や後代に与えた影響をも考察し、「一統志の時代」を浮かび上がらせる。



『大南一統志』

小二田 章 (こにた あきら)

早稲田大学文学学術院講師・専門は近世中国史

高井康典行 (たかい やすゆき)

早稲田大学文学学術院ほか非常勤講師・専門は契丹(遼)史

吉野正史 (よしの まさふみ)

明治大学兼任講師・専門は中国北方政治史

〔編〕

〔目次〕

序言——「一統志」の「時代」を語るために……小二田 章

1 ● 一統志以前

李吉甫の描く「一統」——『元和郡県図志』とその疆域……竹内洋介
宋朝総志編纂考——総志から方志へ……須江 隆

2 ● 大元一統志

元代における遼金代東北地域に対する地理認識の地域差
——『大元一統志』遼史』『金史』『大元混一方輿勝覧』の
地理記述の比較から……高井康典行

中国史上の「大一統」と「大元大一統志」……櫻井智美
『大元一統志』における路に関する記載について
——『大元一統志』輯本の理解のために……吉野正史

「コラム」宋元時代の道教と地誌——茅山の事例を中心に……酒井規史

3 ● 大明一統志

明代景泰——天順期の政局と一統志……高橋 亨
『大明一統志』人物伝とは——『遼東志』との関係を探る……荷見守義
『大明一統志』に関するいくつかの問題について……巴 兆祥(訳:小二田 章)

「コラム」元・明一統志の非中華世界へのまなざし……向 正樹

4 ● 大清一統志

明清期個人編全国志初探——大明から大清への「一統志」の道……小二田 章
北辺からみる『大清一統志』……柳澤 明
「コラム」ヨーロッパに伝えられた中国の地理情報
——『皇輿全覽図』の製作と宣教師の記録……澤 美香

5 ● 東アジアの一統志

中井竹山の名分論について

——他学派批判との関連を中心に……清水則夫
「津軽一統志」の編纂と弘前藩……長谷川成一
「文芸」の地誌から「口承」の地誌へ

——『信達風土雜記』と『信達一統志』……高橋章則
朝鮮近世の地理誌は誰のものだったのか……吉田光男
朝鮮燕行使の『大明一統志』輸入について……辻 大和

周縁から見た一統志——南の小中華と『大南一統志』……岡田雅志

6 ● 一統志のあなた

古典期(十〜十三世紀)イスラーム世界における地方史誌

——ウラマーの地方観と知的実践……森山史朗
——デンマークの国境設定一〇〇周年に寄せて……村井誠人

「コラム」清末民国期の地方史編纂——地域と宗族を記録すること……山田 賢
日本近世地誌の編纂と地名記載……白井哲哉

編集後記……小二田 章



『新增東国輿地勝覧』

定価 二,二〇〇円(税込)
本体 三,〇〇〇円
A5判並製カバー装・二八八頁
二〇二一年八月刊行
ISBN978-4-585-32505-5 C1322

書名	部数
書物のなかの近世国家 東アジア「一統志」の時代 【アジア遊学 259】 小二田 章・高井康典行・吉野正史 〔編〕	定価 3,300円(税込)・本体 3,000円 A5判並製カバー装・288頁 2021年8月刊行 ISBN978-4-585-32505-5 C1322
ご送付先ご住所 (通信欄)	

アヘンからよむ アジア史

アジア遊学 260

定価 二、〇八〇円(税込)
本体 二、八〇〇円

A5判並製カバー装・256頁
二〇二一年九月刊行
ISBN978-4-585-32506-2 C1320

内田知行
権 寧俊 [編]



知られざる、
薬物と国家権力の関係

嗜好品・薬劑・媚薬として

古くから人々に摂取されてきたアヘンは、
主要財源として、東インド会社の世界進出を支え、
戦前戦中は日本の統治者を魅了した。

アヘンはいかにしてアジア諸国を蹂躪したのか？
植民地統治の影に隠された二律背反の国家戦略とは？
複雑な交易ネットワークと官僚、商人、兵士、
民間人による生産・流通・消費の実態を示し、
また、現代にもつながるアヘン中毒、密輸入、
腐敗政治といった負の側面にも着目しながら、
植民地統治と近代的な経済発展の過程を
通史的に描き出す。

【編者紹介】

内田知行 (うちだ ちともゆき)

大東文化大学名誉教授。専門は中国近現代史。著書に『黄土の大地一九三七―一九四五―山西省占領地の社会経済史』(創土社、二〇〇五年)、『歴史家が語るガイドブックにはない世界の旅』(創土社、二〇一七年)など。

権 寧俊 (こん ねいじゅん)

新潟県立大学国際地域学部教授。専門は東アジア国際関係史、国際社会学。著書に『歴史・文化からみる東アジア共同体』(編著、創土社、二〇一五年)、『朴槿恵「阿片帝国日本と朝鮮人」』(小林元裕、吉澤文寿と共訳、岩波書店、二〇一八年)など。

【目次】

まえがき…内田知行

I アヘンをめぐる近代アジアと西洋

アヘンをめぐるアジア三角貿易とアヘン戦争…権 寧俊
オランダ領東インドとイギリス領マラヤにおけるアヘン問題…大久保翔平
「コラム」十八世紀以前のアジアにおけるアヘン…大久保翔平
フランス領インドシナのアヘン…関本紀子
「コラム」イギリス領インドとアヘン…杉本 淨

II 日本植民地・占領地のアヘン政策

植民地台湾のアヘンと国際アヘン問題…桂 学松
植民地朝鮮におけるアヘン政策…権 寧俊
関東州及び満洲国のアヘン政策…朴 敬玉
蒙疆政権のアヘン…堀井弘一郎
「コラム」満蒙「蒙疆」とはどこか？…堀井弘一郎
「コラム」東亜同文書院生の大旅行誌
—一〇〇年前の学生フィールドワーク…関本紀子
裁かれた日本のアヘン・麻薬政策…小林元裕

III 現代の薬物問題

現代日本の薬物問題…真殿仁美
「コラム」多様な視点が求められる日本の薬物防止教育…真殿仁美
— 中華人民共和国の薬物問題
— 国際社会における薬物を取り巻く動きが変化するなかで…真殿仁美
「コラム」ネットワーク化する中国の薬物犯罪組織
— 対岸の火事ではない…真殿仁美
「コラム」韓国芸能界の大麻問題…権 寧俊
「コラム」ベトナムの薬物汚染事情…関本紀子
現アフガニスタンのアヘン問題…内田知行
なぜ自然保護区は麻薬取引を助長するのか
— 中米コスタリカの事例から…武田 淳

あとがき…内田知行



書名	アヘンからよむアジア史 [アジア遊学 260] 内田知行・権寧俊 [編]	部数	部
ご送付先ご住所 (通信欄)		定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・256頁 2021年9月刊行 ISBN978-4-585-32506-2 C1320	部

古典は遺産か？

アジア遊学 261

日本文学にみける テキスト遺産の利用と再創造

Edoardo GERLINI [編]
河野貴美子

定価 二,〇八〇円(税込)
本体 二,八〇〇円

A5判並製カバー装・240頁
二〇二一年十月刊行
ISBN978-4-585-32507-9 C1395

古典テキストが伝える 人々の営為

人びとが過去から現在へと紡ぎ、
伝えてきたテキスト——「古典」。

古典を「遺産」という概念から捉えかえし、
所有性、作者性、真正性の観点から
テキストそのものや、

それらにまつわる行為や意識を歴史的に考察。

さらに、古典と社会との関係性を照らし出す

「テキスト遺産」という概念のポテンシャルを、

文学研究と経済学・文化交流史など

諸分野の視角を重ね合わせるにより提示。

文字と書物の文化研究を

新たなステージへと領導する画期的成果。

【編者紹介】

Edoardo GERLINI (エドアルド・ジェルリーニ)

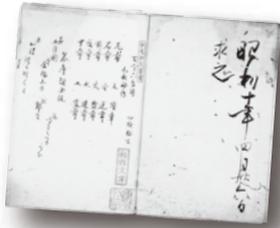
ヴェネツィア・カフオスカリ大学アジア・北アフリカ学科学研究員(兼 早稲田大学

総合人文科学研究センター) 角田柳作記念国際日本学研究所招聘研究員。

専門は日本中古文学(特に和歌と漢詩)、比較文学。

河野貴美子 (こうの きみこ)

早稲田大学文学学術院教授。専門は和漢比較文学、和漢古文書研究。



【目次】

序言… Edoardo GERLINI

【緒論】なぜ「テキスト遺産」か… Edoardo GERLINI

I ● 所有性

書物およびテキストの所有性における奥書の役割について… 佐々木孝浩
テキスト、パラテキスト、秘儀伝受
—— テキストを所有するとはどのような行為なのか？… 海野圭介

光格天皇と本居宣長——御所伝受と出版メディアをめぐって… 盛田帝子
【コラム】テキストの蒐集、収蔵、継承と「遺産化」のこと
—— 王羲之の書を例として… 河野貴美子

II ● 作者性

物語における「作者」の発生… 兵藤裕己

近世中期における「テキスト遺産」と「作者」… 飯倉洋一

【コラム】「作者」はいつ成立するか——日本上代の事例から… 高松寿夫

III ● 真正性

『枕草子』におけるテキストの真正性… 陣野英則

古典的公共圏の春——西円の源氏注釈をめぐって… 前田雅之

近世日本における『蒙求』の音声化——漢字音と連続性… 山本嘉孝

【コラム】仏教経典テキストの真正性と享受者
—— 古典文学テキストとのつながり… 阿部龍一

【特別寄稿】テキスト遺産としての古筆手鑑… Edward KAMENS

IV ● テキスト遺産の広がり

明石における龍宮イメージの形成

—— テキスト遺産としての『源氏物語』と『平家物語』をつなぐ夢… 荒木浩

【コラム】テキスト遺産としてのモニュメント
—— 平時子の例… Roberta STRIPOLI

—— 文化政策の視点から… 佐野真由子

【コラム】日本の文化経済政策

—— テキスト遺産を中心にみる現状と課題… 林原行雄

蜘蛛の巣としての電子テキスト——その来歴と現在… 稲賀繁美

テキスト遺産とは何か… Edoardo GERLINI・河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

あとがき… 河野貴美子

書名	部数
古典は遺産か？ 日本文学にみけるテキスト遺産の利用と再創造 Edoardo GERLINI・河野貴美子 [編]	定価 3,080円(税込)・本体2,800円 A5判並製カバー装・240頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32507-9 C1395
ご送付先ご住所 (通信欄)	

資料論がひらく 軍記・合戦図の世界

アジア遊学 262

井上泰至「編」

理文融合型資料論と史学・文学の交差

【目次】

カラー口絵

序文：井上泰至

I ● 理文融合型資料論の実践

コディコロジー(文理融合型総合典籍学)の実践(基調講演)：石塚晴通

「コメント」：佐々木孝浩

『聚楽行幸記』の写本学：竹内洪介

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

豊臣秀吉冊封関連史料に紙質から迫る

——三通の明国兵部御付原本の検討：須田牧子

「コメント」：佐々木孝浩・堀新

計量テキスト分析を用いた戦国軍記の分類：山本洋

「コメント」：湯浅佳子・入口敦志

デジタル技術による合戦図屏風の再生

——大坂冬の陣図屏風 模本のデジタル想定復元について：薄田大輔

「コメント」：湯浅佳子・黒田智・入口敦志

草双紙における上紙摺の意義：佐藤悟

近世彩色絵画資料における色材の分析：日比谷孟俊・大和あすか

II ● 史学と文学研究の交差 —— 十七世紀の軍記と関連資料への視座

山内首藤氏の「討死」と『平治物語』『平治物語絵巻』『平治合戦図屏風』：川合康

天正十六年『聚楽行幸記』の成立について：遠藤珠紀

古活字版『帝鑑図説』再考 —— 『帝鑑図説』は本当に(秀頼版)か：高木浩明

南庵『信長記』とその周辺 —— 『太平記秘伝理尽抄』との関わり：湯浅佳子

『慶長治乱記』にみる関ヶ原合戦軍記の展開：林晃弘

III ● 兵学と有職学 —— 十九世紀の軍記と関連資料の展開

田安宗武の武家故実研究 —— 『軍器摘要抄』をめぐって：高松亮太

旧海軍兵学校蔵鷲見文庫『兵家系図』をめぐって：井上泰至



【編者紹介】

井上泰至 (いのうえ やすし)

防衛大学教授。専門は日本近世文学。

主な著書に『近世刊行軍書論』(笠間書院、二〇一四年)、『近世日本の歴史叙述と対意識』(編著、勉誠出版、二〇一六年)、『関ヶ原はいかに語られたか』(編著、勉誠出版、二〇一七年)、『関ヶ原合戦を読む——慶長軍記 翻刻・解説』(勉誠出版、二〇一八年)などがある。



定価 三,520円(税込)・本体三,200円
A5判並製カバー装・口絵12頁+本文224頁
二〇二一年十月刊行
ISBN978-4-585-32508-6 C1321

書名	資料論がひらく軍記・合戦図の世界 理文融合型資料論と史学・文学の交差 【アジア遊学 262】	部数	部
価格	定価 3,520円(税込)・本体3,200円		
内容	A5判並製カバー装・口絵12頁+本文224頁 2021年10月刊行 ISBN978-4-585-32508-6 C1321		
送料	ご送付先ご住所(通信欄)		